

會長代理(大森委員) 御質問、若クハ御意見ヲ此ノ際ドウゾ願ヒマス。

津島委員 此ノ罰ヲ重クスルト云フコト、ソレカラ行政上ノ取締ノ機關、取締ノ機關ト云フノハ役人ヲ増加スルト云フヤウナ、コレハ實行上ノ問題デスガ、サウ云フコトハ御考ヘニナツテ居リマスカ。

西龜衛生課長 別ニ計畫ハゴザイマセヌ。

津島委員 特別ナ經費ガ之レガ爲ニ要ルト云フヤウナコトハ先ツナイ譯デゴザイマスカ。

西龜衛生課長 今ノ所ゴザイマセヌ。

栗山委員 此ノ問題ニ關聯致シマシテ外務省側ノ希望ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、最近國際聯盟ノ方面ニ於キマシテ、日本ノ麻藥取締規則ノ罰則ガ輕キニ失スルト云フ聲ヲ頻リニ聞クノデアリマス、此ノ折柄朝鮮總督府ノ御當局ガ、現在ノ總督府令ニ依ル取締ノ不徹底ヲ御認メニナリマシテ、制令ヲ以テ臨マル、ニ至ツタコトハ、私共カラ見マシテ誠ニ機宜ニ適シタル御措置ト存ジテ居リマスルニ依ツテ、外務省側ト致シマシテハ之ニ欣然賛成ヲ致ス次第デアリマス。朝鮮ハ麻藥ニ關シマシテハ内地及ビ其ノ他ノ植民地トハ違ツタ特殊ノ事情ガアリマスルノデ、斯ウ云フ御處置ヲ執ルニ至ツタコトト考ヘルノデアリマスガ、内地及ビ其ノ他ノ植民地御當局ニ於カレテモ、麻藥中毒者ノ發生防遏ト云フ衛生的見地ノミデナク、麻藥ノ不正取引取締ト云フ見地カラ致シマシテモ、現在ノ取締規定ガ果シテ十分ナモノデアルカドウカト云フコトヲ篤ト御研究ヲ願ヒタイト思フノデアリマス。

ス、サウシテ若シソレガ不十分デアルト云フコトヲ御認メニナリマシタナラバ、此ノ朝鮮總督府ノ先例ニ倣ハレンコトヲ希望スル次第デアリマシテ、殊ニ關東州デハ支那ト滿洲トヲ控ヘテ、麻藥ノ密製造、密取引ガ最近可成リ多クナリツ、アル傾向ガアルト云フヤウニ聞及ンデ居ルノデアリマシテ、果シテ左様ナコトデアリマスレバ、現在ノ關東廳令ヲ一段進メテ、例ヘバ勅令ト云フヤウナ形ニセラレテ、罰則ノ程度ヲ引上グルト同時ニ、取締ノ徹底ヲ期スルト云フ風ニセラレル必要ガアルノデハナイカト窃ニ考ヘテ居ル次第デアリマス。只今申上ゲマシタコトハ外務省側ノ希望デアリマシテ、此ノ席デ直チニ御關係ノ向キカラ別ニ御説明ヲ承ルト云フ趣旨デハナイノデゴザイマスケレドモ、外務省側ト致シマシテハ本案ニ御賛成ヲ致シマス同時ニ、只今申上ゲタヤウナ希望ヲ申述ベテ置キタイト思ヒマス。

西龜衛生課長 尙ホ一言申述ベテ置キマスガ、朝鮮ニ現在ノ如ク多數ノ麻藥中毒者ガ發生致シテ居リマスル其ノ因ハ、鮮外カラ朝鮮ニ不正ニ輸移入サレル所ノ麻藥ニ依ルノデアリマス、斯ノ如ク不正ニ流レ込ミマシタル麻藥ヲ、其ノ次ノ小賣的ノ密賣者ガ鮮内ニ之ヲ撒布致スト云フ關係デアリマシテ、之等ノ不正ノ取引者ハ現在ノ程度ノ處罰ト云フモノハ殆ド問題ニシナイデ、法ノ制裁ヲ受ケルコトヲ覺悟シテ犯罪ヲ重ネ々々ヤツテ居ルヤウナ状態デゴザイマス、ズツト以前ニ朝鮮ニ來マシタル麻藥ノ元ハ、主トシテ内地、殊ニ大阪方面カラ鮮内ノ密賣者ト不正ノ商人トガ連絡ヲ執リマシテ、



極メテ巧妙ナル手段ヲ以テ朝鮮ニ入レテ居ツタノデゴザイマスガ、關係當局トノ協力ニ依リマシテ、之等ノ内地カラノ不正輸移入ハ餘程減少致シテ居ルノデアリマス、所ガ先刻御話ガゴザイマシタ如ク滿洲ニ於ケル麻薬ノ密工場ノ簇出、此ノ不正ノ賣捌ト云フモノハ想像以上ノモノデゴザイマシテ、最近ニ至リマシテハ滿洲方面ト連絡ヲ執ツテ鮮内ニ斯カル不正ノ密輸入ヲ企テルモノガ相當アルノデアリマス、一、二年前ニ既ニ數件相當大キイモノヲ檢舉致シテ居ルノデアリマスガ、之等モ此ノ處罰ガ極メテ輕イガ爲ニ、矢張り此ノ犯罪ヲ敢行スルノデゴザイマス、デスウ云フ意味カラ致シマシテモ重刑ヲ以テ臨マネバナラヌト云フ現状ニアルノデゴザイマス

會長代理(大森委員) 御意見ハ如何デゴザイマスカ、逐條デ致シマセシテ一括シテ御審議ヲ願ツテ居リマスカラ、御異議ガゴザイマセスケレバ原案通り決定ヲ致シタイト存ジマス、如何デゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

會長代理(大森委員) 御異議ナイモノト認メマシテ左様ニ決定ヲ致シマス、之ニテ閉會ヲ致シマス、御苦勞様デゴザイマシタ

午後二時四十三分 散 會



議案

朝鮮麻藥取締令案

- 第一條 本令ニ於テ麻藥ト稱スルハ左ノ各號ニ掲グル物ヲ謂フ
- 一 モルヒネ及チアセチルモルヒネ其ノ他ノモルヒネエステル竝ニ其ノ鹽類
  - 二 粗製モルヒネ、コカ葉及粗製コカイン
  - 三 エクゴニン（比旋光度ノ如何ヲ問ハズ）及コカイン其ノ他ノエクゴニンエステル竝ニ其ノ鹽類
  - 四 チヒドロオキシコデイノン、チヒドロコデイノン、チヒドロモルヒノン、アセチルチヒドロコデイノン、チヒドロモルヒネ及其ノエステル竝ニ其ノ鹽類
  - 五 コデイン、エチルモルヒネ、ベンジルモルヒネ其ノ他ノモルヒネエーテル及其ノ鹽類
  - 六 モルヒネエスオキシド其ノ他ノ五價窒素モルヒネ及其ノ誘導體
  - 七 チヒドロコデイン、テバイン及其ノ鹽類
  - 八 モルヒネ、モルヒネエステル（チアセチルモルヒネヲ除ク）若ハモルヒネエーテル（コデインヲ除ク）ヲ千分中二分以上檢出シ又ハチアセチルモルヒネヲ檢出スル物



九 エクゴニン又ハコカイン其ノ他ノエクゴニンエステルヲ千分中一分以上検出スル物

十 デヒドロオキシコデイノン、デヒドロコデイノン、デヒドロモルヒノン、アセチルデヒドロコ

デイノン、デヒドロモルヒネ若ハ其ノエステル又ハ五價窒素モルヒネ若ハ其ノ誘導體ヲ千分中二

分以上検出スル物

十一 印度大麻草、其ノ樹脂及之ヲ含有スル物

十二 朝鮮總督ノ指定スル物

前項第一號乃至第十一號ニ該當スル物ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノニ付テハ本令ヲ適用セズ

第二條 本令ニ於テ醫業者ト稱スルハ醫師、醫生、齒科醫師及獸醫師ヲ謂ヒ藥業者ト稱スルハ藥劑師、藥種商及製藥者ヲ謂フ

第三條 朝鮮總督ノ指定スル麻藥ハ政府ノ外之ヲ製造、輸入又ハ移入スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ學術研究ノ用ニ供スル爲朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ之ヲ適用セズ

第四條 前條第一項ニ規定スル麻藥ハ朝鮮總督ノ指定スル麻藥元賣捌人ニ之ヲ賣下グ

官廳、官公立ノ病院若ハ學校又ハ道ハ前條第一項ニ規定スル麻藥ノ賣下又ハ交付ヲ受クルコトヲ得

第五條 麻藥ヲ輸出若ハ移出シ又ハ第三條第一項ニ規定スル麻藥以外ノ麻藥ヲ製造、輸入若ハ移入セントスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第六條 外國貨物タル麻藥ヲ陸揚、積換、積戻又ハ運送セントスル者ハ税關手續ヲ爲ス際送荷ニ添送セル輸出許可證又ハ轉向證明書ノ謄本ヲ税關長ニ提示スベシ外國貨物タル麻藥ヲ通過セシメントスル者亦同ジ

前項ノ規定ハ郵便ニ依ル輸送ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ麻藥ハ其ノ輸出許可證又ハ轉向證明書ノ謄本ニ記載シタル仕向地ト異ナル場所ニ輸送シ又ハ税關長ノ許可ヲ受ケズシテ荷造ノ變更其ノ他ノ操作ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 麻藥ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ズ

一 醫業者ガ診療ノ爲又ハ藥劑師ガ醫業者ノ處方箋ニ依リ患者又ハ家畜ノ所有者若ハ保管者ニ讓渡ス場合

二 麻藥元賣捌人又ハ藥業者ヨリ醫業者、藥業者又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ學術研究ノ用ニ供スル爲若ハ業務上麻藥ヲ必要トスル者ニ讓渡ス場合

三 麻藥元賣捌人又ハ藥業者ヨリ官廳、官公立ノ病院若ハ學校又ハ道ニ讓渡ス場合

第八條 麻藥元賣捌人、醫業者、藥業者又ハ業務上麻藥ヲ必要トスル者死亡シ、廢業シ其ノ他業務ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキノ麻藥ノ處分ニ付テハ朝鮮總督之ヲ定ム



第九條 當該官吏取締上必要アリト認ムルトキハ工場、店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ麻藥、帳簿、書類其ノ他ノ物件ノ検査又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第十條 朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ麻藥ノ製造、輸入、移入、輸出若ハ移出ヲ禁止若ハ制限シ又ハ其ノ許可若ハ第四條第一項ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第十一條 朝鮮總督ハ本令ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ道知事ニ委任スルコトヲ得

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者

二 許可ヲ受ケズシテ麻藥ヲ輸出又ハ移出シタル者

三 許可ヲ受ケズシテ第三條第一項ニ規定スル麻藥以外ノ麻藥ヲ製造、輸入又ハ移入シタル者

四 第十條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シテ麻藥ヲ製造、輸入、移入、輸出又ハ移出シタル者

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ受ケズシテ學術研究ノ用ニ供スル爲麻藥ヲ製造、輸入又ハ移入シタル者

二 輸出許可證若ハ轉向證明書ノ謄本ヲ稅關長ニ提示セズシテ外國貨物タル麻藥ノ陸揚積換積戻運送ヲ爲シ若ハ之ヲ通過セシメタル者又ハ第六條第三項ノ規定ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル當該當官吏ノ臨檢若ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ其ノ他當該官吏ノ爲シタル處分ニ違反シタル者

第十五條 第十二條、第十三條又ハ前條第一號ノ場合ニ於テ犯人以外ノ者ニ屬セザル麻藥ハ之ヲ沒收ス犯人ノ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス犯人以外ノ者ニ屬スル麻藥ハ行政官廳ノ處分ヲ以テ之ヲ沒取スルコトヲ得

第十六條 醫業者又ハ藥業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第十七條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ル罰則ヲ適用スベキ者法人ナルトキハ理事、取締役、其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ



附 則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

理 由

朝鮮ニ於ケル麻藥取締ノ徹底ヲ圖リ以テ麻藥類中毒者ノ根絶ヲ期スルノ必要アルニ由ル



昭和十二年三月

第七回、第八回及第九回委員會報告

秘

阿片委員會







阪本、小長谷、白松、安香、安田、赤木、山越各幹事  
伊原、保見、豊田各書記

## 議事速記録

會長代理(赤木委員) ソレデハ只今カラ開會ヲ致シマス、本日ハ會長御差支ノ爲ニ見エラレマセヌノ  
デ、私ガ暫ク司會ヲスルコトニ致シマス、左様御承知ヲ願ヒマス。

### 〔伊原書記議案朗讀〕

岡田委員 議題ニ付キマシテ私カラ大體ノ所ヲ簡單ニ御説明申上ゲタイト思ヒマス、來月九日カラ「ジ  
ユネーヴ」ニ於キマシテ、麻藥不正取引防止ニ關スル條約ノ審議ノ爲ニ、各國代表者ガ會合スルコ  
トニ相成ツタノデアリマシテ、同條約案ニ對スル我國ノ意見ヲ本委員會ニ於テ御決定ヲ願ヒタイト  
云フノデ、内務大臣カラ只今朗讀ノヤウナ御諮問ガアツタ次第デアリマス、本條約ハ現在締結サレ  
テ居リマスル一九一二年ノ「ヘーグ條約、一九二五年ノ壽府條約及ビ一九三一年ノ麻藥ノ製造制限  
及分配取締ニ關スル條約ノ補充的ノ條約デアリマシテ、麻藥不正取引ヲ國際的犯罪ト見マシテ、各  
國ガ協力シテ之ガ禁遏ニ當ルト云フ趣旨ノモノデアリマス、本條約ノ主要條文ハ十三箇條デアリマ  
スガ、其ノ趣旨ヲ掻摘マシテ申上ゲテ見マス、左ノ八點ニ歸スルノデアリマス。

第一ハ麻藥ニ關スル主要ナル犯罪ハ、之ヲ體刑ヲ以テ處罰スルト云フコトデアリマス、第二ハ麻藥  
ニ關スル主要犯罪ハ縱ヒ其ノ一部ガ自國外ニ行ハレタ場合ト雖モ、之ヲ一箇ノ犯罪トシテ處罰スル



ハ云フコトナリマス、第三ハ麻薬ニ關スル主要犯罪ハ、其ノ未遂及モ豫備ヲモ處罰スルコト云フコト、第四ハ自國ノ刑罰ニ於テ麻薬ニ關スル罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ、自國ノ刑罰法令ノ適用ハ、自國ノ刑罰法令ノ適用ニ對シテ、第五ハ麻薬ニ關スル罪ニ對シテ、第六ハ麻薬ニ關スル主要犯罪ヲ構成スル物件モヤシクハ、當然引渡犯罪人トシテ扱フコト云フコト、第六ハ麻薬ニ關スル主要犯罪ヲ構成スル物件ハ之ヲ沒收スルコト云フコト、第七ハ麻薬ニ關スル不正取引禁遏ノ方針ヲ徹底セシムル爲ニ、國內及外國外ヘノ連絡機關トシテ中央廳ヲ設置スルコト云フコト、第八ハ司法其助應託者ノ送達方法、コレ等ノ點ニ付テ規定ヲ致シテ居ルコトナリマス、我國ハ地理的ノ關係カラ申シマシテ、本條約ノ適用ニ關シテハ、海陸交通ノ便ナリマス、條約ノ趣旨其モノニハ何等反對スベキ點ガナクテ、海陸交通ノ便ガ成立ニ協力スルコトガ、國際信用ヲ高ムル上カラ申シマシテモ望ムベキコトナリマス、又我國ニハ全然關係ノナキ條項モアリマス、以上申述ベマシタ趣旨ニ依リテ、諸問題ニ付テ御審議ヲ願ヒマシテ、適當ノ御議決ヲランコトヲ希望スル次第アリマス、尙ホ御質問ニ應ジマシテ幹事ノ方カラ詳細御答ヘ申上ゲル考デアリマス。

會長代理(赤木委員) 御質疑ガアリマシタナラバ此ノ際ニ願ヒタイト思ヒマス、——別ニ御質疑ガゴ

ザイマセスケレバ、本案ニ付テノ御意見ノ御發表ヲ願ヒタイト思ヒマス。

井坂委員 本案ハ先刻趣旨ヲ説明サレマシタガ、誠ニ當然過ギル程當然ダト思ヒマス。

會長代理(赤木委員) 本案ハ此ノ通りデ御異議ゴザイマセスカ。

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ」

會長代理(赤木委員) ソレデハ本案ニ付テハ別段御意見モナイヤウデゴザイマスカラ、本案ノ通り決定致シマシテ、之ニ依ツテ代表委員ニ訓令ヲ致スコトニ致シタイト思ヒマス、尙愈々會議ノ際ニハ之ニ關聯シテ、此ノ訓令ノ趣旨ニ從ツテ代表ニヤラセル譯デアリマスガ、臨時ノ問題ガ或ハ起ルカト思フノデアリマス、左様ノ際ニ訓令ヲ致シマス場合ニ、再ビ此ノ會議ヲ開クト云フコトハ、恐ラク間ニ合ハナイコトデアラウト存ジマスルノデ、左様ノ際ニハ關係省官吏ノ方々ト打合セヲ致シマシテ、此ノ委員會ヲ開カナイデ處置致スト云フコトニ豫メ御承知置キヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレデハ本案ハ左様ニ決定致シマス、之ヲ以テ本日ハ散會致シマス、御苦勞様デゴザイマシタ。

午後二時十分散會



〔議案〕

麻薬不正取引防止ニ關スル國際條約案審議ノ爲ノ專問委員會議ニ關スル方針

第一條約草案ニ對シテハ左記ニ依リ處置スルコト

第一條

- 一、第一項ノ列舉事項中ニ「採取」ナル字句ヲ挿入セシムルコト
- 二、第一項ハ體刑ノ外罰金刑ヲ選擇的ニ科スルコトヲ禁ズル趣旨ニ非ザルモノト解スル旨表明スルコト
- 三、第二項ノ意味明白ナラザルニ付具體的實例ニ付テ其ノ意味ヲ確カムルコト

第二條

- 一、我國ハ前科ノ國際的承認主義ヲ認ムル國ニ非ザル旨ヲ表明スルコト

第三條

- 一、第一項ハ當該犯罪ニ付既ニ他ノ國ニ於テ處罰セラレタル場合ニ於テハ第十二條ノ規定ニ依リ我國ニ於テ必ズシモ之ヲ訴追シ處罰スルノ義務ヲ負フモノニ非ザルコトト解釋スル旨表明スルコト
- 二、第二項ノ意味明白ナラザルニ付具體的實例ニ付テ其ノ意味ヲ確カムルコト



第四條

一、我國ハ國內法上國外ニ於テ犯サレタル犯罪ヲ訴追スル主義ヲ一般原則トシテ認ムル國ニ非ザル旨表明スルコト

第五條

一、第四項中「締約國又ハ其ノ裁判所」トアルヲ「締約國」ト改メシムルコト

第六條

- 一、「不正取引ニ使用セラルル藥品、物質及物件」トアルヲ「第一條ニ掲ゲラルル犯罪ニ使用セラルル藥品、物質及容器其ノ他ノ物件」ト改メシムルコト
- 二、本條ノ沒收及押收ハ司法處分タルト行政處分タルトヲ問ハザル趣旨ナリヤヲ確カムルコト
- 三、本條ハ第十二條ノ規定ニ依リ國內法上ノ定ムル處ニ從ヒ押收及沒收セザル場合アルモノト解スル旨表明スルコト

第七條

一、本條ノ中央應ハ地理上ノ關係其他ノ理由ニ依リ二以上設クルコトヲ妨グルモノニ非ザルモノト解スル旨表明スルコト

第十條

一、第一項中(ハ)號ノ次ニ「猥褻刊行物ノ流布及取引ノ禁止ノ爲ノ國際條約」ト同様(ニ)外交手續」ノ一號ヲ加ヘシムルコト

二、第七項中「其ノ法律ノ範圍ヲ超ヘテ司法事務共助囑託書ヲ施行スルノ約ヲ爲スモノト解セラ  
ルルコトナシ」トハ我國ニ於テハ書類ノ送達及證據調以外ノ事項ニ付事務ノ共助ヲ爲ス義務ナ  
キ意味ヲ包含スルモノト解スル旨表明スルコト

第二 本條約ハ我國ガ他國ニ對シ現ニ有スル治外法權ニ何等影響ヲ及ボスモノニ非ズトノ見解ヲ堅持  
シ萬一右ニ反スルガ如キ意見出デタル場合ニハ之ニ反對スベク必要アラバ其ノ都度請訓スルコト







同 湯 澤 三 千 男  
 同 挾 間 茂  
 阪本、小長谷、龜山、宮崎、安香、谷口、佐藤、安田、  
 赤木、山越各幹事  
 伊原、保見、豊田各書記

# 議事速記録

潮會長 之ヨリ阿片委員會ヲ開會致シマス、今日ノ議題ハ書記カラ一應朗讀ヲ致サセマス。

## 〔伊原書記朗讀〕

龜山幹事 只今朗讀致シマシタ國際條約案中、御手許ニ配リマシタ案ノ中ニ誤リガゴザイマスカラ、御訂正ヲ願ヒマス、ソレハ第一條第三項ノイ號中、「該行爲ノ各ハ獨立ノ行爲ト看做サルヘシ」、是ハ「獨立ノ犯罪ト看做サルヘシ」ト御訂正ヲ願ヒマス、ソレカラ第四條ノ第一項ニ「右ニ對スル處罪」トアリマスノハ、「處罰」ノ誤リデゴザイマス、ソレカラ第七條ハ、或ハ訂正濟カト思ヒマスガ、第七條ノ第一項ヲ斯ウ云フ風ニ御直シヲ願ヒタイ、「本條約ニ依ル義務ノ履行ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ各締約國ハ若シ既ニ之ヲ設ケ居ルニアラザレバ國內法ノ範圍内ニ於テ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ヲ防遏スル爲ニ必要ナル行動ヲ監視及調整シ且斯ノ如キ行爲ヲ犯シタル者ヲ訴追スル爲手續ヲ講ズルコトヲ確保スルノ任ニ當ル中央應ヲ設クベシ」、斯様ニ御訂正ヲ願ヒマス、即チ末段ノ方ヲ「防遏スル爲ニ必要ナル行動ヲ監視及調整シ且斯ノ如キ行爲ヲ犯シタル者ヲ訴追スルノ任ニ當ル中央應ヲ設クベシ」、左様御訂正ヲ願ヒマス、ソレカラ第八條中第二項ニ「中央應ハ其ノ有益ト信ズル範圍内ニ於テ左記ヲ」トアリマスノヲ「左」ヲト改メ、「記」ノ字ヲ御削リ願ヒタイト存ジマス。



潮會長 只今朗讀致シマシタ議題ノ内容ニ付キマシテ、衛生局長カラ説明ヲ致サセマス。

挾問委員 只今議題トナツテ居リマスル諮問案ニ付キマシテ、簡單ニ御説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、本年ノ六月八日カラ瑞西ノ「ジュネーヴ」ニ於キマシテ、危險藥品ノ不正取引防止ニ關スル國際條約ヲ締結スル爲ニ、國際會議ガ開催セラルルコトニナツテ居リマスノデ、此ノ條約案ニ對シマシテ我國ノ方針ヲ決定スルノ必要ガアリマス、其ノ決定ニ付キマシテ本委員會ノ御審議ヲ御願ヒ致シタイト存ジタノデアリマス、此ノ關係ヨリ致シマシテ、只今委員會書記カラ朗讀致シマシタ様ナ御諮問ガ内務大臣カラアツタノデアリマス、今回締結セントシテ居リマス條約ハ、麻藥ノ不正取引ヲ國際犯罪トシテ、各國ガ協力致シマシテ其ノ禁遏ニ當ルコトヲ趣旨ト致スモノデアリマス、此ノ麻藥ニ付キマシテハ曩ニ一九一二年ノ「ヘーグ條約」、一九二五年ノ「ジュネーヴ條約」、ソレカラ一九三一年ノ麻藥ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ガゴザイマスルガ、何レモ是ハ既ニ締結セラレテ居リマシテ、尙ホ我國ハ此ノ何レニモ加盟致シテ居ルノデアリマス、只今朗讀ニナリマシタ此ノ不正取引防止ニ關スル國際條約ハ、此ノ三條約ニ對シテ補足的ノ性質ヲ有スルモノデアリマス。本條約ノ主要條文ハ、只今朗讀サレマシタ通り十三箇條デゴザイマスガ、其ノ要領ハ前回ノ阿片委員會、此ノ會ガ昨年十一月十八日ニ開催ニナリマシテ、其ノ際ニ關係當局ヨリ委細申上ゲテ居ルノデゴザイマスガ、其ノ後多少ノ修正モアリマシタノデ、其ノ點ヲ加味致シマシテ更ニ説明ヲ補足致

シテ置キタイト思フノデアリマス。

ソコデ此ノ本條約ノ要領ヲ申上ゲマスト、大體次ノ八點ニ歸着スルヤウニ存ジマス、第一ハ麻藥ノ不正取引ニ關スル主要ナ犯罪ハ之ヲ嚴重ニ且ツ體刑ヲ以テ處罰スルト云フコトデゴザイマス、第一條ノ第二項ニ「之ヲ嚴重ニ殊ニ投獄又ハ其ノ他ノ形式ニ依ル自由刑ニ依リ處罰スル爲必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス」斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマス。第二ハ麻藥ノ不正取引ニ關スル主要ナ犯罪ノ一部ガ他ノ國デ行ハレマシタ場合デモ、之ヲ獨立ノ犯罪トシテ處罰スルト云フコトデゴザイマス、第一條以下方々ニ其ノ關係ノ規定ガ現レテ居リマス、第三ハ麻藥ノ不正取引ニ關スル主要ナル犯罪ハ、其ノ未遂竝ニ準備行爲ナドモ何レモ處罰ラスルト云フコトデゴザイマシテ、第一條第二項ニ其ノ規定ガ現ハレテ居リマス、第四ノ點ハ自國人ガ他ノ國ニ於テ麻藥ノ不正取引ニ關スル罪ヲ犯シマシテ、而モ處罰セラルルコトナクシテ歸ツテ參リマシタ場合ニ於キマシテ、自國ノ刑罰法令ノ原則ト矛盾致シマセス限リニ於キマシテ、自國ノ法令ヲ以テ之ヲ處罰スルト云フコトデゴザイマス、第三條ニ其ノ趣旨ガ現レテ居リマス、第五ハ麻藥ノ不正取引ニ關シマシテ、犯罪人引渡條約ガ締結サレテ居リマスカ、或ハ又其ノ條約ガナクテモ、犯罪人引渡ヲ主義トシテ認メテ居リマスル國ニ於キマシテハ、之ヲ當然引渡犯罪人トシテ扱フト云フコトニナル、斯ウ云フ規定デゴザイマス、第六ハ麻藥ノ不正取引ニ關スル主要犯罪ヲ組成シ、又ハ之ニ供シタル物件ヲ



沒收スルト云フ規定デゴザイマス、第七ハ麻藥ノ不正取引ヲ禁遏スル方針ヲ徹底セシメマス爲ニ、國內及ビ國外ヘノ連絡統制ノ機關ト致シマシテ、中央廳ヲ設置スルト云フ點デゴザイマス、第八ハ司法事務共助囑託書ノ送達ノ方法ニ關スル規定デゴザイマス、斯様ナ點ガ此ノ條約案ノ要旨デゴザイマスルガ、我國ニ於キマシテハ素ヨリ此ノ條約ノ趣旨ト致シテ居リマスル所ニ別段反對スベキモノデモナク、寧ロ其ノ成立ニハ協力スベキモノデアルト存ズルノデアリマス、之ニ依リマシテ麻藥ノ不正取引ノ取締ノ徹底ヲ期スルト云フコトハ、人道ノ上カラ見マシテモ、又公衆衛生ノ立場カラ考ヘマシテモ、共ニ望マシイコトデアルト考ヘテ居リマス、今回ノ國際會議ノ議案トナルベキ此ノ條約案ハ、先程モ申上ゲマシタ通り昨年ノ十二月九日カラ十七日ニ至ルマデ「ジュネーヴ」ニ於キマシテ專門家委員會ガ開催致サレマシテ、國際聯盟阿片取引諮問委員會ノ作製ニナリマシタ案ヲ修正シテ出來上ツタノデアリマス、此ノ專門家委員會ニハ本邦カラハ内務書記官ノ藤原孝夫氏、大使館二等書記官ノ西村熊雄氏ト外務省囑託ノ稻垣守克氏ノ三人ガ出席セラレマシテ、此ノ三人ハ昨年ノ十一月十八日ニ此ノ委員會ニ於キマシテ御決定ニ相成リマシタ方針ノ下ニ作製セラレタ訓令ヲ以テマシテ此ノ會議ニ列シテ、我國ノ主張ノ貫徹ニ努力セラレタノデアリマス、其ノ結果ト致シマシテ我國ノ提議ハ可成リ採擇セラレテ居ルノデアリマス、併シナガラ專門家委員會ニ於キマシテ修正ニ相成リマシタ點、之ハ先程朗讀ノ條約案ニ横線ヲ附シテ置キマシタガ、之等ノ點及ビ委員會ニ於キ

マシテ大イニ論議セラレタ點ヲモ考慮致シマシテ、只今朗讀ノ諮問案ノ如ク今回ノ會議ニ處置スル我國ノ方針ヲ決定致シタイト存ジテ居ルノデアリマス。以上ノ通りデゴザイマスノデ、慎重御審議ヲ載キマシテ、本諮問案ニ御賛成下サイマス様ニ希望申シテ居ル次第デゴザイマス、簡單デゴザイマスガ要領ヲ申上ゲマシテ、尙ホ御質疑ニ應ジマシテ御答ヘ致シマス。

潮會長 只今衛生局長ノ説明ニナリマシタ諸點、其ノ他本案ニ付キマシテ御質疑ガゴザイマシタナラバ、此ノ際御發言ヲ願ヒマス——誰方モ御質疑ハゴザイマセスカ、別ニ御質疑ノ御發言ガゴザイマセスケレバ、本案ニ對スル御意見ノ御發表ヲ願ヒタイト存ジマス。

岩村委員 麻藥不正取引防止ニ關スル國際會議ニ對スル處置ハ、只今局長ノ御説明ヲ承リマシテ、私一寸氣附イタノデゴザイマスガ、ソレハ第六條ノ所デゴザイマスガ、六條一、二、三、四ト四ツノ事項ガ記サレテ居リマス、此ノ六條ノ四ツノ事項ニ付テ方針ヲ示サレテ居リマスコトニ強イテ私ハ反對スル譯デハゴザイマセスカ、此ノ六條ノ一ノ事柄ト四ノ事柄ハ同時ニ主張ヲ表明スベキ事柄デアリマスガ、シテモ差支ナイトハ存ジマスルケレドモ、結局一ノ事項ヲ表明致シマシタナラバ、四ノ事項ハ表明スル必要ガナクナルノデハナイカト存ジマス、我ガ刑法上ノ原則ト致シマシテハ沒收等ハ任意主義ヲ執ツテ居ル、其ノ點ヲ表明致シマシテ、十二條ノ趣旨ガ明カニナリマシタナラバ、結局四ニ關スル表題ハ解決ガ出來ルノデハナイカ、第一ノ問題ニ付テ色々反對ノ意見ガアリ



マシタナラバ、更ニ第四ノ問題ニ付テ反對ヲ表明スル、斯ウ云フコトニナルデハナイカト思ヒマス  
カラ、寧ロ四ハ御削リニナリマシテ、一ノ問題デ、十二條ノ趣旨ガ明カニナレバ、我國ノ刑法ノ趣  
旨ニ從ツテ十二條ノ規定ヲ運用スルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナリマシテ之ハ必要ガゴザイマ  
セヌカラ、四ノ事項ハ代表ノ説明ヲセラルル所ノ腹案トシテ御持チニナツテ居ツテ、一ノ事項ノ如  
何ニ依ツテ、更ニ必要ガアレバ四ノ問題ヲ表明スル、斯ウ云フコトニナリマス方ガ都合宜クハナ  
イカト思ヒマス、強イテ反對デハゴザイマセヌケレドモ、四ノ事項ハ問題ノ進行ニ依ツテ自カラ表  
明スル方ガ然ルベキモノデハナイカト云フ點ヲ、私一寸氣附キマシタノデ、強イテ反對デハアリマ  
セヌケレドモ、ダブツテ居ル様ナ感ヲ懷クノデアリマス、一寸申上ゲテ置キマス。

挾間委員 只今七番カラノ御指示モゴザイマシテ、之ハ曾テ波蘭ノ委員カラ準備委員會ノ時ニ意見ガ  
出テ居ルノデゴザイマス、委員會多數ノ者ハ贊同致シテ居ナイノデアリマス、サウ云フ關係モゴザ  
イマスシ、又只今御話ノ國內法ノ主義デ、日本ハ無論ソレデ宜イト思フノデゴザイマスガ、例ヘバ  
日本人ガ他ノ國ニ於テ斯ウ云フコトヲヤツテ居ル場合ガアリマシテ、此ノ規定ニ觸レマシタ場  
合ニ、外國ノ規定ニ依ツテ、矢張り斯ウ云フ第四ノヤウナ國內法ノ主義デ處置セラレマス、非常  
ニ酷ナコトニナルデハナイカ、日本國內デアリマスルト御話ノ通り充分此ノ第一號デ處置ガ出來ル  
ト思ヒマスガ、各國ノ國內法ノ關係ヲ考慮致シマシテ、同様ニ斯ウ云フ風ニ取扱フト云フコトハ、

日本トシテ反對ノ趣旨ヲ表明スル方ガ適當デハナイカト云フノデ、茲ニ明瞭ニ致シテ置キタイト存  
ジマス

岩村委員 御説明デ大體諒承致シマシタガ、サウ致シマスルト第十二條ノ規定ヲ讀ンデ見マス、「本  
條約ハ各國ニ於テ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ガ國內法ノ一般規定ニ從ヒテ定義セラレ、訴追セラレ及  
處罰セラレベキノ主義ニ影響ヲ及ボスコトナシ」、斯ウ云フコトニ十二條ガナツテ居リマス、サウ致  
シマス只今ノ御説明ニ依レバ國內法、具體的ニ言ヘバ國內法ノ規定デ我國ノ刑法ノ原則等ニ異ツ  
テ居ル場合ニハ、我國ノ刑法ニ於ケル訴追ニ付テハ任意主義ヲ採ル國內法ヲ求メルト云フ趣旨デ六  
條ノ四ノ法律ヲ御決メニナル、斯ウ云フコトニナリマスデゴザイマセウガ、ソコ迄行クト少シ行過  
ギルヤウナ……、出來レバ結構ダト思ヒマスガ、此ノ十二條ハ矢張り國內法ノ主義ニ影響ヲ及ボサナ  
イ、各國ハ異ツタ主義ヲ執ツテ居ツテモ宜シイト云フ風ニ此ノ十二條ハ見エルノデアリマス、ソコ  
ハ委シテ居ルノデハナイカト思ヒマスガ、此ノ四ト云フモノヲ主張致シマシテ、各國ガ色々其ノ法  
制ガ違ヒマスカラ、其ノ法制マデ強制出來レバ非常ニ結構ト思ヒマスガ、ソコ迄ハ第十二條ノ規定  
ニ書カレテ居ル所ヲ讀ミマスト行カヌデハナイカ、國內法ハ國內法デ色々主義ガアリマスカラ、各  
國ガ違ツテ居ル、斯ウ云フ風ニ十二條ハ讀メルモノデアリマスカラ、却ツテ六條ノ四ト云フ方針ヲ  
表明スルト、之ニ依ツテ色々紛議ヲ生ジテ、不利ヲ來スト思ヒマスガ、我國ノ考ヘテ居リマス様ナ







令ヲ發スルコトニ致シマス、尙ホ御斷リ致シテ置キマスルガ、愈々會議ガ始マリマシテ、色々臨時ニ問題ガ起キテ來ルト思フノデアリマス、左様ノ場合ニハ總テ本委員會ヲ開キマシテ、御尋ネヲ申スノガ筋デアリマスルケレドモ、一々其ノ手續ヲ執リマスト機宜ヲ失スルト云フヤウナ虞モアリマスノデ、重大ナル問題ニ付キマシテハ無論御參集ヲ願ヒマスルガ、左様デモナイモノト認メマシタ場合ニ於テハ、能ク關係ノ各省ノ方トハ充分御打合せ致シマスケレドモ、場合ニ依ルト本委員會ノ御會合ヲ願ハズニ、適宜ノ處置ヲ講ズル場合ガアルカト存ジマス、其ノ邊ハ豫メ御含ミヲ願ツテ置キマス、本案ハ之ニ決定致シマシテ、本日ノ會議ハ散會致シマス、誠ニ御多忙中御苦勞様デゴザイマシタ。

午前十一時十五分散會

#### 横山總領事挨拶

横山總領事 皆サン、私ハ只今衛生局長カラ御紹介ヲ受ケマシタ横山デゴザイマス、丁度日本ガ聯盟カラ脱退致シマシテ、政治的問題ニ付テハ一切ノ協力ヲ絶ツタノデゴザイマスケレドモ、御承知ノ通り當時ノ御詔勅ノ趣旨ニ依リマシテ、帝國政府ハ聯盟ノ人道的ノ一切ノ仕事ニハ大體協力ヲ繼續セラレルコトニナリマシタノデ、其ノ際ニ私ハアチラニ留ルコトニナリマシテ、從來ノ事務局ヲ總

領事館ニ直シテ、總領事トシテ聯盟トノ連絡ノ任ニ當ルコトニナリマシテ、從ツテ只今ノ委員會ノ御管掌ノヤウナ阿片ニ關スル問題ナドニモ出席致シマシタノデ、此ノ度ハ唯アチラニ居リマシテ仕事ヲ致シマス上ニ、日本ノ皆様ガドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居ルカラ伺フ爲ニ戻リマシタノデ、別段特ニ私ノ方カラ御話ヲ申上ゲル積リデハナク歸ツタノデアリマス、從ツテ今日ハ唯御挨拶ダケニ止メマス、唯私ガアチラデ皆様ノ御訓令ヲ實行スル任務ヲ持ツ一人デアルト云フコトヲ御記憶願ヒマシテ、今後ハ直接衝ニ當ル我々ノ諸先輩以外ノ實際事務ニ當ル方ト常ニ接觸致シマシテ、サウシテ之カラ先キ向フニ歸ツテ斯ウ云フ種類ノ御訓令ヲ實行スル場合ニ自分ノ參考ニシタイト思ヒマス、其ノ爲ニ次官局長等ノ方々ヨリモ、寧ロ課長諸君ト接觸シタイト思ヒマスシ、又色々接觸シテ載ケバ、ア、云フ男ガ居ルナト云フヤウナ譯デ御訓令モ出ルコトト思ヒマスノデ、ドウゾ今後宜シク御願ヒ致シマス。



〔議案〕

危険藥品ノ不正取引防止ニ關スル國際會議ニ對スル方針

第一條約草案ニ對シテハ左記ニ依リ處置スルコト

第一條

- 一、第二項イ(ロ)ハ及ニノ各號ニ依リ處罰セラルベク掲記セラレタル行爲ハ國內法ノ下ニ解釋シ必要ナル規定ヲ設クベキ旨ヲ表明シ若シ第二項ハ號ノ規定ガ教唆及幫助ヲ獨立犯トシテ處罰スベキ趣旨ナルニ於テハ我國ノ國內法ニ於ケル他ノ規定トノ權衡上同意シ難キ旨ヲ宣言スルコト
- 二、第二項ロ號ノ規定ニ關シテハ不正ノ栽培採取及生産ガ不正取引ノ前提トナルベキ場合アルニ鑑ミ不正取引防止ノ徹底ヲ期スル上ヨリ一應同規定ノ必要ナルコトヲ主張スベキモ本趣旨ガ他日開催ヲ豫想セラルベキ國際阿片會議ノ議題トナルベキコトノ了解ヲ得タルトキハ本規定ノ削除ニ同意スルモ差支ヘナキコト
- 三、第二項ハ號ノ教唆及幫助ナル語ハ英文ト佛文トノ間ニ差異アルヤニ認メラルルヲ以テ之ヲ質スコト
- 四、第二項ニ號ノ結合又ハ合意ノ意味、第三項イ號ノ獨立ノ犯罪ト看做スノ意味及ビ同項ロ號ノ準備又ハ助長ナル語ノ意味明確ナラザルニ付具體的實例ニ付キ之ヲ確ムルコト



五、第二項(ニ)號ノ前記行爲トアルハ同項(イ)號及(ロ)號ニ掲ゲタル行爲ヲ指シ同項(ハ)號ニ掲ゲタル行爲ハ之ヲ含マザル趣旨ニ於テ賛成スルコトヲ表明スルコト

第二條

一、我國ハ前科ノ國際的承認ノ主義ヲ認ムル國ニ非ザル旨ヲ表明スルコト

第四條

一、我國ハ國內法上國外ニ於テ犯サレタル犯罪ヲ訴追スル主義ヲ一般原則トシテ認ムル國ニ非ザル旨ヲ表明スルコト

第六條

- 一、本條ハ第十二條ノ規定ニ依リ國內法上ノ定ムル處ニ從ヒ押收及沒收セザル場合アルモノト解スル旨ヲ表明スルコト
- 二、本條ノ押收及沒收ハ司法處分タルト行政處分タルトヲ問ハズシテ之ヲ國內法ニ一任セラルルモノト解スル旨ヲ表明スルコト
- 三、本條中ノ「生産品」ナル語ハ意味明瞭ナラザルニ付之ヲ「藥品及物質」ニ改ムルコト
- 四、不正取引行爲者ニ屬スル建物、資金及利得金ヲ押收及沒收スベシトノ意見並ニ沒收麻薬ヲ廢棄スベシトノ意見ニ對シテハ反對ヲ表明スルコト

第七條

一、第一條所定ノ違反行爲取締ノ爲特別警察組織義務ヲ規定セントスルノ提議アリタル場合ニハ我國ニ於テハ其ノ必要ヲ認メザルヲ以テ之ニ反對スルコト

第八條

一、第二項(イ)號中ノ「取引」ハ總ベテノ取引ヲ包含セシムルノ要ナシト認メラルルヲ以テ「不正取引」ニ限ルモノナルコトヲ明瞭ナラシムルコト

第九條

一、本條ノ趣旨ハ之ヲ最終議定書又ハ決議等ニ委ヌル方適當ナル旨ヲ主張スルコト

第十條

一、第七項中「其ノ法律ノ範圍ヲ超ヘテ司法事務共助囑託書ヲ施行スルノ約ヲ成スモノト解セラ  
ルルコトナカルベシ」トハ我國ニ於テハ書類ノ送達及證據調以外ノ事項ニ付事務ノ共助ヲ爲ス  
義務ナキ意味ヲ包含スルモノト解スル旨ヲ表明スルコト

第二 本條約ハ我國ガ他國ニ對シ現ニ有スル治外法權ニ何等影響ヲ及ボスモノニ非ズトノ見解ヲ堅持  
シ萬一右ニ反スルガ如キ意見出デタル場合ニハ之ニ反對スベク必要アラバ其ノ都度請訓スルコト



【參考】

危險藥品ノ不正取引防止ニ關スル國際條約案（假譯文）

專家委員會ニ於テ修正セラレタル箇所ニハ横線ヲ附シタリ

第一條

一、本條約ニ於テ麻藥トハ千九百十二年一月二十三日ノ「ヘーグ條約並ニ千九百二十五年二月十九日及千九百三十一年七月十三日ノ「ジュネーブ條約ノ規定ノ適用ヲ受クベキ藥品及物質ヲ意味スルモノトス

二、各締約國ハ左ノ行爲ガ故意ニ犯サレタル場合ニハ之ヲ嚴重ニ殊ニ投獄又ハ其ノ他ノ形式ニ依ル自由刑ニ依リ處罰スル爲必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス

(イ) 前記麻藥關係ノ國際條約ノ規定ニ違反スル麻藥ノ製造、轉換、抽出、調製、所持、提供、賣出、分配、購入、販賣、仲介、發送、通過發送、運搬、輸入及輸出

(ロ) 麻藥取得ノ目的ヲ以テ國內法ニ違反シテ爲サルル一切ノ栽培、採取及生産

(ハ) 前記行爲ノ何レカノ遂行ヲ目的トスル教唆及幫助

(ニ) 前記行爲ノ何レカノ遂行ヲ目的トスル結合又ハ合意

(ホ) 實行ノ開始ノ階程ニ達シタル未遂行爲及法令ノ範圍内ニ於ケル豫備行爲

三 (イ) 本條第二項ノ(イ)、(ロ)、(ハ)及(ニ)ノ各號ニ規定セラルル種類ニ屬スル行爲ガ異ル國ニ於テ行

ハレタルトキハ該行爲ノ各ハ獨立ノ犯罪ト看做サルベシ

(ロ) 本條第二項ノ(イ)、(ロ)及(ハ)、ノ各號ニ掲ゲラルル行爲ノ何レカヲ他國ニ於テ犯スコトヲ準備シ又ハ助長シタル行爲ハ獨立ノ犯罪ト看做サルベシ

第二條 前科ノ國際的承認ノ主義ノ認メラルル國ニ於テハ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ニ對スル外國ニ於ケル有罪ノ宣告ハ國內法令ニ依リ規定セラルル條件ノ範圍内ニ於テ累犯ヲ成立セシムル爲承認セラルベシ

第三條

一、自國民ニ付テノ犯罪人引渡ノ主義ノ認メラレザル國ニ於テハ第一條ニ掲ゲラルル罪ヲ國外ニ於テ犯シタル後右ニ對スル處罰ヲ受クルコトナク自國ノ領域ニ歸來シタル自國民ハ右犯罪ガ自國ノ領域内ニ於テ爲サレタル場合ト同様ニ訴追シ處罰セラルベシ犯人ガ犯罪ノ實行後其ノ國籍ヲ取得シタル場合亦同ジ

二、右規定ハ同様ノ場合ニ於テ外國人タル犯罪人ノ引渡ノ許容シ得ラレザルトキハ適用ナシ

第四條

一、外國人ニシテ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ヲ國外ニ於テ犯シ右ニ對スル處罰ヲ受クルコトナク、



國內法上國外ニ於テ犯サレタル犯罪ヲ訴追スル主義ヲ一般原則トシテ認ムル國ノ領域内ニ在ル者ハ右犯罪ガ當該領域内ニ於テ犯サレタル場合ト同様ニ訴追シ處罰セラルベシ

二、訴追ノ義務ハ犯罪人ノ引渡ガ請求セラレタルコト及被請求國ガ犯罪ト關係ナキ何等カノ理由ニ依リ被告人ヲ引渡シ得ザルコトヲ條件トス

第五條

一、本條末項ノ規定ヲ留保シ第一條第二項(イ)、(ハ)、(ニ)及(ホ)ノ各號ニ掲ゲラルル犯罪ハ締約國ノ何レカノ間ニ締結セラレ又ハ今後締結セラルベキ一切ノ犯罪人引渡條約中ニ引渡犯罪トシテ包含セラルルモノト看做サルベシ

二、條約ノ存在又ハ相互條件ヲ以テ犯罪人引渡ノ條件トセザル締約國ハ前掲ノ犯罪ヲ今後相互間ニ於テ犯罪人引渡事件ト認ム

三、犯罪人引渡ハ被請求締約國ノ法令及犯罪人引渡ヲ請求スル國ト右請求ヲ受ケタル國トノ間ニ現存スル條約ニ從ヒ許容セラルベシ

四、犯罪人引渡ノ請求ヲ受ケタル締約國又ハ其ノ裁判所ニシテ逃亡犯罪人ノ訴追セラレ又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル犯罪ガ充分ニ重大ナラザルモノト認ムルニ於テハ該締約國ハ如何ナル場合ニ於テモ逃亡犯罪人ノ逮捕ヲ行ヒ又ハ之ガ引渡ヲ許容スルコトヲ拒ム權利ヲ有ス

第六條 各締約國ハ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ノ目的トナリタル麻薬並ニ右犯罪ノ何レカノ遂行ニ關シ使用セラルル生産品若ハ機械、器具及其ノ他ノ物件ヲ押收及沒收スル爲ニ必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス

第七條

一、本條約ニ依ル義務ノ履行ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ各締約國ハ若シ既ニ之ヲ設ケ居ルニアラザレバ國內法ノ範圍内ニ於テ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ヲ防遏スル爲ニ必要ナル行動ヲ監視及調整シ且斯ノ如キ行爲ヲ犯シタル者ヲ訴追スル爲手續ヲ講ズルコトヲ確保スルノ任ニ當ル中央應ヲ設クベシ

二、右中央應ハ

- (イ) 麻薬ヲ取扱フ他ノ公ノ機關又ハ團體及他國ノ中央應ト密接ナル連絡ヲ保ツベク
  - (ロ) 第一條ニ掲ゲラルル犯罪ノ調査及防遏ヲ容易ナラシムベキ一切ノ情報ヲ集中スベク
  - (ハ) 他國ノ中央應ト直接ニ通信スルコトヲ得
- 三、締約國ノ政府ガ聯邦制度ナルトキ又ハ政府ノ行政權ガ中央政府ト地方政府トニ分配セラルルトキハ第一項ニ掲ゲラルル監視及調整並ニ第二項(イ)及(ロ)ニ掲ゲラルル義務ハ地方政府ノ管轄又ハ行政權ノ範圍ニ專ラ屬スル事項ニ關シテハ地方中央應ヲ介シテ之ヲ行フコトヲ得



- 四、本條約が第一、二、三條（殖民地條項）ニ依リ何レカノ領域ニ適用セラルルトキハ本條ノ義務ハ當該領域内ニ又ハ當該領域ノ爲ニ設ケラレ且必要アル場合ニハ其ノ本土ニ於ケル中央應ト連絡シテ行動スル中央應ニ依リ之ヲ行フコトヲ得
- 五、中央應ノ權限及職分ハ千九百三十一年ノ麻藥ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約第十五條所定ノ特別ノ行政機關ニ委任スルコトヲ得

第八條

- 一、各中央應ハ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ノ禁遏及處罰ヲ容易ナラシムル爲出來得ル限リ外國ノ中央應ト協力スベシ
- 二、中央應ハ其ノ有益ト信ズル範圍内ニ於テ左記ヲ關係アリト認メララルル他ノ國ノ中央應ニ通告スベシ
  - (イ) 進行中又ハ計畫中ノ取引ニ關シ必要ナル一切ノ調査及行動ヲ行フコトヲ可能ナラシムル情報
  - (ロ) 不正取引者ノ動靜ヲ監視スル爲其ノ身分及人相ニ關シ中央應ガ入手シ得タル精確ナル記述
  - (ハ) 麻藥ノ密造所ノ發見

第九條

阿片諮問委員會ハ前條ニ規定セラレタル國際協力ヲ確保シ、改良シ及發達セシムル爲締約

國ノ中央應代表者會合ノ開催セラルベキコトガ望マシキヤ否ヤヲ時々審査シ且必要アル場合ニハ此ノ點ニ付意見ヲ表明センコトヲ要請セラルベシ

第十條

- 一、第一條ニ掲ゲラル、犯罪ニ關スル司法事務共助囑託書ノ送致ハ左記ノ方法ニ依リ行ハルベシ
  - (イ) 各國主務官憲間ノ直接通信又ハ中央應ヲ經由若ハ
  - (ロ) 二國ノ司法大臣間ノ直接通信又ハ囑託國ノ他ノ官憲ヨリ被囑託國ノ司法大臣ヘノ直接送付若ハ
  - (ハ) 被囑託國ニ在ル囑託國ノ外交官又ハ領事官ノ仲介
- 右外交官又ハ領事官ハ司法事務共助囑託書ヲ權限アル司法官憲ニ又ハ被囑託國ノ政府ニ依リ指定セラルル官憲ニ直接送付シ且右官憲ヨリ司法事務共助囑託書ノ施行ヲ證明スル文書ヲ直接受領スベシ若ハ
- (ニ) 外交機關ヲ經由スルコト
- 二、(イ)、(ロ)及(ハ)ノ場合ニ於テハ同時ニ司法事務共助囑託書ノ謄本一通ハ囑託國ノ外交代表者ニ依リ被囑託國ノ外務大臣又ハ外務大臣ニ依リ指定セラルル他ノ官憲ニ常ニ送付セラルベシ
- 三、別段ノ協定ナキ限リ司法事務共助囑託書ハ囑託官憲ノ國語ヲ以テ作成セラルベシ但シ被囑託











ルコトヲ認メマシテ、適當ナ處分方法ノ決定ヲ見ルニ至ル迄ハ、之ヲ一先ヅ拂下ヲ停止スルノガ適當デアルト云フ風ニ考ヘラレマシテ、大正十三年八月以來是ガ拂下ヲ停止シテ居ツタノデゴザイマス、其ノ後臺灣總督府ハ粗製モルヒネ」ヲ星製藥會社、大日本製藥會社、三共ノ三ツノ製藥會社ニ限り分割シテ拂下ヲスルト云フヤウナ意向ヲ以テ、屢々中央トモ協議致シマシタガ、遂ニ昭和二年六月當時外務省ニ設置セラレテ居リマシタ阿片及麻藥類ニ關スル委員會ニ於キマシテ決議ヲ致シマシテ、其ノ年六月十四日ノ閣議決定ヲモチマシテ内地ニ於キマスル現在ノ「モルヒネ鹽類ノ製造高ヲ増加セズシテ、其ノ製造原料ノ一部ヲ生阿片ニ代ヘルニ臺灣總督府專賣局ノ粗製モルヒネ」ヲ使用セシムルコトニ依リマシテ、暫定的ニ之ヲ處分スルコトト云フ方針ガ樹テラレタノデアリマス、此ノ方針竝ニ委員會ノ決議ニ基キマシテ、三ツノ製藥會社ニ拂下ヲスルコトニナリマシタノデアリマスガ、其ノ一ヶ年ノ拂下數量ハ三千ポンド、グラム」ニ致シマシテ一千三百五十キログラム」ト云フコトニナツテ居リマス。尙ホ是ト同時ニ此ノ製藥會社ニ於テ生阿片カラ「モルヒネ」ヲ抽出スル方法ヲ臺灣總督府ノ專賣局ニ於テ生阿片カラ粗製モルヒネ」ヲ抽出スル方法ト同ジ方法ニ變更セシムルコトト致シマシテ、此ノ製藥會社ニ於キマシテ生阿片カラ「モルヒネ」ヲ抽出致シマシタ殘リノ糟、即チ阿片殘渣ハ臺灣總督府ニ於キマスル煙膏ノ製造ニ利用スルコトガ出來マスノデ、彼レ此レ交換シテ粗製モルヒネ」ハ之ヲ臺灣專賣局カラ製藥會社ニ拂下ゲ、阿片殘渣ハ專賣局ガ製

藥會社カラ買上ゲルト云フコトニナツタノデアリマス、之ニ依リマシテ臺灣總督府ノ持つテ居リマシタ粗製モルヒネ」ノ分量ハ多少ナリトモ緩和スルコトガ出來ル譯デアツタノデアリマスルガ、此ノ阿片殘渣ハ委員會ノ決議ニアリマスガ如ク、毎年一萬一千ポンド、グラム」ニ致シマシテ約五千キログラム」ヲ買上ゲルトニナツテ居リマスルノデアリマスガ、昭和三年度以降十年度迄ニ、年平均ト致シマシテハ五千六百キログラム」位ツツ買上ゲテ居ルモノデアリマス、所ガ此ノ阿片殘渣ヲ煙膏ニ實際ニ使用致シマスノハ、年々ノ平均ガ四千キログラム」ニ達シテ居ラナイノデアリマスルカラ、最近ニ於テハ毎年買上ゲマスル殘渣ノ半分位シカ使用シテ居ラナイ狀況デアリマス、其ノ理由ハ原料ト致シマシタ生阿片ノ種類ニ依リマシテハ、阿片殘渣ヲ煙膏ニ加ヘマス、煙膏ノ味、所謂煙味ヲ害スル爲ニ一定ノ割合以上ニ混入スルコトガ出來ナイカラデアリマスガ、尙ホ臺灣ノ阿片吸食特許者ガ總督府ノ阿片政策ノ歸結ト致シマシテ年々減少致シテ居リマス爲ニ、煙膏ノ製造高モ毎年漸減シテ居ルト云フコトニモ原因スルモノデアリマス、是等ノ事情ノ爲ニ昭和十年度末迄ニ此ノ阿片殘渣ノ臺灣專賣局ニ於キマスル「ストック」ガ約一萬五千キログラム」ニ達シテ居ルノデアリマス、今後此ノ狀況デ參リマスと云フト、年々二千キログラム乃至三千キログラム」ノ持越ガ累積シテ行クコトトナルノデアリマス、臺灣ニ於キマシテハ阿片殘渣ハ煙膏ニ混入スル以外ニハ外ニ全く使用スル途ガナイノデアリマスルカラ此ノ保管及ビ處分ニ非常ニ困難ヲ生ジテ來ル譯デアリマス、最早臺灣總督府ト致シマシ



テハ是レ以上ストツク」ヲ増加セズ、今後ハ專ラ其ノ消化ニ努メルト云フコトニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマシテ、今回内務省トモ御協議ノ上、此ノ阿片殘渣ハ本年度ヲモチマシテ、其ノ製藥會社カラノ買上ヲ打切ルコトニ話ガ纏ツタ次第デアリマス、若シ斯クノ如ク本年度限り買上ゲヲ打切ルコトト致シマスルナラバ、今後約十ケ年間ニ全部ノ殘渣ヲ煙膏ニ加ヘテ混ゼ盡スコトガ出來ルト云フ見込デアアルノデアリマス、以上ハ大體諮問案ノ第一項ニ關スル説明デゴザイマス、既ニ申上ゲマシタ通り、粗製モルヒネ」ノ拂下ト阿片殘渣ノ買上トハ相互ニ關聯致シテ居リマシテ、今回阿片殘渣ノ買上ヲ中止スルコトト致シマスレバ粗製モルヒネ」ノ拂下モ中止スルカドウカト云フ問題ガ起ルノデアリマスルガ、粗製モルヒネ」ハ臺灣總督府ガ阿片ノ製造專賣ヲ實行シテ居リマス限リハ、必ず副製品トシテ出テ來ルモノデアリマシテ、此ノ粗製モルヒネ」ノ澤山ニ臺灣ニ蓄積サレテ居ルト云フコトハ、常ニ世界ノ注目ノ的トナツテ居ルヤウナ有様デアリマスカラ一日モ早ク適當ナ方法ニ依ツテ之ヲ處分シテシマハナケレバナナイモノデアリマス、デ一方阿片殘渣ハ製藥會社ニ於キマシテ、モルヒネ」ヲ抽出スル方法ニ變更ヲ加ヘマスナラバ之ヲ造ラナクテモ濟ム譯デアリマス、即チ「モルヒネ」ノ全部ヲ阿片カラ抽出スルコトガ出來ルノデアリマス、ソコデ今回阿片殘渣ノ買上ハ中止スルコトニナリマシテモ、粗製モルヒネ」ノ方ハ矢張り從來ノ通り三製藥會社ニ拂下グルコトト致シタイノデアリマス、尤モ其ノ拂下ノ數量ニ付キマシテハ、其ノ後内地ノ「モルヒ

ネ鹽類需要ノ事情モ變ツテ參リマシテ委員會ニ於キマシテ定メマシタ三千ポンド即チ千三百五十キロ」ヲ維持スルコトハ事實上出來ナクナツテ居ルヤウデアリマス、最近ニ於キマスル移入許可量ハ毎年千二百五十キロ内外デアアルヤウデアリマスルカラ、今後ノ拂下數量ハ毎年ノ移入許可量ヲ標準ト致シマシテ千二百五十キロ」ニ減ズルコトト致シマシテ、但シ其ノ拂下ノ價格ハ從來ト同様ナ方法ニ依ツテ之ヲ定メルコトガ適當デアルト認メタノデアリマス、次ニ第三項ハ今回新ニ磷酸コデイン製造原料ト致シマシテ、粗製モルヒネ」ヲ内務省ニ讓渡スルコトトシタコトデアリマス、粗製モルヒネ」ノ處分ニ關シマシテハ前ニ申上ゲマシタ内地ノ製藥會社ヘノ拂下ノ外ニ、昭和六年カラ朝鮮總督府ノ專賣局ニ讓渡ヲ致シテ參ツタノデアリマス、朝鮮ニハ元來阿片癮者ハ殆ド無クナツテ居ルノデアリマスグレドモ、モルヒネ中毒者ガ澤山アツタノデアリマシテ、朝鮮總督府ニ於テモ此ノ救療絶滅ニ苦心致シテ居リマスルガ、モルヒネ鹽類ハ朝鮮ニ於キマシテ、之ヲ專賣ト致シマシテ、其ノ濫用ヲ取締ルコトト致シタノデアリマス、其ノ「モルヒネ鹽類モ朝鮮ノ專賣局デ製造致シマスル爲ニ、原料トシテハ前ハ朝鮮ノ阿片ヲ用キテ居ツタノデアリマスルガ、臺灣ノ粗製モルヒネ」ヲ試驗的ニ使ツテ見マシタ所、色々具合ガ宜シイヤウデアリマシタノデ昭和六年ノ五月八日ノ閣議決定ヲ經マシテ、其ノ後ハ毎年數百キログラム多イ時ニハ五百五十キログラム」ヲ臺灣ノ專賣局カラ朝鮮ノ專賣局ガ讓受ケテ參ツタノデアリマス、所ガ最近ニ於キマシテ朝鮮ノ方ノ「モルヒネ中毒者



ノ治療ハ段々成績ヲ收メテ參リマシテ、其ノ數ガ非常ニ減ジタ爲ニ、昭和十年度以降ハ最早臺灣カラ粗製モルヒネ」ヲ讓受ケル必要ガナクナツテシマツタノデアリマス、今回内務省ノ方ニ於キマシテ「磷酸コデイン」ノ製造原料トシテ臺灣ノ粗製モルヒネ」ヲオ使ヒニナルト云フコトデアリマスノデ、臺灣ト致シマシテハ朝鮮ノ方ヘノ讓渡モ只今中止トナツテ居ルヤウナ際デアリマスノデ、朝鮮ヘノ讓渡ノ數量ト略々同等ノ五百五十キロ」ヲ昭和十二年度カラ内務省ノ方ニオ讓リシタイ、而モ其ノ讓渡ノ價格モ内務省ノ御希望ノヤウニ、生阿片ノ收納價格ト同額即チ純モルヒネ一キロ」ニ付テ神戸渡シ二百三十圓ニ定メルコトトナツタノデアリマス、斯クノ如クニ製藥會社ニ千二百五十キロ、内務省ノ方ヘ五百五十キロ、合計千八百キロ」ヲ毎年消化スルコトト致シマスナラバ、臺灣ニ現在持ツテ居リマス粗製モルヒネ」モ今後五年間位デ使用シ盡サレル見込デゴザイマス、尙ホ此ノ粗製モルヒネ」ノ處分ニ付キマシテハ、從來國際關係竝ニ國內取締上重大ナル關係ガアリマスノデ、閣議ニ於テ處分方針ヲ決定致シマシテ、其ノ上デ實行致シテ參ツタノデアリマスルカラ今回モ亦其ノ例ニ倣ヒマシテ、閣議ノ御決定ヲ願ヒマシテ其ノ上デ實施スルノヲ適當ト認メテ居ルヤウナ次第デアリマス、以上ヲ以テ説明ヲ終リマス。

潮會長 ソレデハ引續キマシテ内務省衛生局長カラ只今ノ殖産局長ノ御説明ニ關聯シテ内務省關係ノ事項ニ付テ一應説明ヲ致サセマス。

挾間委員 只今拓務省側カラノ此ノ度ノ諮問案ニ付テノ御説明ガゴザイマシタ、之ニ關聯致シマシテ内地デ消費致シマス阿片ノ消費計畫ト云フヤウナモノガ當然關聯ヲ持チマスルノデ其ノ點ニ付テ簡單ニ御説明申上ゲタイト存ジマス、現在製藥用ノ原料ト致シマシテ内地デ年々消費致シマス阿片ノ總量ハ「モルヒネ十パーセント」ヲ含有スルモノト致シマシテ、約四萬九千キログラム」ヲ必要トスルノデアリマス、此ノ四萬九千キログラム」ノ中ニハ今回ノ解決案デ、只今拓務省殖産局長カラ御説明ガゴザイマシタ阿片殘渣ノ買上ヲ臺灣ノ方デ打切ラレマスノデ其ノ阿片殘渣ノ原料ニ使用シテ居リマシタコロノ約一千三百キログラム」ガ其ノ中ニ包含シテ居リマス、ソレカラ將來モ星、大日本及ビ三共ノ三製藥會社ガ從來通り原料トシテ臺灣カラ移入シテ參リマス粗製モルヒネ」ガ、只今御説明ノアリマシタヤウニ、一千二百五十キログラム」デ、之ヲ十パーセント含有ノ阿片トシテ換算致シマス、約九千キログラム」ト云フコトニナリマスノデ、其ノ九千キログラム」ト一千三百キログラム」合計シテ一萬三千三百キログラム」ガ只今ノ四萬九千キロ」ト申シマシタ中ニ包含シテ居リマス、之ヲ控除致シマス、大體三萬九千キログラム」ガ内地デ補充スル必要ナル阿片ノ所要量ト云フコトニナルノデアリマス、此ノ需要ヲ充ス爲ニ内地ノ栽培段別ヲ二千四百町歩ニ増加致シマシテ之ニ依リ收穫サレマス阿片ノ量ヲ以テ滿タサムトスルノデアリマスガ此ノ二千四百町歩ヨリ收穫サレマス阿片ノ量ハ之ヲ「モルヒネ含有率十パーセント」ノ阿片ニ換算シテ三萬六千キログラ



ム程度ト豫想サレマス。而シテ其ノ不足スル量ニ付キマシテハ、當分ノ中ハ今回ノ解決案デ只今御説明ノアリマシタ様ニ、粗製モルヒネ五百五十キログラム、是ハ大體七十パーセント含有ト云フ見込デアリマスカラ、之ヲ「モルヒネ含有率十パーセント」ノ阿片ニ換算致シマス、大體三千九百キログラム、之ヲ移入致シマスレバ、合計シマシテ三萬九千キログラムヲ補充スルコトガ出來ルト云フコトニナル譯デアリマス、斯様ニ致シマシテ内地ノ阿片消費量ヲ充實スルコトガ出來ルコトニナルデアリマシテ、只今御説明ガアリマシタ諮問案ヲ内地ノ關係ニ於テ申上ゲマスト左様ナ次第デアリマス、斯様ニ致シマシテ臺灣總督府カラ此ノ度讓受ケマス粗製モルヒネハ只今モ御話ガアリマシタヤウニ、内務省ノ東京衛生試験所ニ於キマシテ製造致シマス燐酸コデインノ原料ノ一部ニ充當スルト云フ計畫デゴザイマス、何卒御審議ノ上御賛成アラムコトヲ御願ヒ致シマス。

潮會長 只今兩局長カラノ諮問案ニ關スル御説明ガ終リマシタカラ、是カラ本案ニ付キマシテ御質問ナリ、或ハ御意見ガアリマスレバ、ドナタカラデモ御發言ヲ願ヒタイト思ヒマス。

猪野毛委員 今回内務省ト臺灣總督府トノ間ノ御協定ニ依リマシテ、多年問題トナツテ居リマシタ所ノ臺灣總督府專賣局ノ粗製モルヒネ「ヲ燐酸コデイン」ノ製造原料トシテ毎年一定量ヅツ内務省ニ讓渡シ、昭和十七年迄ノ間ニ其ノ巨額ノ貯藏量全部ヲ活用處分シ消耗シ得ル見込トナリマシタコトハ、本問題ニ付キ絶エズ深甚ノ關心ヲ持ツテ居リマシタル外務省ト致シマシテモ眞ニ欣幸トスル次第デアリマス、抑々臺灣ノ粗製モルヒネ在庫品ハ其ノ量ガ巨額ニ達スルコト及ビ是ガ國際市場ニ流出スル虞ナキヤノ危懼ノ念ヨリシテ十數年以前カラ國際聯盟ノ各種ノ阿片會議及ビ委員會ナゾニ於テ屢々問題トナリ、昭和六年ノ麻藥製造制限及ビ分配取締條約ノ署名議定書ニ於テ、右在庫品ハ之ヲ日本政府ノ認可セル工場ニ於ケル精製モルヒネノ製造ニ必要ナル數量ニ限り之ヲ交付スベキ旨ノ規定ヲ設クルニ至ツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ其ノ後國內ニ於テ右在庫品ヲ秘カニ支那ニ輸出セムコトヲ企ツル者ナド生ジマシタノデ、外務省ト致シマシテハ當阿片委員會ノ幹事會共ノ他ニ於テ、右在庫品ノ急速且ツ適當ナル處分ヲ屢々主張シテ參ツタノデアリマス、今同幸ニモ右署名議定書ノ規定ニ合致シタ處分方法ガ發見サレ、茲ニ多年ノ懸案ノ解決ヲ見マシタコトハ御同慶ニ堪ヘマセス、此ノ意味ニ於テ本委員ハ本案ニ對シ全幅ノ支持ヲ表明スルト共ニ本計畫ガ故障ナク著々實施セラレ、豫定通り昭和十六年末ヲ以テ粗製モルヒネノ處分ハ完了スルニ至ラムコトヲ切ニ希望シテ己マザル次第デアリマス、尙ホ此ノ機會ニ一言附加ヘタイコトゴザイマス、ソレハ本件處分案ハ臺灣ニ於ケル阿片需要量ノ著シキ減少ヲ如實ニ立證スルモノデ同地ニ於ケル阿片漸禁政策ノ成功ヲ裏書シタモノデアリマスガ、他方近來同島ヨリ密輸セラレタモノト稱セラレタ「コカイン」ガ蘭印其他ノ各地デ沒收セラレ、問題トナツテ居ルトノ報告ニ接シマシタノデ、外務省ト致シマシテハ現在拓務省ニ實情調査方依頼中デアリマスガ、斯カル麻藥密輸事件ハ折角阿片政策

第デアリマス、抑々臺灣ノ粗製モルヒネ在庫品ハ其ノ量ガ巨額ニ達スルコト及ビ是ガ國際市場ニ流出スル虞ナキヤノ危懼ノ念ヨリシテ十數年以前カラ國際聯盟ノ各種ノ阿片會議及ビ委員會ナゾニ於テ屢々問題トナリ、昭和六年ノ麻藥製造制限及ビ分配取締條約ノ署名議定書ニ於テ、右在庫品ハ之ヲ日本政府ノ認可セル工場ニ於ケル精製モルヒネノ製造ニ必要ナル數量ニ限り之ヲ交付スベキ旨ノ規定ヲ設クルニ至ツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ其ノ後國內ニ於テ右在庫品ヲ秘カニ支那ニ輸出セムコトヲ企ツル者ナド生ジマシタノデ、外務省ト致シマシテハ當阿片委員會ノ幹事會共ノ他ニ於テ、右在庫品ノ急速且ツ適當ナル處分ヲ屢々主張シテ參ツタノデアリマス、今同幸ニモ右署名議定書ノ規定ニ合致シタ處分方法ガ發見サレ、茲ニ多年ノ懸案ノ解決ヲ見マシタコトハ御同慶ニ堪ヘマセス、此ノ意味ニ於テ本委員ハ本案ニ對シ全幅ノ支持ヲ表明スルト共ニ本計畫ガ故障ナク著々實施セラレ、豫定通り昭和十六年末ヲ以テ粗製モルヒネノ處分ハ完了スルニ至ラムコトヲ切ニ希望シテ己マザル次第デアリマス、尙ホ此ノ機會ニ一言附加ヘタイコトゴザイマス、ソレハ本件處分案ハ臺灣ニ於ケル阿片需要量ノ著シキ減少ヲ如實ニ立證スルモノデ同地ニ於ケル阿片漸禁政策ノ成功ヲ裏書シタモノデアリマスガ、他方近來同島ヨリ密輸セラレタモノト稱セラレタ「コカイン」ガ蘭印其他ノ各地デ沒收セラレ、問題トナツテ居ルトノ報告ニ接シマシタノデ、外務省ト致シマシテハ現在拓務省ニ實情調査方依頼中デアリマスガ、斯カル麻藥密輸事件ハ折角阿片政策



ノ方面ニ於テ收メ得タル成果ニ對シ暗影ヲ投ズル虞モアリ、頗ル遺憾ト存ジマスルノデ、諸關係官廳ニ於カレマシテモ徹底的ニ真相ヲ御探查相成リ、帝國政府ノ公正ナル態度ヲ明白ニシ得ルヤウ特ニ此ノ際御願ヒ申上ゲテ置キマス。

岩村委員 此ノ御諮問ニ對シテ私ハ賛成デゴザイマスガ、唯一點ダケ拓務省殖産局長ニ御尋ネ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、御配布ニナリマシタ此ノ説明ト云フ表題ノ下ニ、初メカラ三行目ニ「交換的措置トシテ」云々ト云フコトガアルガ、民間ノ會社トノ關係ハ無論圓滿ニ處理セラレルコトト思ヒマスガ、此ノ點ダケチヨット御尋ネ致シマス、或ハ政府ノ補償ヲ得ルト云フヤウナ問題ガアルノデアリマスガ、其ノ點ハ民間ノ會社トハ圓滿ニ出來テ契約上ノ問題ニナルモノト思ヒマスガ、此ノ點ダケチヨット御尋ネ致シマス。

萩原委員 只今ノ御質問ハ、只今迄阿片殘渣ノ買上ト粗製モルヒネ」ノ拂下ニ付テ相互ニ交換的ノヤウナ關係ガアツタノデアルガ、今回一方的ニ阿片殘渣ノ買上ハ止メテシマヒ、粗製モルヒネ」ハ相變ラズ買ヘト云フノデハ役所ト製藥會社トノ間ガ旨ク行ク見込ガアルカドウカ、斯ウ云フ御尋ノヤウニ思ヒマスガ、從來此ノ粗製モルヒネ」ノ處分ニ關シマシテ、又阿片殘渣ノ買上ニ關シマシテハ、何時モ内務省ノ方ト御協議ヲ願ヒマシテ、ソシテ圓滿ニヤツテ居ツタノデアリマスガ、今回ノ措置ニ付キマシテモ阿片殘渣ノ買上ヲ止メル代リニ高價ナ粗製モルヒネ」ノ拂下期間ヲ短縮シマシテ之

ニ依ツテ會社ガ阿片殘渣ノ買上ヲシテ貰ツタ爲ニ受ケタ利益ヲ失フコトノ補償トスルヤウナ關係デゴザイマス、當事者間ニ於キマシテハ勿論圓滿ニ進ムモノト思ツテ居リマスシ、又圓滿ニ實行スル考ヘデゴザイマス。

岩村委員 了承致シマシタ。

潮會長 他ニ御質疑、御意見モゴザイマセスケレバ、原案ノ通り可決致シマシテ御異議ハゴザイマセヌカ。

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ〕

潮會長 御異議ナイト云フコトデゴザイマスルカラ、ソレデハ原案ノ通り可決致シマシタ、特別御多忙ノ際御參集ヲ願ヒマシテ誠ニ御苦勞様デゴザイマス、今日ハ是デ閉會致シマス。

午前十時三十五分散會



〔議案〕

臺灣産粗製モルヒネノ處分竝ニ阿片残渣買上中止ニ關スル件



秘

第十、十一、十二、十三回委員會報告

昭和十五年三月

阿片委員會



# 第十回阿片委員會

昭和十二年六月十五日午後一時五十五分內務大臣官邸ニ於テ開催ス

出席者

委員會  
委員長

馬三石犬松小平萩植棟大森青安

場谷莊半坂澤野居場

鐵隆太次廣  
源一二一俊鐵彥

信一郎政要猛三三郎一朗男(代理)基







約並ニ千九百二十五年二月十九日及千九百三十一年七月十三日ノ「ジュネーヴ」條約ノ規定ノ適用セラレ又ハ今後適用セラルベキ藥品及物質ヲ意味スルモノトス」ト謂フコトニナツテ居リマスガ、此ノ規定中、「又ハ今後適用セラルベキ」ト謂フ文句ガ、原案ニナカッタノガ新ニ加ツタノデアリマス、之ヲ加ヘマシタ理由ハ、千九百二十五年條約ノ第十條ニ同條約第十四條列記ノ藥品以外ノモノガ漸次新ニ加ルコトノ爲ルベキコトヲ豫想シテ居ル規定ガアルノデアリマス、從ツテ本條約ニ於キマシテモ「今後適用セラルベキ」ト云フ文字ヲ入レテ置イタ方ガ適當デアラウト云フ譯デ加ヘルコトニナツタ次第デアリマス。

第二項ハ本條約ハ所謂「抽出」ト云フ文字ノ定義ヲ規定シタモノデアリマス、之ハ新ニ加ヘタ規定デアリマスガ、會議ニ於キマシテ條約ノ第二條(イ)即チ原案ノ第一條第二項(イ)ヲ審議致シマス際ニ、抽出ナル文字ノ意義ガ問題トナリマシタノデ、條約文ノ上ニ明確ニシテ置イタ方ガ宜カラウト云フコトニナリマシテ、新ニ第二項ト云フ規定ヲ設ケマシテ、本條約ニ於ケル抽出ト云フ文字ノ定義ヲ與ヘタ譯デアリマス。

次ハ第二條ノ冒頭デアリマス、「各締約國ハ左ノ行爲ヲ嚴重ニ殊ニ投獄又ハ其ノ他ノ自由刑ニ依リ處罰スル爲必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス」トナツテ居リマスガ、之ハ原案ノ第一條第二項ノ冒頭ニ該當スルモノデアリマス、兩者ヲ比較致シマスと、「故意ニ犯サレタル場合ニハ」ト云

フコトガ、原案ニアリマシタノガ削除サレテ居リマス、ソレハ最終議定書ノ「解釋」ノ部分ヘ廻ハシタノデアリマス、次ハ原案ノ翻譯ニハ、「其ノ他ノ形式ニ依ル自由刑ニ依リ」トアリマスガ、之ハ實ハ原案ノ原文ヲ直譯致シマスト「其ノ他ノ形式ニ依ル自由ノ剝奪ニ依リ」ト云フコトニナルノデアリマス、原案ヲ翻譯スル際ニ前後ノ意味カラ「自由刑ニ依リ」ト翻譯シタノデ(之ハ正シイ翻譯ト思ヒマスガ)何故原案ヲ修正シタカトイフコトガ判ラナクナツタノデアリマス。會議ニ於キマシテハ、原案ニ所謂「自由ノ剝奪」ト云フ言葉ガ、自由刑トシテノ自由ノ剝奪カ、ソレトモ刑デナイ所ノ自由ノ剝奪カ明瞭デナイト云フ議論ガ起リマシタ。我ガ代表部ト致シマシテハ此ノ條約ヲ制定スル趣旨カラ考ヘ、又此ノ原案ノ文章ノ前後カラ考ヘマシテ、ソレハ自由刑ト云フコトヲ意味スルノダト云フコトハ明瞭デアルト考ヘマシタケレドモ、自由刑ト云フ言葉ヲ使ヘバ其ノ趣旨ガ一層明瞭ニナルト云フ意味ニ於キマシテ、此ノ修正案ニ賛成致シマシテ、結局「其ノ他ノ自由刑ニ依リ」ト謂フコトニ致シ、刑ダト云フコトヲ明瞭ニ致シタ次第デアリマス、次ニ條約文ノ(イ)ノ部分ニ關シマシテハ、「名義ノ如何ヲ問ハズ讓渡」ト謂フ規定ガ新シク加ヘラレタノデアリマス、ソレハ瑞西ノ代表ガ、自分ノ國ノ法律デハ之ヲ罰シテ居ルカラ、ソレガ漏レナイヤウニ入レテ貫ヒタイト云フコトヲ申出タノデアリマス、ソコデ他ノ文字トノ關係ヲ考ヘマスト、強イテ之ヲ入レナクテモ(イ)ニ列記シテ居ルモノ、中ノ何レカニ這入ルト云フコトハ、解釋上言得ルト思ヒマシタケレド



モ、瑞西代表ノ言フ通りニシタ所デ弊害モナク、ヨリ明瞭ニナルコトデアルト云フイデ、我代表部モ反對セズ又各國代表之ニ異議ヲ唱ヘル者ナク、ソレガ可決サレタノデアリマス、此ノ澤山列擧シテアル各言葉ノ意味ヲ嚴格ニ分析的ニ比較對照シテ行キマス、其ノ間ニ重複アルコトヲ免レナイノデアリマス、ソレハ各國カラ集リマシタ者ガ、——約四十箇國デアリマスガ——其ノ四十箇國ノ代表ガ各々自分ノ國ノ法制ヲ頭ニ置イテ、自分ノ國ノ法制ニ斯ウ云フ規定ガアルカラ、斯クシテ貴ヒタイト云フコトヲ夫々主張シテ、ソレヲ出來得ル限り取り入レテ列記シタ爲ニ斯ウ云フ形ニナツタ次第デアリマス、斯ウ云フ形ニセズニ「不正ナル取引」其ノ他何等カノ抽象的ナ簡單明瞭ナ言葉デ言ヒ現ス方法ハナイカト云フ議論モ出マシタガ、ソレハ既ニ一昨年暮ノ専門家委員會ニ於テ議論濟ノコトデアリ、其ノ原案ヲ尊重スルト云フ趣旨ト、モウ一ツハ何が「不正」カト云フコトハ定義ガ困難デアルカラ、矢張り列擧シテ置イタ方ガ、洩レルコトガナクテ宜カラウト云フコトデ、斯様ナ列擧ノ形式ヲ採ルコトニナツタノデアリマス、而シテ條約第二條ニ於テハ「法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス」ト謂フコトニナツテ居リマスガ、此所ニ掲ゲテアリマス事項全部ガ各國ノ法制ノ「システム」ニ從ツテ、其ノ中ニ取入レラレ、バ宜イノデアツテ、此ノ一語々々ガ其ノ儘各國ノ國內法ノ法文ノ上ニ現レテ來ナケレバナラヌト云フ趣旨デハナイト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス。

次ニ原案ノ第一條二項(ロ)ノ栽培、採取、生産ニ關スル規定、之ハ最モ議論ノ多イ點デアリマス

ガ、後ニ御説明申上ゲマシヤウナ理由ニ依リマシテ、條約文第二條ニ加ヘズ、別ニ第五條ト云フ條文ヲ設ケタノデアリマス。

次ハ條約文ノ第二條(ロ)「本條ニ規定セラルル行爲ノ共犯」、之ハ原案ニ於キマシテハ(ハ)トシテ「前記行爲ノ何レカノ遂行ヲ目的トスル教唆及幫助」ト云フコトニナツテ居タノデアリマス、之ヲ修正致シマシタ理由ハ「教唆幫助」ト云フ言葉ヲ使ハズシテ、一層簡單明瞭ナ言葉デ、而モ包括的ナ言葉ヲ用ヒタラドウカト云フコトト、通貨偽造防止條約ノ用語例ニ倣ツタ方ガ宜クハナイカト云フ理由ニ依リマシテ、「行爲ノ共犯」ト云フコトニ修正サレタノデアリマス、而シテ此ノ點ニ關シマシテハ、教唆幫助ヲ獨立犯トシテ處罰スルコトハ我が國內法ニ於ケル他ノ規定トノ均衡上同意シ難キ旨宣言スルコトト云フ御訓令ヲ戴イテ居タノデアリマス、ソコデ此ノ訓令ノ趣旨ニ從ツテ修正案ヲ提出致シタノデアリマス、所ガ各國代表ノ意向ガ、麻藥犯罪ニ關スル限リハ成ベタ廣ク、而モ重ク罰シヤウ、サウシナケレバ取締ノ目的ヲ達シ得ナイト云フ會議ノ大勢デアツタノデアリマス、尙原案自體ガ教唆幫助ヲ獨立犯トシテ罰スル趣旨ニ於テ出來テ居ルノダト云フ主張ガ會議ノ席上ヘ出テ來タノデアリマス、尙ホ一ツハ今度ノ會議ノ直前「ジュネーブ」ニ於テ開カレマシタ所ノ阿片委員會ニ於テ、日本ノ法制ガ不備ダトカ、日本ノ取締ガ徹底シテ居ナイトカ云フコトデ、其ノ當時ノ帝國代表ガ相當強ク各國代表カラ攻撃サレタラシイノデアリマス、其ノ直後ニ又此ノ問題ガ起リマシ



八  
タノデ、日本トシテ之ヲ益々強ク主張スレバ、スル程各國代表ガ日本ノ反對側ニ立ツテ了フト云フヤウナ形勢ニナツテ參ツタノデアリマス、ソコデ最後マデ此ノ主張ヲ推シ進メテ行ケバ留保シテ調印スルカ、又ハ調印シナイト云フコトニスルカ、何レカノ方法マデ行カナケレバナラスト云フ形勢ニナツテ了ツタノデアリマス、ソコデ色々研究相談致シマシタ結果、之レ以上強硬ニ主張スレバ益々御訓令ノ趣旨ニ反スルコトガ明確ニナツテ、ソレガ條文ノ上ニ現レテ了フ、ソレヨリモ寧ロ此ノ際ハ此ノ程度ニ止メテ置イテ、アトハ原案ノ第十二條、條約ノ第十五條ニ依テ、然ルベク處置シタ方が適當デハナカラウカト云フコトニナツタノデアリマス、從ツテ此ノ點ハ明確ニ條約文ノ上ニ御訓令ノ趣旨ヲ現スコトガ出來ナカツタノデアリマス

次ハ條約文ノ(ハ)「前記行爲ノ何レカノ遂行ヲ目的トスル結合又ハ同意」、之ハ原案ノ儘デアリマス

次ハ(ニ)「未遂行爲及國內法ニ依リ規定セラルル條件ノ下ニ於テ豫備行爲」、之ハ原案ニハ(ホ)「實行ノ開始ノ階程ニ達シタル未遂行爲」トアツタノデアリマス、「實行ノ開始ノ階程ニ達シタル」ト云フ文字ヲ削除シタノデアリマス、其ノ理由ハ、各國ノ法制ガ此ノ點ニ於テ違フヤウデアリマスガ、大多數ノ法制ハ「未遂」ト云ヘバ既ニ「實行ノ開始ノ階程ニ達シタル」ト云フコトヲ含ンデ居ルノデアリマス、所ガ或ル國ノ法制デハ之ヲ含マナイ所ノ未遂ト云フモノガアル。ソコデ此ノ字句

ヲ削ラナケレバ、其ノ國ノ國內法制ト本條約トノ解釋上疑義ヲ生ズルト云フノデアリマス、而シテ日本ノ法制カラ言ヘバ、此ノ字句ハ有ツテモ無クテモ結局未遂ノコトデアツテ、同ジコトデアリマス、ソコデサウ云フ色々論ガアルナラバ、之ヲ削ツテ了ツタ方が宜カラウト云フコトニナツテ、「未遂行爲」ト致シタノデアリマス、次ハ(ニ)ノ後段「國內法ニ依リ規定セラルル條件ノ下ニ於テ豫備行爲」、之ハ趣旨ニ於テハ原案ト變ラナイノデアリマス、即チ國內法ガ豫備ヲ罰シテキル場合ニ於テハト云フ趣旨デアツテ、唯用語トシテ、原案ヨリモ條約文ノ方が一層正確ダト云フコトデ修正サレタノデアリマス

次ハ條約文第三條、之ハ領事裁判權ニ關スルモノデ、原案ニナカツタモノガ新シク加ツタノデアリマス、其ノ理由ハ埃及ノ代表ガ、自分ノ國ニハ多數ノ國ノ領事裁判權ガ行ハレテ居ル、而シテ各國ガ法制ヲ各々異ニシテ居ル關係上、同ジク埃及ニ於テ麻藥犯罪ガ行ハレテモ、其ノ領事裁判權國ガ異ルニ依ツテ刑罰ヲ異ニスルト云フコトニナル、又領事裁判權ヲ持ツテ居ナイ國ノ者モ埃及内ニ居テ、從ツテ結果ニ於テ不公平ニナツテ居ル、ソコデ寧ロ此ノ際之ヲ改正シテ、領事裁判權ヲ撤廢シテ貫ヒタイト云フノデハナイケレドモ、嚴重ナ規定ヲ設ケテ居ル所ノ埃及ノ法律ヲ領事裁判官ガ適用シテ裁判スルヤウニシテ貫ヒタイ、斯ウ云フコトヲ言出シ、支那代表ハ之ヲ支持シタノデアリマス、ソコデ之ニ對シテハ、各國トモ治外法權ニ關スル問題デアリマスカラ、相當議論ガ多カツタ



ノデアリマスガ、票決ノ結果賛成四、反對五、棄權十九票デ否決サレマシタ、更ニ支那代表ノ提出致シマシタ代案ヲ票決ノ結果法律家起草委員會ニ廻付シテ修正シ、更ニ本會議ニ於テ多少ノ修正ヲ加ヘ、第三條ニ掲ゲテアリマス通り、「締約國ニシテ他ノ締約國ノ領域ニ於テ治外法權ヲ有スルモノハ該領域ニ於テ第二條ニ掲ゲラルル一切ノ行爲ヲ犯シタル自國人ヲ少クトモ當該行爲ガ自國領域ニ於テ行ハレタル場合ト同様嚴重ニ處罰スル爲必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス」、ト云フ案ニナツタノデアリマス、ソコデ我々代表部ハ請訓ヲ致シマシタ結果、之ニ賛成シテ宜シイト云フ御訓令ヲ戴キマシタノデ、之ニ賛成致シタ次第デアリマス、結局滿場一致可決シテ此ノ第三條ト云フモノガ新シク出來タノデアリマス

次ノ第四條ハ原案第一條ノ第三項ニ該當スルモノデアリマシテ、其ノ(イ)ノ範圍ニ於テハ原案通りデアリマス。唯原案ノ第三項ノ(ロ)ノ規定ニ付テハ、此ノ規定ガ具體的ニ如何ナルコトヲ規定シテ居ルノカ能ク解ラヌカラ、其ノ意義如何及具體的ニ如何ナル場合ニ適用サレルノカト云フコトヲ議場ニ於テ明確ニセヨト云フ御訓令ヲ戴イテ參ツタノデアリマス。此ノ問題ガ議場デ論議サレマシタ時ニ、各國代表ガ色々考ヘテ見マシタ所ガ、適切ナ具體的事例ガ考ヘ出セナカッタノデアリマス、ソコデ此ノ會議ニ於テ具體的事例ノ考ヘラレナイヤウナ規定ハ是ハ必要ナシト云フコトニナリマシテ、原案ノ(ロ)ハ削除ト云フコトニナツタノデアリマス

次ハ第五條、之ハ栽培、採取及ビ生産ニ關スル規定デアリマシテ、會議ニ於テ最モ議論ノ多カッタ點ノ一ツデアリマス。原案ニ於キマシテハ第一條第二項(ロ)ニ規定サレテ居タノデアリマス、此ノ原案ガ出來マシタノハ、一昨年ノ暮ノ専門家委員會ニ於キマシテ、我國ノ委員及ビ他ノ一國ノ委員ガ熱心ニ主張シタ結果、委員會ノ原案ニ入ツタノデアリマス、所ガ今度ノ條約會議ニ臨ミマスニ當リマシテ、阿片委員會ノ幹事會ヲ開キマシテ、訓令案ヲ造リマス時ニ、此ノ點ヲ果シテ條約會議ニ於テモ強ク主張スルノガ適當カドウカト云フコトガ議論ニナリマシテ、其ノ結果トシテ不正ノ栽培、採取及ビ生産ガ不正取引ノ源泉トナルベキ場合アルニ鑑ミ、不正取引防止ノ徹底ヲ期スル爲メ同規定ノ必要ナルコトヲ主張スルコト、本趣旨ガ他日開催ヲ豫想セラルベキ國際阿片會議ノ議題トナルベキコトノ諒解ヲ得タルトキハ、此ノ規定ノ削除ニ同意スルモ差支ナキコトト云フ御訓令ト爲ツタノデアリマス。條約會議ノ議場ニ於キマシテハ賛否兩論ガアツタノデアリマス、此ノ原案ヲ維持スベシト云フ主張ヲ爲ス者ハ、麻藥犯罪ヲ徹底的ニ取締ラウトスレバ、遡ツテ栽培、採取及ビ生産マデ取締ラナケレバ、克ク其ノ目的ヲ達シ得ナイ、又本條約ハ不正取引防止ノ爲ノ條約デハアルケレドモ、既ニ不正取引以外ノ事項ヲ規定シテ居ルカラ、採取、栽培及生産ニ關スルコトヲ本條約中ニ規定シテモ敢テ不當トハ謂ハレナイト云フコトヲ主張シタノデアリマス、所ガ反對説ハ、此ノ條約ハ不正取引防止ト云フコトヲ目的トシテ居ル條約デアアル、從ツテソコ迄遡ツテ此ノ條約ノ中ニ



規定スルト云フコトハ、本條約トシテハ行過ギデア、ノミナラズ各國代表中ニハソコ迄ノ權限ヲ持ツテ此ノ議場ニ臨ンデ居ナイモノモアルト云フコト、採取、栽培及生産ニ關スルコトハ、追ツテ開カルベキ生産制限ニ關スル條約會議デ論議スルコトヲ適當トスルト云フコトヲ主張シタノデアリマス。結局ハ票決ト云フ所マデ行キマシテ、其ノ結果トシテ此ノ條約文ヲ存置スベシト云フ方ガ十五票、削除スベシト云フ方ガ十一票、棄權六票ト云フコトニナツテ、結局存置ト云フコトニナツタノデアリマス。票決ノ結果ハ存置スベシト云フコトニナリマシタガ、削除説モ相當強カツタノミナラズ有力ナ國々デ削除スベシト云フ説ヲ主張シテ居ル者ガアツタノデ一應票決ノ結果存置ト云フコトニナツタケレドモ、之ヲ條約本文ノ上ニ其ノ儘存置スルト云フコトハ如何デアラウカトイフコトガ考慮サレタノデアリマス、第二條ニ存置シテ置キマスト、採取、栽培及生産ヲ嚴重處罰スル爲ニ立法スル義務ヲ各國ガ負擔スルコトニナルノデアリマス、ソコデ本條約ニソコ迄規定スルノハ行キ過ギデハナイカト云フノデ、起草委員會ノ方デ第二條カラ引キハナシ、獨立サセマシテ第五條ニ致シタノデアリマス、其ノ結果トシテ各締約國ハ新ニ立法スル義務ヲ負ハズ、唯「同様嚴重ニ處罰スベキモノト爲スベシ」ト云フコトヲ約束シタト云フコトニ爲ツタノデアリマス、即チ現ニ之等ノ栽培、採取及生産ヲ取締ルベキ規定ノアル國ニ於テハ、其ノ法定刑ヲ高メ其ノ他適當ナ方法ニ依リ第二條ニ掲ゲテアル犯罪ト同様ニ嚴重ニ處罰スルヤウニ仕様ト云フコトニナツタノデアリマス、從ツテ

現ニ此ノ取締法令ヲ持ツテ居ナイ國ニ於テハ、新ニ立法ノ義務ヲ負ハナイノデアリマス、第二條ハ「法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス」ト書イテアルガ、第五條ニハサウ云フ文句ハナイノデアリマス、又後ノ第九條トノ關係上、第二條ニ掲ゲテアル犯罪ハ引渡犯罪トナルノデアリマスガ、第五條ノ犯罪ハ引渡犯罪トナラナイノデアリマス、之ガ採取、栽培及生産ニ關スル規定ヲ第二條中ニ置カズシテ、第五條ト云フ特別ナ條文ヲ設ケタ理由デアリマス。次ハ第六條、之ハ國際的前科承認ノ問題デアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ我國ハサウ云フ主義ヲ採ツテ居ナイト云フコトヲ議場ニ於テ明白ニセヨト云フ御訓令ガアツタノデアリマス、所ガ我が代表ガ未ダ之ヲ表明シナイ前ニ、葡萄牙ノ代表ガ、現在各國デ國際的前科承認主義ヲ採ツテ居ル國ハ、諾威、伊太利、波蘭、墨西哥、紐育州刑法デ、其ノ他ノ國ハ此ノ主義ヲ採ツテ居ナイト云フコトヲ發言シタノデアリマス、各國代表中ニ異論ヲ挿ムモノナク結局御訓令ノ趣旨ヲ態々發言シナクテモ、之ニ依テ明瞭ニナツテ仕舞ツタノデアリマス

次ニ第七條及ビ第八條、之ハ國際犯罪處罰ニ關スル規定デアリマスガ、此ノ二箇條ヲ原案ト對照シテ見マスト、「右ニ對スル處罰ヲ受クルコトナク」ト云フ文字ガ原案ニアリマシタガ條約文ハ之ヲ削除シテ居リマス、其ノ理由ハ御存ジノ通り、我國ノ刑法第五條ニ、外國デ確定判決ヲ受ケタ者ガ日本ニ歸ツテ來タ場合ニ、日本ノ裁判所デ再ビ刑ヲ言渡スコトガアリ得ルト云フ規定ヲ設ケテ居ル



ノデアリマス、各國ニモ之ト同趣旨ノ規定ガアル所ガ相當アルヤウデアリマス、從ツテ此ノ原案ノ第三條四條ノヤウニ「右ニ對スル處罰ヲ受クルコトナク」ト云フコトノ條件ヲ附シテ置キマス、各國ノ國內法ト矛盾スル場合ガアルノデアリマス、ソコデ左様ナコトハ各國國內法ノ主義ニ委シタ方ガ適當デアルト云フコトニナリマシテ、之ヲ削除シタノデアリマス、其ノ他ノ點ニ付キマシテハ修正ハアリマセヌ

次ハ條約ノ第九條、原案ノ第五條デアリマスガ、第一項カラ第三項迄ハ原案通りデアリマス、第四項ガ少シ修正サレテ居ルノデアリマス、第四項ハ原案ニ依リマス「犯罪人引渡ノ請求ヲ受ケタル締約國又ハ其ノ裁判所ニシテ」ト云フ文句ガアツタノデアリマス、之ハ各國ノ法制ノ中ニ、引渡ノ請求ヲ受ケタ時ニ引渡スベキヤ否ヤト云フコトヲ、其ノ國ノ裁判所ノ判斷ニ依テ決スルト云フ法制ノ所ガアルノデアリマス、ソコデ斯ウ云フ文句ガ原案ニ入ツテ居タノデアリマスガ、ソレヲ今度ハ廣ク「締約國ハ其ノ當該官憲ガ」ト修正シタノデアリマス、之ハ重大ナル修正デハナイト思フノデアリマス

次ハ條約ノ第十條、原案ノ第六條デ、之ハ押收、沒收ニ關スル規定デアリマス、此ノ點ニ關シマシテハ、我國ハ國內法ノ關係上、沒收ヲ必ズスルノデハナク、沒收シナイ場合モアルト解スルト云フコトヲ表明セヨ、又「生産品」ト云フ言葉ハ意味ガ明瞭デナイカラ、之ヲ「藥品及物質」ト修正

セヨ、不正取引行爲者ニ屬スル建物、資金及利得金ヲ押收及ビ沒收スベシト意見並ニ沒收麻藥ヲ廢棄スベシトノ意見ニ對シテ反對ヲ表明セヨト云フ御訓令ヲ戴イタノデアリマス、會議ノ結果ハ「麻藥並ニ物及器具ハ押收及沒收セラルルコトヲ得」トナツタノデアリマス、之デ沒收シナイ場合モアルト云フ趣旨ハ明瞭ニナリ、且原案ノ「生産品若ハ機械、器具及其ノ他ノ物件」ガ「麻藥並ニ物及器具」ト修正サレタノデアリマス、次ニ利得金、資金、建物ノ關係デアリマスガ、此ノ點ハ賛否兩論ガ出マシテ、反對說トシテハ、ソコ迄ヤルノハ行過ギダト云フ說ト、ヤラウトシテモ利得金ノ範圍ト云フヤウナモノハ明確デナイ、サウ云フ明確デナイモノハ條約文ニ擧ゲナイ方ガ宜イト云フトガ主張サレタノデアリマス、積極說ノ方ハ、ソコ迄ヤラナケレバ取締ノ目的ヲ達シ得ナイト云フトデアリマスガ、色々議論ノアツタ結果ト致シマシテ、此ノ點ハ條約文ニ規定シナイコトニナツタノデアリマス

次ハ第十一條、中央廳ノ問題デアリマス、此ノ點ニ關シマシテハ麻藥犯罪取締ノ爲ノ特別警察組織ヲ爲スベキ義務ヲ意味スルモノナラバ、ソレニハ反對セヨト云フ御訓令ガアツタノデアリマス、議場ニ於キマシテハ之ヲ積極的ニ主張スル者ト、反對スル者トガアリマシタガ、反對者ハソレハ各國ノ國內ノ政治組織及財政問題ニモ關係スルコトデ、一概ニ條約文ノ上ニ規定スルノハ適當デナイト主張致シタノデアリマス、結局之ハ條約本文ノ上ニ現サナイデ、最終議定書ニ於テ「勸告」ト云



フ形ヲ執ルト云フコトニナツタノデアリマス、

次ハ第十二條、各國中央應間ノ連絡ニ關スル問題デアリマス、其ノ第二項(イ)ノ所ニ「進行中又ハ計畫中ノ取引ニ關シ」云々トアリマスガ、此ノ點ニ關シマシテ、其ノ取引ハ不正取引ニ限ルト云フ趣旨ヲ明確ニセヨト云フ御訓令ヲ戴イタノデアリマス、ソコデ我代表ハ取引ノ上ニ「不正」ト云フ文字ヲ加ヘルト云フ修正案ヲ提出シタノデアリマス、所ガ各國代表者ノ中デ一昨年暮ノ専門家委員會ニモ出席シテ居タ人々ガ、ソレハモウ専門家委員會デ議論濟ノコトデ、不正取引ニ限ルト云フコトハ明白デアアル、其ノ意味デ原案ガ出來テ居ルノデアアル、假ニ強イテ「不正」ト云フ言葉ヲ入レヤウトシテモ、何ガ不正カト云フコトニナルト、條約文ノ中ニソレヲ判斷スベキ根據トナル條文ガナイ、結局ハ各國ノ國內法ニ違反スル不法取引ト云フコトニ考ヘザルヲ得ナクナツテ來ル、ノミナラズ此ノ條約自體ガ不正取引ヲ防止スルコトヲ目的トシテ居ルモノデアアルカラ、合法取引マデ互ニ通報スルト云フヤウナコトハ、初メカラ問題ニナラナイ筈ダト云フヤウナコトガ議場デ各國代表者カラ發言サレタノデアリマス、從ツテ日本ノ修正案ハ、其ノ意味ニ於テ必要ナシト云フコトデ、否決サレテ仕舞ツタノデアリマス、從テ條約文ノ上ニ於キマシテハ「取引」ト云フコトニナツテ居リマスガ、議事録ノ上デハ不正取引ニ限ルンダト云フコトガ明白ニナツテ居ルノデアリマス、之デ御訓令ノ趣旨ハ徹底シテ居ルト思フノデアリマス

次ハ第十三條、之ハ各國間ニ於ケル司法事務共助ニ關スル問題デアリマス、其ノ中デ原案ノ第十條第一項ノ(ニ)「外交機關ヲ經由スルコト」ト云フ規定ガ削除ニナツタノデアリマス、之ハ葡萄牙ノ提案ニ基イテ削除サレテ仕舞ツタノデアリマスガ、之ヲ削除サレマスト、日本ノ國內法上困ルノデソコデ其ノ事情ヲ述ベテ、何等カ緩和規定ヲ設ケラレ度イト云フコトヲ、我が代表部カラ主張致シマシタ結果トシテ、條約文ノ第二項ト云フ規定ガ新設サレタノデアリマス、ソレニ依リマス、各締約國ハ自國領域内ニ於テ施行セラルベキ司法事務共助囑託書ガ外交機關ヲ經由シテ送致セラルルコトヲ希望スル旨ヲ他ノ締約國ニ通告スルコトガ出來ル、其ノ場合ニ於テハ囑託ヲ爲サントスル國ハ其ノ通告ニ從ツテ囑託スルト云フ緩和規定ガ出來タノデアリマス、此ノ規定ガ出來レバ原案ノ(ニ)ガ削除サレテモ、我國トシテハ差支ナカラウト云フコトニナツタノデアリマス

條約文ノ第十四條、第十五條及第十六條ハ修正サレテ居リマセヌ  
尙ホ原案ノ第九條、阿片諮問委員會ニ關スル規定、此ノ點ニ關シテハ、之ハ條約本文ノ中ニ置カナイデ、最終議定書ノ方ヘ廻スヤウニセヨト云フ御訓令ガアツタノデアリマス、ソコデ修正案ヲ我代表カラ提出致シマシテ、其ノ修正案ガ通りマシテ、最終議定書ノ「勸告」ノ中ノ第四項トシテ記載サレルコトニナツタ次第デアリマス

以上修正ノアリマシタ點ヲ申上ゲマシタガ、之ガ合セテ十四點ゴザイマス、サウシテ此ノ條約ニ



ハ我代表ハ之ニ署名シタノデアリマス、未ダ御批准ハアリマセスガ、此ノ條約ガ追ツテ御批准ニナツタナラバ、國內法ヲ改正スル必要アリヤ否ヤト云フコトニ觸レテ來ル譯デアリマス、私カラ斯様ナコトヲ申上ゲルノハ甚ダ恐縮デゴザイマスガ、御存ジノ通り條約ガ即法律ナリヤ否ヤ、條約ノ國內法上ノ効力如何ト云フコトハ、既ニ久シキ以前カラ學者並ニ實務家ノ間ニ議論ガアリマス、現在又他ノ或問題ニ關シ差迫ツタ必要ガ生ジテ來テ居リマスノデ、又其ノ議論ガ盛ンニ論ゼラルルヤウニナツテ、最近ノ法律雜誌等ニモ其ノ論文ガ出テ來テ居ルデアリマス、前例ハ必ズシモ一致シテ居ルトハ言ヘナイヤウデアリマスガ、少クトモ本條約ニ於キマシテハ、條約即法律ト云フコトハ言ヘナイト私ハ思フノデアリマス、從ツテ必要アルナラバ改メテ立法ノ手續ヲ執ラナケレバナラスト思ヒマス、其ノ理由ハ、第二條ノ冒頭ニ「必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス」ト書イテアルデアリマス、又本條約ノ内容自體カラ見テモ其ノ儘デハ罰則ニナラナイデアリマス、罰則ヲ新設又ハ改正スルコトヲ約シタニ過ギナイデアリマス、斯様ニ規定シテアリマスノデ、條約即法律ト思フ問題ハ本條約ニ關スル限り起リ得ナイト云フデアリマス、從ツテ此ノ條約トシテ出來上ツタ所ノモノト現在ノ國內法令トヲ比較シテ、若シ必要アリトスレバ國內法令ヲ改正シナケレバナラスト云フ問題ガ起ルコトト思フノデアリマス。説明甚ダ不十分デアリマスガ、尙ホ其ノ他ノ詳細ノ點ニ付キマシテハ、昭和十一年八月外務省條約局第三課カラ、一九三六年麻藥不正取引防止會議

ニ關スル報告ト云フ印刷物ガ出テ居リマス、此ノ報告書ノ中ニハ相當詳シク、私ガ今此所デ申述ベマシタヨリ以上ニ詳シク記載シテ置イタ積リデゴザイマス、詳細ノ點ハソレニ讓リタイト存ジマス、之デ私ノ御報告申上ゲルコトヲ一應終リマシテ、何カ御尋ネデモゴザイマシタナラバ、ソレニ御答ヘ申上ゲタイト思ヒマス

馬場會長 何カ御質問ガアレバ此ノ際御發言ヲ願ヒマス

三谷委員 只今大竹書記官カラ詳シク、今般締結ニナリマシタ條約ノ成立ニ關シテ御説明ヲ承リマシテ、我執務上誠ニ裨益スル所大ナルモノガアリマスガ、此ノ條約ノ成立ニ當リマシテハ各關係省ノ方々カラ多大ノ御援助ヲ得マシテ、無事ニ本會議ノ終了ヲ見、又我國ト致シマシテモ此ノ條約ニ關シテ印スルノ運ビトナリマシテ、私共事務當局トシテモ大ニ感謝シテ居ル次第デゴザイマスガ、今後殘ル問題ハ此ノ條約ヲ批准シテ之ヲ實施スル問題デゴザイマス、此ノ條約ノ批准、又伴ヒマシテ只今モ御話ガ一寸ゴザイマシタヤウニ何レ國內法ノ制定ノ必要ガ起ツテ來ルデアラウト思ハレルノデゴザイマスガ、此ノ國內法ノ制定並ニ批准ニ付キマシテ、又皆様ノ御援助ヲ得タイト切ニ希望スル次第デゴザイマス、我國ハ不幸ニシテ隣國ニ阿片並ニ麻藥類ノ消費ノ非常ニ盛ンナ國ガアリマスル爲ニ、兎角此ノ問題ニ付テハ屢々困難ナル地位ニ立ツノデゴザイマシテ、我國ノ國內ノ必要ヨリモ寧ろ國際的ノ立場カラシテ此ノ問題ヲ考慮シテ、十分取締ヲ嚴ニスル必要ガアルト思フノデゴザイ



マス、先頃モ實ハ横濱ヲ出テ「シヤトル」ニ參リマシタ平安丸ニ乘リマシテ、多量ノ麻薬ノ密輸入ガアリマシテ、大分亞米利加等ノ問題ニナリカケタノデゴザイマスガ、幸ニシテ外務當局ノ周到ニシテ且ツ敏速ナル御處置ニ依リマシテ、其ノ主ナル被疑者ヲ捕ヘルコトガ出來マシテ、私共對外關係上大ニ喜ンデ居ツタ次第デゴザイマス、先頃「ジュネーヴ」ニ此ノ阿片麻薬並ニ危險藥品ノ取締ニ關スル諮問委員會ガ開カレマシテ、其ノ席ニ於キマシテ又滿洲國並ニ北支ニ於ケル麻薬ノ不正取引ノ問題ガ大分問題ニナリマシテ、亞米利加委員ヤ埃及委員ナドカラ可成リ攻撃ト申シマスカ、注文ト申シマスカ話ガアツタヤウデゴザイマシテ、ソレガ新聞ニ傳ヘラレ、爲ニ支那ナドデハ大分大袈裟ニ宣傳ガ行ハレタヤウデゴザイマス、デ亞米利加其ノ他ノ國ガ此ノ國際諮問委員會等ニ於テ爲シマスル議論ニハ、往々ニシテ誇張サレタ言説モアルノデゴザイマスケレドモ、何分ニモ先程申シマシタ通り支那ノヤウナ麻薬類ニ對スル需要ガ非常ニ盛ナル土地ニ我國トシテハ發展致シテ居リマスル關係上、又發展セザルヲ得ナイ關係上、屢々困難ナル地位ニ立ツノデアリマシテ、殊ニ此ノ日本ノ政情ナリ國益ノ尊重ノ爲ニハ、ドウシテモ北支等ニアリマスル不正取引ノ取締ト云フコトニハ非常ニ力ヲ用ヒナケレバナラナイト云フノデゴザイマス、デ其ノ爲ニ現在アリマスル取締規則ハ、海外ニ適用サレルモノトシテハ外務省令ノ規定ガゴザイマスル、又國內ニ於ケル取締規則トシテハ矢張り内務省令ガアルノデゴザイマスルガ、省令デアリマスル關係上其ノ罰則ハ刑

法ニ規定サレテ居リマス所ノ阿片吸煙ノヤウナ場合ト比較シマシテ輕微ナノデゴザイマス、其ノ爲ニドウモ思フ様ナ取締ノ事實ガ擧ラナイノデハナイカト云フヤウナ氣モ致シマス、此ノ問題ハ結局ニ於テ此ノ日本ノ色々名聲ニ關係スルト云フバカリデナク、相當ノ時ニ相當ノ取締ヲセナイト云フト此ノ麻薬ノ惡イ習慣ノ傳播シテ參リマスルコトガ、亞米利加ナドニ取ツテハ實際ニ國內上ノ脅威ニナツテ居リマスル關係上、唯道德問題トシテデナシニ、此ノ問題ニ對スル注意ガ、全國的ニ亞米利加ニ於テ喚起サレテ居ルヤウナ事情ガアリマシテ、此ノ問題ハ相當眞劍ニ取扱ツテ行カナイト云フト、嘗ニ日本ノ名聲ガ汚サレルト云フバカリデナシニ、結局日本ガ地球上ニ於テ其ノ國力ヲ發展セシメテ行ク上ニ於テ支障ニナルト云フ危險ガナイトモ限ラナイノデアリマシテ、此ノ點カラ申シマシテモ十分ニ此ノ取締ハ實現シタイモノト考ヘテ居リマスル考ノ一端ヲ申上ゲタ次第デゴザイマス借サセテ戴キマシテ、外務省トシテ考ヘテ居リマスル考ノ一端ヲ申上ゲタ次第デゴザイマス  
 挾間委員 只今外務省カラノ御希望ノ點ニ付テ、内務當局トシテ簡單ニ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、此度ノ條約ノ御批准ト云フコトニモ少シ關係ヲ持ツコトト思ヒマスガ、麻薬ノ不正取引、密輸ト云フ問題ニ付キマシテハ、カネガ内務當局ト致シマシテモ心ヲ碎イテ居ルノデアリマス、先刻ノ御話ノ平安丸ノ「モルヒネ」密輸ニ付キマシテハ、事ガ餘リ大キナ問題デアツテ、從ツテ國際關係ニモ及ブコトデ、極力其ノ處置ニ努力シタノデゴザイマスガ、幸ヒ被疑者ガ捕ヘラレテ處罰ニナツタ











拂下ヲ行ツテ來タノデゴザイマスガ、其ノ後内地ノ麻藥所要量ガ漸減致シマシテ、原料ノ需要ガ從ツテ減ズルニ至リマシタノデ、最近ニ於ケル内地ノ輸入許可量ヲ標準ト致シマシテ、昭和十二年度以降ハ毎年度千二百五十瓦ニ減ズルコトニナツテ居リマス、又臺灣カラ朝鮮ニ出シテ居リマシタ粗製「モルヒネ」モ、最近朝鮮ニ於ケル麻藥中毒患者ノ激減ニ依リマシテ、昭和十年度以降ハ之ガ供給ヲ中止スルト云フ状態ニ立到ツテ居ルノデアリマス、此ノ様ナ状態デ粗製「モルヒネ」ノ處分ニ一頓挫ヲ來シタノデアリマシタガ、其ノ際内務省カラ東京衛生試験所ノ磷酸「コデイン」ノ製造原料トシテ臺灣ノ粗製「モルヒネ」ヲ讓受ケタイト云フ申出ガゴザイマシタノデ、昨年ノ十一月ノ閣議決定ヲ經マシテ、毎年五百五十瓦ヲ昭和十二年度以降内務省ニ讓渡スルコトニ取極メガ出來タノデアリマス、大體以上ヲ以チマシテ今日迄ノ臺灣ノ粗製「モルヒネ」ノ處分ノ經過ヲ申上ゲタノデアリマスルガ、今回滿洲國ニ於キマシテハ麻藥專賣制度ヲ實施サレルコトニナリ、既ニ九月十五日カラ之ヲ施行シテ居ラレルノデアリマスルガ、之ガ爲ニ我國ニ麻藥千五百瓦ヲ製造ノ上讓渡シテ欲シイト云フ申込ガ參ツタノデアリマス、ソコデ滿洲國ノ此ノ麻藥政策ハ人道ノ見地ニ立チマシタ誠ニ適當ナル措置ナリト云フ考カラ、先程ノ説明書ニアリマス通り出來ルダケ之ヲ援助スル方針ヲ執リ、内地ノ製藥會社ニ製造セシムルコト、シタノデスガ、之ヲ内地デ製造致シマスノニ原料ガゴザイマセヌノデ、臺灣ノ粗製「モルヒネ」ヲ使用スルコトニ致シタイ、サウ致シマシテ之等ノ點ニ

付キマシテ臺灣總督府トノ折衝ヲ重ネマシタ結果、千五百瓦ノ原料ト致シマシテ粗製「モルヒネ」千七百八十瓦ヲ要シマスノデ、之ヲ内地ノ先程申上ゲマシタ三製藥會社ニ拂下ゲルコトニ協定ガ整ツタ次第デアリマス、尙ホ明年度以降ニ於キマシテハ、滿洲國ノ專賣當局ニ於キマシテモ麻藥ヲ製造スル計畫デアリマスルガ、其ノ不足分ハ相變ラズ内地、朝鮮カラ讓受ケタイト云フ希望ガアリマシテ、最近滿洲國ノ當局ガ上京サレテ、明年度以降ノコトニ付テハ御打合せスルコトニナツテ居リマス、大體以上申上ゲタヤウナ次第デゴザイマシテ、從來臺灣ノ粗製「モルヒネ」ノ處分ニ關シマシテハ、其ノ都度阿片委員會ニ諮問致シマシテ、其ノ上テ閣議ヲ經テ實行ニ移シテ居ツタヤウナ次第デゴザイマシテ、先例ニ依リマシテ今回此ノ手續ヲ執ツタヤウナ次第デアリマス、尙ホ御質問ニ依リマシテハ御答ヘ致スコトニ致シマシテ、一應簡單ニ申上ゲテ置キマス

馬場會長 衛生局長ノ御説明ヲ願ヒマス

挾間委員 只今拓務省殖産局長カラ詳細御説明ガゴザイマシタノデ、此ノ諮問案ノ内容ニ付キマシテ、内務省關係ノ立場ニ於テ御説明申上ゲタイト思フノデアリマスルガ、多少ノ重複ガタイトモ限リマセス、豫メ御諒承置キヲ願ヒタイト存ジマス、先程モ御説明ゴザイマシタヤウニ、今回滿洲國ニ於キマシテ麻藥專賣制度ヲ實施スルト云フコトニナリマシテ、其ノ結果鹽酸「モルヒネ」ト鹽酸「デアセチルモルヒネ」、此ノ二ツヲ内地カラ輸入シタイト云フ希望ガゴザイマシテ、其ノ斡旋方ヲ



同國ノ專賣總務局長カラ内務省衛生局長ニ宛テマシテ申込デ參ツタノデアリマス、内務省ト致シマシテモ滿洲國ノ專賣制度トシテ麻藥ノ專賣ヲ確立スルト云フコトハ希望致シテ居リマス點デアリマスルノデ、内地ノ關係ニ於テ能フ限リノ助力ヲ致シタイ、斯クシテ滿洲國側ノ希望ニ應ジタイト云フ方針ヲ執ツタノデアリマシタ、所デ滿洲國カラノ希望數量ハ、先程御話ガアリマシタガ、鹽酸「モルヒネ」ガ三百瓦、鹽酸「デアセチルモルヒネ」ガ千二百瓦、合セテ千五百瓦ト云フコトニナツテ居リマス、御存ジノ通り内地ニ於キマシテハ之等ノ麻藥ハ三共株式會社、星製藥株式會社、大日本製藥株式會社ノ三社デ從來製造致シテ居リマスルノデ、今回ノ需要量ニ付キマシテモ、同ジク此ノ三會社ニ命ジテ製造サセタイト云フ考デゴザイマス、然ル所此ノ千五百瓦ノ麻藥ノ製造原料ト致シマシテハ、生阿片ノ「モルヒネ」含有量十%ノモノガ約一萬五千瓦必要ナノデアリマスガ、併シ今日内地ニ於キマシテハ之ニ充當スル生阿片ノ在庫品ガナイノデアリマス、併シ又滿洲國ニ於テハ麻藥政策確立ノ爲メ一日モ早ク此ノ千五百瓦ヲ入手シタイト云フ希望ガアリマスルノデ、已ムナク臺灣産ノ粗製「モルヒネ」ヲコチラニ移入致シマシテ、三會社ノ製造原料ニスルコトガ目下ノ對策トシマシテ最モ適當デアルト云フ風ニ考ヘマシテ、ソコデ此ノ千五百瓦ノ「モルヒネ」製造原料トシテ粗製「モルヒネ」ヲ千七百八十瓦入手シタイ、此ノ數量ヲ三會社ニ拂下ゲルコトヲ適當ト認メマシテ、臺灣事務當局ト數次交渉ヲ致シマシタノデアリマスガ、幸ヒ總督府ニ於キマシテハ此ノ千

七百八十瓦ノ粗製「モルヒネ」ノ拂下可能デアルト云フノデ、承諾ヲ得ルコトヲ得タノデアリマス、斯様ナ次第デゴザイマシテ此ノ問題ハ此ノ千七百八十瓦ヲ臺灣ヨリ移入スルコトニ依ツテ圓滿ニ遂行スルコトガ出來ルノデアリマス、唯臺灣産ノ粗製「モルヒネ」ノ處分ハ、御存ジノ通り從來閣議決定ヲ經テ施行スルコトニナツテ居リマス、其ノ決定ヲ經ル前提ト致シマシテ、此ノ委員會ニ御諮問ニ相成ツタヤウナ次第デゴザイマス、内地ノ關係ハ右様申上ゲタ狀況デゴザイマスルノデ、一應其ノ經過ヲ御説明申上ゲタ次第デゴザイマス

馬場會長 條約局長ノ御説明ヲ願ヒマス

三谷委員 私カラ外務省關係ノ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、先程カラ拓務省及ビ内務省ノ方カラ段々御説明ガゴザイマシタ通り、此ノ度滿洲國ニ於キマシテ新シイ麻藥法ガ制定サレマシテ、此ノ九月十五日カラ實施セラレマシテ、麻藥ノ不正取引ヲ嚴重ニ取締ルト共ニ、麻藥ノ癮者ヲ漸次救療シテ、之ヲ無クシテ行クト云フ方針ヲ執ラレルコトトナリマシテ、其ノ爲ニ今滿洲國ニハ麻藥癮者ガ約十萬乃至三十萬アルト云フコトデゴザイマシテ、ソレ等ノ救療ノ爲ニ一年約七千瓦ノ麻藥ガ要ルト云フコトデ、差當リ本年度ノ需要ヲ充タス爲ニ、千五百瓦ノ麻藥ヲ日本カラ輸入シタイト云フ注文ヲシテ參ツタノデゴザイマス、此ノ滿洲國ノ新麻藥政策ハ、先程モ申上ゲタヤウニ不正取引ヲ嚴禁シテ、其ノ癮者ニ對シテハ漸禁政策ヲ執ラウトスルモノト了解シテ居リマスルノデ、此ノ政策



ヲ萬難ヲ排シテ支持スルコトガ必要ト認メマシテ、拓務省、内務省ノ委員カラ御説明ニナリマシタ  
 ヤウナ措置ガ執ラレルコトニナツタノデゴザイマス、ソレデ御承知ノ通り麻薬ニ關シマシテハ、日  
 本國モ締約國トナツテ居リマスル條約ガアルノデゴザイマスガ、殊ニ一九三一年ニ署名サレマシタ  
 麻薬製造制限條約第十四條ニ依リマス、一應麻薬ノ滿洲國ヘノ輸出ヲ「ジユネーヴ」ノ國際聯盟  
 阿片中央委員會ニ對シテ報告ヲシナケレバナラヌ義務ヲ持ツテ居ルノデゴザイマスルケレドモ、尙  
 ホ滿洲國ニ於キマスル麻薬政策ノ色々實施ノ細目等ニ付テ十分明カデナイ點モゴザイマスルシ、御  
 承知ノ通り兎角滿洲國及ビ北支ニ於ケル我方ノ關係ノ麻薬ノ問題デ兎角非難ガアリマシテ、日本ニ  
 對スル逆宣傳……デハナイ、日本ニ反對スル宣傳ノ材料ニ使ハレルヤウナ傾向サヘ見エルヤウナ狀  
 態デアリマスルノデ、此ノ上此ノ千五百瓦ノ麻薬ヲ滿洲國ニ送ツタト云フヤウナコトヲ簡單ニ報告  
 シマシテハ、徒ラニ輿論ヲ刺戟スル、聯盟當局者ニ報告スル限リハ世間一般ニ知レル譯デゴザイマ  
 スガ、非常ニ輿論ヲ刺戟スルト云フ風ニ考ヘマスルノデ、其ノコトハ適當デナイト思ヒマスルカ  
 ラ、差當リ此ノ本件ノ通報ハ致サナイコトニ致シタイト思ヒマス、今後ノコトハ又能ク考慮シテ善  
 處致シタイト思ヒマスルガ、今回議題トナツテ居リマスル本件ハ、滿洲國トモ能ク相談致シマシテ  
 一切公表シナイコトニ致シタイト思ヒマスルノデ、ドウゾ皆様モ今日茲デ議題ニナリマシタ點ハ、  
 當分ノ間極秘ト云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

馬場會長 何か御質問ナリ御意見等アリマスレバ、此ノ際御發言ヲ願ヒマス

松本委員 チョット御尋ネシタイトスガ、此ノ粗製「モルヒネ」ノ今度ノ拂下ノ價格ハ大體下ノ位

デアリマスカ、尙ホ滿洲國ヘ賣渡ス所ノ値段ト云フヤウナモノニ付テハ、官廳トシテ何か容喙スル

権限ガアルデセウカ

植場委員 内地ニ讓渡致シマスル價格ハ、私カラ申上ゲマスガ、三百五十圓ト致シテ居リマス

挾間委員 只今讓受ケル方ノ價格ハ、三百五十圓ト云フノデ御説明ガゴザイマシタ、向フヘ、滿洲國

ヘ賣リマスルモノニ付キマシテハ、實ハ未ダハツキリト決ツテ居リイノデゴザイマスルガ、大體ノ

見込ヲ申上ゲマス、<sup>一</sup>一鹿當リ鹽酸「モルヒネ」ヲ五百九十六圓、ソレカラ鹽酸「デアセチルモル

ヒネ」ハ五百八十二圓ト云フコトニ致シタイト思ツテ居リマス、尙ホ其ノ外小分ケヲ致シマス

カ、容器トカ、荷造リ、保險、運賃、其ノ外運搬ニ要スル費用ト云フヤウナモノハ、之ハ實費ヲ申

受ケルト云フ條件デ進ミタイト思ヒマシテ、左様ノ趣旨ヲ滿洲國ノ專賣總務局長宛ニ、コチラノ衛

生局長カラ目下照會中デゴザイマス

松本委員 大分解リマシタガ、其ノ値段ノ決メ方ハ、粗製「モルヒネ」ヲ鹽酸「モルヒネ」ナリ其ノ

他ノ「モルヒネ」ニ精製スル工程ニ於テ、之レダケノ差額ヲ生ズルト云フ意味デアリマスカ、或ハ

鹽酸「モルヒネ」其ノ他ノ市價ト云フモノカラ割出シタ値段デアリマスカ



挾間委員 御尋ネニ對シマシテ御答へ致シマス、必ズシモ市價ト同様ト云フ譯デハナイノデアリマシ  
テ大體原料ノ經費、ソレカラソレヲ購入致シマシテ、今度向フカラ金ヲ受取リマス間ノ金利ノ問  
題、ソレカラ製造工程ニ要シマスル經費、又ハ向フニ送りマス間ノ包裝費、其ノ他色々ノ雜費ヲ加  
ヘテ、只今申上ゲマシタヤウナ金額ヲ割出シマス

馬場會長 別ニ御意見等モナイヤウデアリマスガ、原案デ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

馬場會長 ソレデハ御承認ヲ得タモノト認メマス、之デ閉會致シマス、ドウモ御苦勞様デゴザイマシ  
タ

午前十一時閉會

阿片委員會

臺灣總督府專賣局粗製「モルヒネ」處分ニ關スル件

臺灣總督府專賣局粗製「モルヒネ」ハ滿洲國ニ輸出スル爲本邦ニ於テ製造スル麻藥ノ原料トシテ之ヲ  
供給スルコトヲ得

右諮問ス

昭和十二年十月十二日

拓務大臣  
內務大臣

說明

臺灣總督府專賣局粗製「モルヒネ」ノ處分ニ關シテハ昭和二年六月十四日及昭和六年五月八日ノ閣議  
決定ニ依リ内地及朝鮮ニ於ケル麻藥ノ製造原料トシテ夫々内地製藥會社及朝鮮總督府專賣局ニ讓渡シ  
來リ次ニ昭和十一年十二月十八日ノ閣議決定ニ基キ內務省ニ於ケル磷酸「コデイン」ノ原料トシテ內  
務省ニモ之ヲ讓渡シ處分シ來レリ、然ルニ右ノ中朝鮮ヘノ讓渡ハ朝鮮ニ於ケル麻藥中毒者ノ激減ニ依  
リ昭和十年度以降之ヲ中止スルコトトナリ且内地ニ於テモ麻藥所要量ノ減少ニ依リ製藥會社ヘノ拂下  
數量ヲ昭和十二年度以降減少スルノ已ムナキニ至レリ











朝鮮、關東州、滿洲國及ビ支那ニ於ケル正當需要ニ當テルコト、致シマシテ、此ノ「ストック」ヲ消費スル計畫ヲ樹立シタ次第デゴザイマス、而シテ此ノ三年間ノ期間中ニ於キマシテハ其ノ處分計畫ノ完全ナル遂行ヲ期シマスル爲、臺灣生藥株式會社ノ粗製「コカイン」製造數量ヲ「ストック」ノ處分狀況ト睨ミ合セマシテ、或ル程度制限ヲシナケレバナラヌコト、考ヘテ居リマス、尙此ノ機會ニ特ニ御願ヒ致シテ置キタイト存ジマスガ、只今申シマシタ通り此ノ「ストック」ノ處分ニ付キマシテハ、關係各廳ノ積極的ナル御協力ヲ得ナケレバ到底圓滿、完全ニ目的ヲ達成スルコトガ困難ト考ヘラレマスルノデ、今般此ノ點ニ付キマシテハ格別ナル御配慮ヲ煩ハシタク切望ニ堪ヘナイ次第デゴザイマス

候爵木戸會長 本案ニ付テ何カ御質疑ナリ御意見ナリアリマシタラ御發表ヲ願ヒマス

松本委員 外務省デ内輪デ能ク聞イテ來レバ宜カツタノデスガ、聞イテ來ナカツタノデスガ、臺灣生藥株式會社ト云フノハドウ云フ會社デゴザイマスカ、ソレカラ此ノ臺灣生藥株式會社ノ製造量ヲ制限スルト云フコトハ阿片委員會ノ權限内ノコトデゴザイマスカ、先ヅソレヲ承リタイ

副島委員 只今ノ御質問ニ付キマシテ私カラ簡單ニ御答ヲ申上ゲタイト思ヒマス、臺灣生藥株式會社ト申シマスノハ、大體名ノ如ク臺灣ニ於キマスル各種ノ麻藥類ヲ製造致ス會社デゴザイマス、今日ノ處、資本金ガ五十萬圓ト云フ會社ニナツテ居リマス、從來ノ收支ノ狀況ハ、昭和七年頃ハ相當ノ

利益ヲ舉ゲテ居リマシテ七年、八年、九年、十年之ニ至ル間一割程度ノ配當ヲ繼續致シテ居リマシタガ、其ノ後只今次官カラノ御説明ニモゴザイマシタヤウニ各種ノ關係デ營業モ稍々不振ニ陥リマシタ、配當ハ五分ニ半減ヲ致シテ居ルヤウナ狀況デアリマス、尙御參考迄ニ重役ノ氏名ヲ申上ゲマスレバ、取締役社長ハ高橋是賢サン、ソレカラ取締役ト致シマシテ鹽原又策サン、其他牧サン、内ケ崎サン、黒田サン、大石サン、ト云フヤウナ鹽水港關係ノ資本ガ相當加ハツテ居ルコトヲ御諒承願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ第二點ノ此ノ處分期間中ノ製造制限ヲ委員會デヤルカト云フ御質問デアツタヤウニ存ジマスガ、製造制限ノ具體的數量ナドハ委員會デ御決メ願フノデナク、別ニ幹事ノ手許ニ於キマシテ各種ノ條件、狀況ヲ十分ニ睨ミ合セマシテ具體的ノ數量ヲ決メサセテ戴ク、斯様ニ致スコトガ實情ニ副フコト、考ヘテ居リマス

松本委員 第一點ハ宜シウゴザイマスガ、第二點ハ徹底シナカツタヤウニ思ヒマス、諮問事項ノ最初ニ製造量ヲ減スルト云フコトガアツタノデスガ、大體製造量ヲ制限スルトカシナイトカ云フコトハ此ノ委員會ノ權限ニナツテ居ルヤウニ思ヘルノデスガ、サウ解釋シテ宜イノデスカ

副島委員 或ハ御質問ニビツタリ合フカドウカト存ジマスガ、一應御答ヘ申上ゲマスガ、此ノ臺灣生藥ノ「ストック」ヲ處分スル、ソレニ付キマシテハ此ノ委員會ノ御決定ニ基キマシテ、關係各廳ノ御協力ヲ得テ圓滿完全ニ其ノ目的ヲ達シタイ、斯ウ云フ次第デゴザイマスルガ、所ガ唯ソレダケノ



コトデアリマシテハ、然ラバ其ノ間ニ生薬ニ無制限ニ——無制限ト申シテハ語弊ガアリマスガ、必要以上ノ製造ヲモ許可スルヤウナコトニナリマシテハ、折角一方デ一生懸命處分シナガラ、別ナ方面カラ又相當ノ「ストック」ガ残ツテ行クト斯ウ云フコトデアツテハ、此ノ處分ノ趣旨ニ缺ケル所ガアル、斯ウ云フ趣旨カラ裏表ノ處置ト致シマシテ、一方處分ハ出來ルダケ速カニスル、他方製造ノ方面モ極力之ヲ必要最少限度ニ止メル、裏表ノ關係カラ御決議ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ趣旨デアリマスカラ、或ハ御質問ニビツタリ行カヌカモ知レマセヌガ

松本委員 仰シヤル通りビツタリ來ナイノデスガ、年額一千瓦ノ製造ヲ御許シニナツタノハ臺灣總督府デ、之ヲ制限スルコトガ委員會ノ諮問事項ニナルトスレバ、將來此ノ生薬會社ノ製造量ノ問題ハ阿片委員會ノ決定ニ俟タナケレバナラスト云フコトニナルノデスガ、製造量ハ總督府デ御許シニナツテ今之ヲ適當ニ減ズルト云フコトガ阿片委員會ノ決定ニナルト云フコトニナレバ、其處ニ大變何カ無理ナコトガ出來ルノデハナイカト思フノデ、只今仰シヤルヤウニ之ヲ決メテ置カナケレバ、將來必要以上ニ御製リニナルカモ知レナイガ、ソレハ臺灣總督府ガ御決定ニナルコトデ、此ノ委員會ガ臺灣總督府ノ權限ニ入ツテ行クコトガソレガ妥當デアルカ、或ハ新シイ仕來リヲ御作リニナルノデアルカ、ソレヲ伺ツテ置キタイ

副島委員 是ハ斯ウ云フコトデアリマス、御質問ノ通り製造制限致シマスノハ總督府ノ權限ニアルト

思ヒマス、從ヒマシテ將來ニ於キマシテモ此ノ製造制限ハ、例ヘバ毎年二百瓦ニ制限スルトカ三百瓦ニ制限スルトカ云フコトハ總督府ノ見解デ出來ルコトデアリマス、唯此ノ處分ニ付キマシテ關係各廳ノ協力ヲ得テ、ソレニ付テハ阿片委員會ノ決議ヲ得ルト云フ點カラ、之ニ付キマシテモ一應臺灣總督府ノ方針ニ付テ大體ノ指導精神ト申シマスカ、サウ云フモノヲ御決メヲ願フ、大體コンナ風ナコトニ考ヘテ居リマス、御諒承願ヒマス

原委員 最近ニ於キマスル「コカイン」ノ島内、内外地、滿洲國、支那等ニ於キマスル消費ノ分量デアリマスルガ、ソレガドウ云フ程度ニナツテ居ルカト云フコトヲ御説明願ヒタイト思ヒマス、ト申シマスルノハ「向フ三年間ニ消費スルコト」トアリマスルケレドモ、大體三箇年間ニ消費スルコトガ出來ル見込ガアリヤ否ヤト云フヤウナコトニ關聯致シマシテ御質問申上ゲタイ、ソレカラ尙「正當需要ニ充ツルコトニ依リ」ト云フコトガアリマスガ、此ノ正當需要ト云フコトハ、特ニ何カ重大ナ意味ガゴザイマスルカドウカ、此ノ二點ヲ伺ヒタイ、ソレカラ關聯シマシテ、今松本サンカラノ御話デアリマスガ、是ハ私ノ考ヲ申上ゲテ宜シウゴザイマスカ

侯爵木戸會長 ドウゾ

原委員 此ノ「限度ニ止ムルコト」ト云フ決議ヲ致シマスレバ、サウ云フヤウナ關係モ出テ來ルカト思ヒマスルノデ、限度ニ止ムルヤウニ相談致シマシテ、臺灣總督府ナリ臺灣總督府關係廳ニ於テ、



何ト申シマスカ、指導スルト申シマスカ、サウ云フヤウナ字句ニ御改メニナレバ、サウ云フ問題ハナイデヤナイカト云フヤウニ考ヘテ居リマス

松本委員 モウ一遍……

原委員 此ノ「前項ノ計畫實施上適當ト認ムル限度ニ止ムルコト」ト云フノ「——」限度ニ止ムルヤウ關係應ニ於テ處置スルコト」ト云フヤウナコトニデモシタラドウカト思ヒマス、チヨツトソレダケ申上ゲテ置キマス、前ニ申シマシタ二點ニ付テチヨツト御説明ヲ願ヒタイ

副島委員 此ノ二千五百瓦ノ「コカイン」ヲ大體消費スル見込ガアルカドウカト云フコトデゴザイマ  
スガ、或ハ是ハ厚生省カラ御答辯願ツタ方ガ適當カモ知レマセスガ、一應幹事會等デ研究ヲ遂ゲマシタ結果、其ノ見込ガ付イテ居リマス、ソレハ差上ゲマシタ此ノ表ノ最後ニ各地域別搬出豫定數量ト致シマシテ、鹽酸「コカイン」ト粗製「コカイン」トニ分ケマシテ、鹽酸「コカイン」ニ付キマシテハ島内消費四〇瓦、ソレカラ朝鮮移出ガ二〇瓦、關東州ガ三五瓦、滿洲國ガ一〇〇瓦、支那輸出ガ三〇〇瓦、合計四九五瓦、ソレカラ粗製「コカイン」ニ付キマシテハ内地ハ三〇〇瓦、朝鮮ガ一〇瓦、合計三百一〇瓦、斯ウ云フ搬出ノ豫定ヲ立テ、居ル次第デゴザイマス、大體之ニ依リマシテ三箇年間ニ消費致シマス、尙百瓦足ラズ殘ル計算ニハナリマスガ、大體ニ於キマシテ消化シ得ルト云フ見込ガ立ツテ居リマス、ソレカラ正當需要トハ如何ナル意味カト云フコトデゴザイマシタ

ガ「正當需要ト申シマスノハ、詰リ密輸出ト云フヤウナ不正ナ手續ニ依ルモノデナク、正當ナルツレト」手續ヲ經マシテ、何等其ノ間ニ忌ハシイ事實ナクシテ搬出消費シ得ルモノト斯ウ云フ、ボンヤリシタ現シ方カモ知レマセスガ、大體サウ云フ風ニ御諒解願ヒタイト思ヒマス、尙地域別ノ搬出豫定數量ニ付キマシテハ、是ハ一方的ニ豫定ヲ致シタノデハゴザイマセスノデ、大體關係應ノ了解ナリ或ハ其ノ援助可能ヲ見込ンデ居ル譯デアリマス、ソレデ間違ヒナク行クモノト考ヘテ居リマス  
原委員 サウ致シマス、第二ノ「各地域別搬出豫定數量」ト云フモノハ、是ハ正當需要ノ數量デゴザイマスナ

副島委員 サウデス

原委員 サウ致シマス、大體是デ三年間ニ「ストツク」ガ捌ケルト云フコトニナリマスルガ、從來ノヤウニ千瓦ヅ、毎年製藥シテ行クト云フコトデハ又其ノ滯貨ガ出來ルト云フコトニモナリマセウシ、是ハサウ云フコトヲ睨ミ合セテ適當ナ限度ニ止ムルト斯ウ云フ御趣旨ノヤウニ拜察致シマスガサウ云フコトニ相成リマスルカ

副島委員 御質問ノ通りデゴザイマス

松本委員 私ハ自分ノ勝手ナ解釋ヲシテ居テ申上ゲナカツタノデスガ、ソレデハ申上ゲマスガ、正當需要ト云フコトハ密輸出ニ依ラナイモノト云フ解釋デスガ、私ハサウ解釋セズニ、正當需要ト云フ



ノハ醫藥上ノ消費ト考ヘテ居ツタノデス、サウデナイトオ尋ネシナケレバナラスノデスガ、正當ノ手續ヲ經テ居レバ、是ガ醫藥トシテ一般ニ考ヘラレテ居ルヨリ外ニ、所謂不正ノ使用先デアツテモ之ヲ賣ルト斯ウ云フコトデゴザイマスカ

副島委員 私ノ申上ゲ様ガ少シ惡カツタヤウデアリマス、大體松本政務次官ノ御質問ノ通りニ改メテ御答辯ヲ申上ゲマス

廣瀬委員 今原サンカラ御述ベニナツタ「必要ト認ムル限度ニ止ムルヤウ關係應ニ於テ處置スルコト」ト云フ御意見ガアリマシタガ、之ニ付テ拓務省或ハ臺灣ノ御考ハ如何デゴザイマスカ

萩原委員 只今阿片委員會ノ方デ御決定ニナリマスルモノハ、在庫ノ「コカイン」ノ數量ノ處分ニ付キマシテノ御方針ヲ御決定願ヒタイト思フノデアリマス、從ヒマシテ其ノ方針ノ決定ニ關聯致シマシテ其ノ消費ノ方針ヲ完全ニ遂行スル爲ニ必要ナ處置トシテ生藥會社ノ製造數量ヲ或ル程度迄制限シテ置キタイ、制限シタイ、斯ウ云フ方針ヲ同時ニ御決定ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ趣旨デアリマス、無論只今御話ノヤウニ計畫實施上適當ト認ムル限度ニ止ムルコトニ付キマシテハ、關係各應ニ十分御協議御協力ヲ願フ趣旨デアリマスカラ、内容ニ付キマシテハ表現方法ガ或ハ適當デナイカト思ヒマスガ、趣旨ハサウ云フ趣旨デアリマス、御諒承願ヒタイト思ヒマス

廣瀬委員 大體分リマシタガ、併シ本計畫實施上必要ト認ムル程度ニ減産セシムルト言ツテ居ラレマ

スガ、矢張りサウ云フコトニ減産ヲセラレマシタナラバ、此ノ三箇年間ハ此ノ處分ヲナサルヤウニ見エルノデスガ、勿論實行ニ付テ減産ハ總督府カラ御命令ニナルコト、思ヒマスガ、斯ウ云フコトヲヤツタト云フコトヲ毎年阿片委員會ニ適當ノ時機ニ報告デモセラレルト云フヤウナコトガ妥當デヤナイカ、唯斯ウ云フコトニ減産セシムルト云フコトニナツテ居ツテ、ドウ云フコトニナルノカ分ラヌト云フノハ妥當デハナイ、少クトモ報告位セラレルノガ宜イト思フ、原サンノ言ハレテ居ル關係應ニ於テ適當ニ處理スルト云フコトヲ決メルコトハ、是ハ總督府ノ權限ニ立入ルヤウデアリマスガ、是ハ適當デナイカモ知レマセス、併シ減産處分ヲ命ゼラレマシタナラバ、其ノ結果ヲ此ノ委員會ニ報告スルト云フコトガナケレバ、此ノ委員會トシテハ從來ノ殘ツテ居ル「コカイン」ニ對スル三箇年間ノ處分ニ付テ同意ヲスル譯デアリマスカラ、非常ニ其ノ後ノ問題ガ重要デアルト思フ、重要デアルト思フカラ、ソコデ後ノ減産ニ關スル方針ヲ總督府ニ於テ御監督ニナツテ御ヤリニナツタナラバ、矢張りソレハ此ノ委員會ニ報告スルノガ妥當デハナイカト思ヒマスガ、如何デスカ

萩原委員 此ノ實行方法ニ付テ御報告申上ゲルト云フコトハ極メテ必要ナコト、思ヒマス、實ハ幹事會ノ方ノ打合セデハ、幹事會ニ報告シテ阿片委員會トノ連絡ヲ圖ルト云フコトニナツテ居ルヤウデアリマス、委員會ニ報告スルコトモ一向差支ナイト思ツテ居リマス

廣瀬委員 私ハ委員會ニ報告セラルベキモノト思ヒマス



萩原委員 私ガ今申上ゲマシタノガ誤解ガアルトイケマセヌガ、臺灣總督府ノ權限ニ立入ルト云フコトデ申上ゲタノデハナイノデ、阿片委員會ノ決議トシテヤツテ置クト、又方針ヲ變ヘルト阿片委員會ノ決議ヲ經ナケレバイカスト云フヤウナコトニナルノデ、寧ロ拙イノデヤナイカト云フ風ニ御話ヲ承ツタ、從ヒマシテ私モ此ノ阿片委員會ニサウ云フ權限ガアルカナイカト云フコトニ付テモ疑問ヲ持チマスシ、ソレヨリモ今ノヤウナ松本サンノ御心配ガアレバ寧ロサウ云フ趣旨ニ合フヤウニ關係ニ於テ制限スルト云フ其ノ方針ダケヲ此處ニ明記シテ置イタラ宜カラウト云フ趣旨デ申上ゲタ譯デアリマシテ、決シテ臺灣總督府ニ命令サセルト云フコトヲ阿片委員會トシテ權限上ヤルト云フヤウナ意味デヤナイノデス、其ノ點ハ宜シク御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレデ今ノ關係各廳ニ協力ヲ求メラレル其ノ結果、唯制限スルト云フ方針ダケデハイケナイノデ、其ノ結果モ併セテ此ノ委員會ニ報告シテ戴クト云フコトニ付テハ、是ハ頗ル結構ダラウト私ハ思ツテ居リマス

大野委員 ソンナコトハ決議ニ書カナクツテモ宜イダラウ、報告スルダケナラ

松本委員 念ノ爲ニ承ツテ置キマスガ、此ノ制限ヲ變ヘル時ニハ臺灣總督府ハ此ノ委員會ニ御諮問ニナツテ御決メニナリマスカ

萩原委員 是ハ右ノ期間、詰リ三年間ダケデス、何ト申シマスカ、在庫量ノ處分ガ巧ク行クカドウカ  
 睨ミ合セマシテ、ソレニ三年間ダケ制限シヨウト云フデアリマシテ、三年間經ツタ後ドウスルカ

ト云フ問題ニハ、此ノ諮問案ニ付テハ觸レテ居ラナイデアリマシテ、マア三年間、是ダケノ相當大キナ在庫量デアリマスカラ、之ヲ處分スル間ハ或ル程度迄一方ニ於テ製造ヲ制限スルト云フコトハ會社自體ニ取リマシテモ己ムヲ得ナイコトデヤナイカト思ツテ居リマス、サウシテ差支ナイデヤナイカト思ツテ居リマス

松本委員 私ハ臺灣總督府ト云フモノニモウ少シ敬意ヲ表シタイノデ、サウ云フコトヲ決メナケレバ臺灣總督府ガ餘剩ノ出來ル「コカイン」ノ製造ヲオ許シニナラウトハ實ハ考ヘナイ、從ツテ臺灣總督府トシテ斯ウ云フ束縛ヲ御設ニナラナクテモ、餘ルヤウニ造ルコトハ御許シニナラナイト思フ、何故是ダケノ拘束ヲ臺灣總督府ニ加ヘナケレバナラスカ、官廳ハソレダケ信用ガ出來ナイモノカ、私ハ根カラ官吏デナイカラ承リタクナルデスガ

大野委員 私ハ大體此ノ限度ニ止ムルト云フコトハ、先程カラ原サンノ御話ノヤウニ限度ニ止ムルヤウニ當然ノ權限ヲ有スル臺灣總督府ニ於テ考ヘルコト、言ヒ換ヘレバ臺灣總督府ニ於テソレハ考ヘルコトデ、限度ニ止ムルコトト云フノハ決シテ總督府ノ權限ニ觸レルモノデナク、又趣旨ハ矢張り原サンノ御話ノヤウニ限度ニ止ムルヤウ處置スルト云フコトニ解釋シテ居リマス、或ハ字句ニ於テハ徹底シテ居ナイカモ知レナイト思ヒマスガ、當然ニ權限ニ觸レルモノデハナイシ、又觸レルベキデナイト考ヘテ居リマスカラ、松本サンノ御話ノヤウニ思ツテ居ル譯デアリマス



松本委員 サウ云フ趣旨ニシテ置クカ

大野委員 サウ云フ趣旨デセウ

森岡委員 詰リ残ツテ居ルノヲ臺灣デ面倒ヲ見テ處分ヲシヨウ、ソレデハ三年間一生懸命協力シテヤ  
ラウ、サウシテ又毎年造ラシテハイカスト云フ議論ガ出來ル、其ノ爲ニハ矢張り先ノヤウナ趣旨デ  
臺灣總督府ニ於テ考ヘテ貫ヒタイト斯ウ云ウコトヲ仰シヤリタイ趣旨デハナイカト思ツテ居リマス  
萩原委員 サウ云フ趣旨デセウ、無論臺灣總督府デモサウ云フコトニヤラウト云フ御話ガアツテヤ  
ル……

大野委員 事實ダケ決メテ關係官廳ニヤレト言ツテモ、ドン／＼出來ナイト云フコトニナルト困ルシ  
其ノ爲ニモ書イテアル

侯爵木戸會長 大體御議論モ盡キタヤウデアリマスガ、只今ノヤウナ趣旨ト云フコトハ大體各委員ノ  
方ニ御了解ヲ願フコト、存ジマス、此ノ程度デ原案ノ通り可決致シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

侯爵木戸會長 ソレデハ可決致シマス、ソレカラ次ハ諮問第二號議案ノ「朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生  
阿片ニ關スル件」ニ付テ御諮リ致シマス

〔院能書記朗讀〕(別紙參照)

萩原委員 只今御朗讀ニナリマシタ議案ノ御説明ヲ申上ゲマスガ、此ノ議案ト一緒ニ「昭和八年四月

十一日閣議決定」ト云フモノヲ御手許ニ差上ゲテアル筈デゴザイマスガ、一應ソレヲ御覽願ヒタイ  
ト思ヒマス、昭和八年四月十一日ノ閣議決定ニ依リマシテ、朝鮮總督府專賣「モルヒネ」鹽類ノ原  
料ハ主トシテ臺灣總督府粗製「モルヒネ」及ビ關東廳沒收「モルヒネ」ヲ以テ充當シマシテ、其ノ  
代リニ朝鮮内ニ於テ生産スル生阿片ハ主トシテ之ヲ臺灣總督府及ビ關東廳ノ專賣阿片ノ資料トシテ  
供給スルコト、ソレカラ次ニ「朝鮮總督府保管生阿片ハ暫定措置トシテ之ヲ滿洲國政府ニ讓渡スル  
コトヲ得」ト斯ウ云フ決定ニナツテ居ルデアリマス、斯ウ云フ決定ヲ致シマシタノハ、昭和八年  
ノ一月十一日カラ滿洲國政府ニ於キマシテ阿片ノ專賣制度ヲ實施致シマシタ當時、必要ナル生阿片  
ガ滿洲國ニ於テ供給不足ヲ感ジマシタノデ、當時朝鮮總督府ノ專賣局ニ於テ天候ノ關係、生産技術  
ノ改善等ニ依リマシテ豫定以上ノ生阿片ノ收入ヲ致シマシテ之ヲ保管致シテ居ツタモノデアリマス  
カラ、此ノ保管ノ生阿片ヲ暫定的處置ト致シマシテ滿洲國ニ委讓スルト云フ風ニ決定サレタノガ第  
二ノ條項デアリマス、從ヒマシテ朝鮮内ニ於ケル生産ニ係ル生阿片ニ付キマシテハ、第一項ニ依リ  
マシテ臺灣總督府及ビ關東廳ニノミ供給スルコトガ出來ル方針ニ決定サレテ居ルデアリマス、滿  
洲國ノ阿片專賣制度ハ昭和八年ニ設定ニナリマシタガ、其ノ後漸次制度ノ確立整備ニ伴ヒマシテ、  
阿片飲者ノ徹底ノ數ノ調査ヲ行ヒマシタ結果、此ノ制度ノ實施ニ必要ナル生阿片ガ相當長イ間不



足スルコトガ明カニナリマシタノト、尙日滿間經濟關係等ノ現下ノ情勢ニ鑑ミマスルト、本邦以外ノ第三國ヨリノ生阿片ノ輸入量ヲ出來ルダケ減少ヲ圖リマスコトガ此ノ際必要デアルト云フヤウナ理由ニ依リマシテ、今般朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ノ滿洲國政府ノ阿片制度ノ資料トシテ讓リ渡シテ欲シイト云フ要求ガアツタノデアリマス、此ノ滿洲ノ今回ノ申込ノ事情ヲ甚ダ尤ナ次第ト考ヘラレマスルニ付キマシテ、昭和八年四月ノ閣議決定ノ暫定處置ノ際ト同様ニ今後滿洲國專賣制度ニ協力スル爲ニ其ノ需要ニ應ズルコト、致シタイト思ヒマシテ、此ノ案ヲ提出シタ次第デアリマス、而シテ今回滿洲國政府ニ對シテ讓リ渡シセムトスル生阿片ノ量ハ、増加致シマスル部分ハ一萬二千瓦デアリヤスルガ、尙此ノ外ニ臺灣總督府ヨリモ五千瓦ノ供給ノ申込ガアツタノデアリマス、臺灣總督府ニ對シマシテハ最近朝鮮カラ生阿片ガ參ツテ居リマセヌデアリマシタガ、外國産ノ生阿片ノ輸入ヲ減少スルト云フヤウナ理由ノ爲、新タニ是ダケノ申込ガアツタノデアリマス、又關東廳ヨリハ從來ノ關東州内ノ必要ノ爲ニ從來供給シテ居リマシタ部分ノ外、更ニ五千五百瓦ノ供給増加ノ申込ガアリマシタノデ、朝鮮ト致シマシテハ是等ノ原料ノ生産増加ヲ圖ル必要上、昭和十四年度ニ於キマシテハ罌粟ノ栽培面積約二千町歩ノ擴張ヲ行ハムトスル豫定デゴザイマス、斯クノ如ク今後ハ臺灣總督府、關東局及ビ滿洲國政府ニ對シマシテハ朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ヲ相當繼續的ニ長イ期間ニ亘ツテ供給又ハ讓渡スル必要ヲ豫想セラレマスノデ、之ガ供給又ハ讓渡ノ數量及ビ

其ノ生産ニ必要ナル罌粟栽培面積等ハ關係各廳間ニ於キマシテ協議ノ上、之ヲ決定スルコトニ致シタイト思ツテ居リマス、大體以上ノ通りデアリマス

侯爵木戸會長 本案ニ付キマシテ何か御質疑ナリ御意見ナリアリマシタラ御發言ヲ願ヒマス

三谷委員

チヨット御質問致シタイノデアリマスルガ、本案ハ滿洲國ナリ又臺灣ナリ關東局ナリノ必要ニ基キマシテ、朝鮮ニ於テ阿片ノ栽培數量ヲ増サウト斯ウ云フ案ト拜承致シマスガ、只今ノ情勢

上サウ云フコトハ私モ能ク分リマセヌガ、今後將來事情ガ又變ツテ來マシテ、例ハバ滿洲國ニ於ケル阿片政策ノ進捗等ニ伴ヒマシテ此ノ阿片ノ需要ガ減ツタ場合ニ一度朝鮮内ニ於テ此ノ阿片ノ栽培ヲ殖ヤシテ置イタモノヲ減ラスト云フコトハ實際上ドンナモノデアリマスルカ、實際上可能ナコトデアリマスカ、或ハ可能ト致シマスレバ、ドウ云フ程度ニ於テ必要ガ起キタ場合ニ之ヲ實行スルコトガ出來ルモノデゴザイマセウカ、此ノ邊ニ付テ若シ御説明ガ願ヘレバ甚ダ仕合セト存ジマス

植場委員

只今ノ御質問デゴザイマスガ、御承知ノ通り朝鮮デハ大體副業トシテ罌粟栽培ヲヤラシテ

居リマス、ソレカラ又一面臺灣アタリデハ將來五箇年間ト云フヤウナ期間ヲ限ツテ將來ノ見透シ迄立テ、讓渡方ノ申込モアルノデアリマス、御心配ニナツテ居リマシヤウニ其ノ時ノ需給ノ關係ニ依リマシテ、極端ナ伸縮ハ是ハ無理カモ知レマセヌガ、適當ナ伸縮ハ十分ニ取ツテ行ケルト斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス



〔廣瀨委員着席〕

會長代理(廣瀨委員) 別ニ御發言ゴザイマセスケレバ原案通りニ御決定致シマスガ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

會長代理(廣瀨委員) ソレデハ原案通り決定致シマス、尙衛生局長カラ御話ガアリマスカラ……

林委員 先程御説明ニモゴザイマシタ通りニ先ノ決定ガアリマスノデ、此ノ御決定ヲ願ヒマシタ上ハ

整理致シマシテ閣議ノ決定ヲ變更致シテ貫ヒマス手續ヲ採リタイト思ヒマス

會長代理(廣瀨委員) 次ニ報告第一號議案「支那ニ於ケル阿片麻藥對策ニ關スル件」並ニ報告第二號

議案「國際聯盟トノ協力終止ニ關スル件」之ニ付テ條約局長ノ御報告ヲ願ヒマス

三谷委員 最初「支那ニ於ケル阿片麻藥對策ニ關スル件」ニ付テ御報告致シマス、昨年ノ七月、日支事變ノ勃發以來、支那ニ於キマスル我が軍隊ノ占領地域ハ段々ニ廣クナツテ參リマシテ、又各地ニ新シイ政權ノ成立ヲ見ルヤウニナリマシタノデ、外務省ト致シマシテモ同地域ニ於ケル阿片麻藥政策ノ樹立ノ必要ナルコト、並ニ本件ニ關シ現地軍側ト協力致シマシテ新政權側ヲ適當指導スルコトヲ急務ト認メマシテ色々研究ノ結果、次ニ申上ケルヤウナ方針ニ依ツテ處置シテ居ル譯デゴザイマス、先ヅ阿片ニ關シマシテハ、主義上ハ從來ノ支那側ガ採ツテ居リマシタ斷禁主義ノ政策ハ維持ハ致シマスケレドモ、阿片吸飲ニ關スル支那人一般ノ陋習及ビ現在ノ治安狀況ニ鑑ミマシテ、差當リ

現地ノ實情ニ適シタル取締ヲ爲スト云フコトニナツテ居リマス、尙專賣制度ノ實施ト云フヤウナコトハマダ時期尙早デハナイカト考ヘテ居リマス、其ノ中、蒙疆委員會ハ其ノ領域カラ生産セラレル所ノ阿片ノ生産、收納及ビ移出ヲ統制シテ居リマシテ、北支政權ノ方ハ成立ト同時ニ統稅局ニ清查課ト云フモノヲ設ケマシテ、管内ニ於テ取引セラレル阿片ニ印花稅ヲ課シ、不正取引ヲ取締ツテ來テ居リマスガ、今般阿片商ノ組合組成ヲ指導致シマシテ、一層其ノ取締ノ徹底ヲ期シヨウトシテ居ル次第デアリマス、又中支方面ニ於キマシテモ最近維新政府内ニ戒煙總局ト云フモノヲ設ケマシテ宏濟善堂ト云フ阿片商ノ組合ヲ統制シ、其ノ取締ニ着手スル趣デアリマス、又廣東ニ於キマシテモ我が軍ノ占領直前迄事實上ノ阿片專賣制度ハ實施セラレテ居ツタサウデアリマスガ、現在、今後ノ取締方針ニ關シマシテハ目下研究中デゴザイマス、又阿片ニ依ル新政府ノ收入ニ關シマシテハ、現在迄其ノ全額ヲ詳カニスルコトガ出來ナイノデアリマスガ、本年ノ二月ノ河北省政府(地方縣政府ノ收入ヲ含マス)ノ收入ガ約二十萬法幣ニ達シテ居ル趣デアリマシテ、其ノ後治安ノ確保及ビ新政策ノ徹底ニ從ヒマシテ、收入モ亦増加シタモノト想像セラレマス、又原料阿片ハ成ルベク土產阿片ヲ以テ賄ハシムルト云フ方針デアリマシテ、目下蒙疆產阿片ノ出廻リノ調整ニ關シマシテ指導中デアリマスガ、本年四月、中支方面ニ於テ阿片生産地トノ隔離ニ依ツテ取引阿片價格ガ暴騰致シマシテ、十匁五元ダツタモノガ十五元ニナツタサウデアリマス、斯ク暴騰致シマシタノデ、第三國ノ不



正取引業者等ノ乗ズル所トナリハシナイカト云フコトヲ恐レマシタノデ、現地ノ軍ノ要請ニ基キマシテ四百二十八箱ノ「イラン」産阿片ヲ北支政權ノ輸入許可證ニ依ツテ輸入スルコトヲ許可シタノデアリマス、以上ハ阿片ニ關スル事柄デゴザイマスガ、麻藥ノ方ニ關シマシテハ、其ノ害毒ハ阿片ニ勝ルモノガアルノデ、前述阿片政策ノ圓滿ナル遂行ヲ見ル爲ニハ麻藥ヲ嚴重ニ取締ルコトガ必要デアルニ拘ラズ、其ノ不正取引モ國際的デアリマスノデ、此ノ際我が占領地域内ニ於キマシテモ、出來得ル限り斷禁ヲ強行スルコトガ必要ト存ジマシテ現地軍側トモ協力致シ新政權ヲ指導スルト共ニ從來兎角ノ問題ヲ起シマシタ在支邦人不正取引業者ノ取締ニ付キマシテモ、現行外務省令ノ勵行及ビ轉業指導ヲ爲ス等ノ方法ニ依リマシテ、大要左記方針ニ依ツテ取締ヲ實行シテ居リマス、先ヅ(イ)ト致シマシテ邦人不正業者ヲ嚴重取締ル爲法令ノ範圍内ニ於テ嚴刑ヲ課シ、常習犯者ハ原則トシテ在留禁止處分ヲ爲ス、(ロ)ト致シマシテ麻藥ノ密造ハ不正取引ノ源泉デアリマスノデ、其ノ取締ニ對シマシテハ完璧ヲ期ス、又(ハ)ト致シマシテ、邦人不正業者ノ正業轉業ヲ指導助長ス、轉業ノ指導ニ關シマシテハ、現在帝國軍隊占領地域内ニアリマシテハ、自然軍關係ノ便利屋、飲食店等ノ商賣モ成立シ得マスノデ、出來ル限り是等正業ニ就カシメマスルト共ニ、冀東地方ニ於キマシテハ貧困ナ鮮人ヲ收容スル目的ヲ以チマシテ、朝鮮總督府ト協力シテ蘆臺ニ東拓ヲシテ安全農村ヲ設立セシムルコトトシテ、本年九月カラ基本工事ヲ開始シテ居リマス、是ハ三千五百町歩ノ豫定デゴ

ザイマス、收容鮮人ハ一千戸デ所要資金ハ六十八萬圓デアリマスガ、其ノ中二十三萬圓ヲ政府ヨリ補助ガ出ル豫定デアリマス、尙今日迄對支麻藥ノ輸出ハ在支邦人醫師、藥劑師及ビ病院等ノ需要ニ充ツル爲、外務省令ニ基キマシテ領事ノ輸入許可證ノ發給ニ依ル手續ヲ經テ行ツテ來タノデアリマスルガ、新政權ノ成立後、支那ノ麻藥政策ニ協力スル建前カラシテ其ノ正當醫療用麻藥ハ之ヲ内地ヨリ支給スルコトヲ適當ト認メ具體的問題ノ發生スル度ニ軍側及ビ關係各省ト打合ヲ行ツテ善處シテ居リマス、斯ウ云フヤウナ次第デ大體只今御説明申上ゲマシタヤウナ方針デ實行シテ居リマスルガ、此ノ實行ニ當リマシテハ勿論國際關係ト云フコトヲ常ニ念頭ニ置イテ、其ノ方面ニ成ルベク支障ノナイヤウニ考ヘテ處置シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、次ニ御報告申上ゲタイコトハ國際聯盟トノ關係デゴザイマスガ、日本ハ大正九年ニ國際聯盟ガ成立シテ以來、阿片及ビ麻藥問題ニ關シマシテ聯盟國トシテズツト協力ヲ續ケテ參リマシタ、就中阿片諮問委員會並ニ阿片中央委員會ニ對シマシテハ其ノ創設以來政府代表ヲ出席セシメ、或ハ又日本人ノ委員ヲ之ニ出席サセマシテ協力シテ參ツタノデアリマス、然ルニ昭和十年三月二十七日ニ日本ノ聯盟脫退ガ完了シタノデアリマスガ、其ノ後ト雖モ聯盟ノ平和事業ニハ依然協力スルト云フ趣旨デ引續イテ兩委員會ニ協力シテ參リマシタ、然ルニ本年九月、聯盟理事會ハ支那ノ提訴ヲ容レマシテ規約第十七條三項ニ依リ第十六條ノ制裁規定ヲ日本ニ適用スルコトガ可能デアルト云フ決定ヲ致スヤウニナリマシテ、日本ノ對支行



動ニ對シテ制裁ヲ加ヘルベキモノデアルト云フ認定ヲ下シタコトニナリマシテ、茲ニ帝國ハ聯盟ト對立スル關係ニナリ、是レ以上聯盟トノ協力關係ノ餘地ガ困難ニナツタ其ノ結果、帝國ハ現在迄續イテ居リマシタ協力關係ヲ一切終止スルト云フ方針ヲ十一月二日正式ニ其ノ旨表示シタノデゴザイマス、併シナガラ右ノ協力終止ハ、聯盟主宰ノ下ニ締結セラレテ御批准ヲ經テ居リマス國際諸條約ノ效力ニハ影響ヲ及ボスモノデアリマシテ、是等ノ條約ハ別ニ廢棄措置ヲ取ラナケレバ依然帝國ニ對シテ拘束力ヲ持ツテ居ル次第デゴザイマスノデ、從ツテ條約ノ規定ニ基イテ向後モ帝國ト聯盟トノ間ニ若干ノ關係ヲ生ズルト云フコトモ蓋シ已ムヲ得ナイト存ジテ居リマス、從來聯盟ノ規約ニ從ツテ遂行シテ居リマシタ阿片麻藥ニ關スル事務、例ハバ聯盟ヲ經由スル條約實施ニ關スル情報ノ交換及ビ麻藥類各種統計、年報類ノ聯盟ヘノ提出等ハ從來通り之ヲ繼續シナケレバナラスコトト考ヘテ居ルデアリマス、尤モ聯盟トノ協力ノ有ル無シニ拘ラズ阿片麻藥ノ製造取引、消費ニ關シマシテハ國家ノ治安及ビ國民ノ保健、衛生、風教等日本獨自ノ立場カラシテ今後益々取締ヲ勵行スベキモノデアアルコトニ付テハ、多言ヲ要シナイト存ズルデアリマス。

〔侯爵木戸會長會長席ニ復ス〕

侯爵木戸會長 只今ノ御報告ニ點ニ付キマシテ何か御質疑ガアリマシタラ願ヒマス……別段御發言モナイト存ジマスカラ、ソレデハ引續キマシテ報告第三號ノ「國際麻藥原料制限準備會議經過ニ關

スル件」ニ付キマシテ、同會議ニ直接出席致シマシタ專門委員カラ報告ガアリマス

井川幹事 先ツ第一ニ準備委員會ノ組織及ビ議事經過ニ付テ申上ゲマス、麻藥原料生産制限準備委員會ハ本年ノ五月二十三日カラ國際聯盟ノ事務局ニ於キマシテ開催サレマシタ、本邦ノ代表ト致シマシテハ天羽瑞西公使、專門委員ト致シマシテ私が出席致シマシタ、準備委員會ハ前後十二回分科會四回ヲ開催致シマシテ、報告書ヲ作製致シマシテ六月十五日ニ終了致シマシタ、引續キマシテ諮問委員會ハ同報告書ヲ審議採擇致シマシテ六月二十一日ヲ以テマシテ阿片諮問委員會ヲ終了致シマシタ、此ノ諮問委員會ニ於キマシテハ此ノ報告書ヲ理事會ヲ經マシテ各國政府ニ送リマシテ、明年ノ一月末日若クハ出來ル限り速カニ其ノ意見ヲ求メマシタ上、明年ノ委員會又ハ其ノ他ノ機會ニ於キマシテ更ニ審議スルコトニ決定致シタデアリマスルガ、今回ノ會議ハ例年ノ諮問委員會ガ集會ト同時ニ原料生産制限準備委員會ト宣言致シマシテ開催致シタデアリマスカラシテ、實質的ニハ全ク諮問委員會ト何等變リガゴザイマセス、寧ロ續イテ開カレマシタ諮問委員會ニ於キマシテ相當重要ナ意見ノ開陳ヲ見タヤウナ次第デゴザイマス、次ニ討議ノ概要ニ付テ申上ゲマス、準備委員會ノ作製致シマシタ報告書ハ將來條約ノ基礎トナルベキ諸原則ニ關スル討議ノ結果ヲ整理致シマシタモノデアリマシテ、其ノ報告書ノ中、原則上ノ要點ト致シマシテ論議ノ中心トナリマシタノハ、制限實施ノ方法ト致シマシテ、需要見積、生産見積、輸出割當制、在庫量、監督機關等ノ諸問題デアリ



マス、準備委員會、分科會及ビ諮問委員會ノ本事業討議ノ模様ヲ大觀致シマスルト云フト、「ユーゴ  
 ー斯拉ヴィア」ノ代表ガ最も多ク發言致シテ居リマス、「トルコ」代表ト共ニ共同ノ陣ヲ張リマシテ  
 「イラン」ニ對シ自國將來ノ立場ヲ有利ニ留保シ置カウトスル態度ヲ露骨ニ示シテ居リマス、次ニ本  
 會議ニ現レマシタ主要生産國代表ノ態度ヲ概説致シマス、第一ニ主要生産國タル「トルコ」、「ユー  
 ゴー斯拉ヴィア」及ビ「イラン」代表ハ、生阿片ノ生産額ノ見積ハ不可能デアルト申シテ居リマ  
 ス、即チ聯盟事務局ノ原案ハ生産國ノ割當、即チ生阿片生産ノ直接制限ト云フ點ニ於キマシテハ今  
 同ノ會議ニ關スル限リ主要生産輸出國ノ反對ニ遭ツタウナ次第デゴザイマス、第二ニ輸出量ニ關  
 シマシテ「ユーゴー斯拉ヴィア」及ビ「トルコ」ノ兩代表ハ割當制ヲ主張シテ居リマス、「イラン」  
 ノ代表ハ之ニ反シマシテ自由取引制ヲ主張シテ居リマス、即チ「ユーゴー」及ビ「トルコ」ハ輸出  
 割當制度ヲ以テマシテ生産制限ノ間接手段デアルト申シテ居リマスガ、併シナガラ其ノ眞ノ目的ハ  
 自國ノ競争者デアリマス「イラン」ニ對抗スル爲デアリマシテ、「イラン」ガ之ニ對シテ反對致シマ  
 シタノハ當然デアリマス、第三ニ罌粟ノ栽培面積制限デアリマスルガ、是ハ本事業中ノ根本問題デ  
 ゴザイマシテ、主要生産國タル「トルコ」、「ユーゴー」及ビ「イラン」ノ代表ハ、既ニ各々自國ニ  
 於キマシテ制限ノ實績ヲ示シテ居ルト云フコトヲ力説致シマシテ、此ノ問題ハ各國ノ處置ニ任スベ  
 キデアルト言ヒ、制限ノ決定ニ關シマスル國際機關ノ關與ヲ排斥致シテ居リマス、之ヲ要シマスル

ニ、此ノ三國、即チ「トルコ」、「ユーゴー」及ビ「イラン」ノ各代表ハ生阿片ノ生産制限ノ根本原則ニ  
 ハ決シテ反對スルモノデハゴザイマセスガ、既ニ各自國ニ於テ生産制限ヲ實行シテ居リマスル關係  
 上、現在以上ニ制限ヲ受クルコトヲ潔シトシナイデアリマシテ、又制限ヲ受クルカラニハ寧ロ既  
 往ノ實績ヲ基礎トスル生産ノ割當制ヲ採ルニ如カズト考ヘテ居リマスノハ注目ニ價スルト思ヒマ  
 ス、又現在世界ノ生阿片ノ在庫量ハ正當需要量ノ數倍デゴザイマシテ、若シ生産量ヲ正當需要量迄  
 引下ゲル制限方法ヲ採用致シマスナラバ「トルコ」、「ユーゴー」及ビ「イラン」ノ主要生産國ハ當  
 然其ノ生産量ヲ減退セシムル必要ニ迫ラレル結果トナルデアリマシテ、三國ハ直接制限ヲ不可能  
 トスル方針ニ基キマシテ、障礙物ヲ多數配置シテ置クト云フ策略ニ出タノデアリマス、即チ第一番  
 目ニ條約ノ汎世界適用問題ニ關シマシテ、「トルコ」及ビ「ユーゴー斯拉ヴィア」ハ主要生産國全部  
 ノ批准セザル條約ニハ加入シナイト宣言致シテ居リマス、本邦ノ代表ハ私見ト致シマシテ割當制ハ  
 非常ニ困難ナルヤウニ思ハレマスガ、少クトモ自國內ニ十分ノ監督力ノアル強固ナ政府ヲ有スルコ  
 ト及ビ條約ニハ全生産國ト消費國トガ加入スルコトヲ前提トスベキデアルト述べタノデアリマス、  
 第二番目ニ不加盟國ノ制裁手段ト致シマシテ、「トルコ」及ビ「ユーゴー斯拉ヴィア」ノ代表ハ條約  
 不加入生産國ヨリノ生阿片不買義務ヲ制裁條項トシテ規定スルコトヲ主張シテ居リマス、第三ニ  
 「トルコ」ノ代表ハ現在非生産國ノ生産國トナルコトヲ禁止スベシト主張致シマシテ、新生産國ノ出



現ヲ防止セムト致シマシタ、第四番ハ罌粟草ヨリ直接ニ「モルヒネ」ヲ抽出スル問題ニ付キマシテ「ユーゴ」及ビ「トルコ」代表ハ絶對反對ヲ主張シテ居リマス、「ポーランド」ト「ハンガリー」ハ、此ノ抽出方法ガ自分ノ國ニ於キマシテ實際行ハレテ居ル重要工業トナツテ居ルモノデアリマスカラ、正面カラ禁止說ニ反對致シマシタ、一方ハ來ルベキ條約ハ禁止ヲ規定スベシト主張シテ居リマスガ「ポーランド」ハ國防的ノ見地カラ致シマシテモ強硬ニ反對セザルヲ得ズト憤慨致シマシテ、兩國間ニ寸分ノ妥協ノ餘地ヲ示サナカッタデアリマス、第五番目ニ「ユーゴ」スラヴイア」ノ代表ハ、不正取引ニ依リマシテ得マシタ押收阿片ノ處分問題ニ關シマシテ之ガ廢棄ヲ絶對ニ必要トスルバカリデナク、寧ろ押收品ノ出タ國ガ明白ニナリマシタナラバ、其ノ國カラノ輸出割當量ヲ押收品ノ數量ダケ差引クベシト云フコトノ主張ヲ固持シテ居リマス、是等ノ本會議ノ結果ハ一括致シマシテ各國政府ニ送附致シマシテ、明年ノ一月末迄ニ其ノ意見ヲ求メマシタ上ニ、明年再ビ開カレル五月十五日カラ六月十日迄開催サレマス諮問委員會ニ於テ再討議セラレルコトニナツタデアリマスルガ、各般ノ事情ヲ考察致シマスルト、本邦ノ世界市場ニ進出スルコトヲ相當顧慮シテ居ルモノ、如ク思ハレマス、即チ聯盟事務局ノ作製致シマシタ調書中ノ生産國ノ類別ニ關スル記載中ニ條約ノ準備ニ際シテハ日本ノ阿片政策ニ付説明ヲ求ムルコトヲ要ス、即チ日本ハ其ノ生産阿片ヲ日本ノ需要ニノミ充テ且不足阿片ハ之ヲ外國ヨリ輸入スル方針ヲ持續セラル、ヤ、又生産過剩トナリタル場

合、輸出市場ニ參加スベキコトヲ要求スルコトナキ様増産ヲ差控ヘラル、ヤ」ト述ベテ居リマス、又朝鮮ノ場合ニ於キマシテモ同様ノ問題ヲ掲載シテ居リマス、之ニ對シマシテ本邦ノ代表ハ「將來ノ政策問題ハ世界各國共通ノ問題ニシテ何ガ故ニ獨リ本邦ノミヲ特ニ選出シテ其ノ將來ノ政策ヲ聽カムトスルヤ」ト反駁致シマシタ、兩者共（内地及ビ朝鮮ノ分トモ）之ヲ抹殺セシムルコトニシタノデゴザイマス、ソレデ之ヲ要シマスルニ今回ノ會議ニ於キマシテハ我方ノ主張スベキ諸點ニ付キマシテ、或ルモノハ既ニ各國ノ代表カラ主張シテ居リマスシ、又此ノ際我方ノ腹ヲ見透カサルハコトモ不得策ト考ヘラレマシタノデ、旁々御訓令ノ次第モアリマシタシ、本邦代表ト致シマシテハ次回ノ會議ニ對シマシテ我方ノ立場ヲ自由ニ留保シテ置カウト云フ成ルベク傍觀的ノ態度ヲ持シタノデアリマス、所ガ最後ニ專問委員會ニ於テ本事業ノ今後ノ準備進捗手續討議中ニ將來條約國以外ヘノ輸出ヲ差止ムルトノ論議ガゴザイマシタノデ、此ノ機會ニ於キマシテ朝鮮ハ生産國デ同時ニ輸出國ナルコト並ニ斯ノ種ノ條約ハ重要ナル生産國及ビ輸入國ガ參加スルデナケレバ效力ヲ發揮シナイト報告書ニ書イテアリマスガ、滿洲國ハ生産國デ輸入國ナル事實ハ看過シ得ナイト言明シテ置イタノデアリマス、是等ノ事實ニ徴シマシテモ、來ルベキ專問委員會ハ從來ニ比シ本邦ニ對シテ特ニ利害關係ガ深イヤウニ思ヒマス、殊ニ專問委員會ニ於キマシテ報告者瑞西代表ノ「カリエール」氏ガ、主要生産國間ニ於キマシテ豫メ協議會ヲ明年會議前ニ開催スルコトガ有益デアラウト云



ア提案ヲ致シマシタノニ對シマシテ、「ユーゴー」代表ノ賛成ガゴザイマシタ、結局明年開催ノ次回ノ會合ニ於キマシテ、輸出阿片ノ割當方法ニ關シマシテ議長ヲ中心トスル主要生産國ノ豫備的會合ヲ行フコトニナルノデアリマシテ、前回ノ昭和五年ニ於キマサル麻藥製造制限ニ關スル製造國會議ニ於キマサルト同様ニ割當問題ニ關シマシテ相當考究ノ必要ガアラウカト思ヒマス、以上デ私ノ會議報告ヲ終リマス

侯爵木戸會長 何か御質問ガアリマシタラ此ノ際……

大野委員 チョット伺ヒマスガ、朝鮮ハ生産國デ輸出國ト云フコトデスガ、朝鮮ノ「ポート」ガアルノデスカ、日本ノ領地トシテデナク

井川幹事 是ハ從來日本内地 Japan proper ト朝鮮ト云フ風ニ分レテゴザイマス

大野委員 サウスルト一ツ「ポート」ガアル譯デスナ

井川幹事 サウデス

侯爵木戸會長 別段御質疑ハナイヤウデアリマスカラソレデハ本日ハ是デ會議ヲ終リマス

午前十一時二十六分閉會

〔参考〕

危険藥品ノ不正取引ノ防止ニ關スル千九百三十六年

ノ條約ト其ノ原案トノ比較對照表

條 約

原 案

第一條

一、本條約ニ於テ麻藥トハ千九百十二年一月二十三日ノ「ヘーグ」條約並ニ千九百二十五年二月十九日及千九百三十一年七月十三日ノ「ジュネーヴ」條約ノ規定ノ適用セラレ又ハ今後適用セララルヘキ藥品及物質ヲ意味スルモノトス

第一條  
一、本條約ニ於テ麻藥トハ千九百十二年一月二十三日ノ「ヘーグ」條約並ニ千九百二十五年二月十九日及千九百三十一年七月十三日ノ「ジュネーヴ」條約ノ規定ノ適用ヲ受クベキ藥品及物質ヲ意味スルモノトス

二、本條約ノ爲ニ「抽出」トハ本來ノ製造又ハ轉換ヲ伴ハスシテ物質又ハ複合物ヨリ其ノ一部ヲ成ス「麻藥」ヲ分離スル操作ヲ意味スルモノトス「抽出」ナル語ノ本定義ハ罌粟ヨリ生阿片ヲ作用ヲ包含セス右作用ハ「生産」ナル語ニ包含セララル



第二條

各締約國ハ左ノ行爲ヲ嚴重ニ殊ニ投獄又ハ其ノ他ノ自由刑ニ依リ處罰スル爲必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス

(イ) 前記條約ノ規定ニ違反スル麻藥ノ製造、轉換、抽出、調整、所持、提供、分配、購入、販賣、名義ノ如何ヲ問ハス讓渡、仲介、發送、通過、發送、運搬、輸入及輸出

(ロ) 本條ニ規定セララルル行爲ノ共犯

(ハ) 前記行爲ノ何レカノ遂行ヲ目的トスル結合又ハ同意

(ニ) 未遂行爲及國內法ニ依リ規定セララルル條件ノ下ニ於テ豫備行爲

第三條

締約國ニシテ他ノ締約國ノ領域ニ於テ治外法權ヲ有スルモノハ該領域ニ於テ第二條ニ掲ケラルル一切ノ行爲ヲ犯シタル自國人モ少クトモ當該

行爲カ自國領域ニ於テ行ハレタル場合ト同様嚴重ニ處罰スル爲必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス

第四條

第二條ニ掲ケラルル種類ニ屬スル行爲カ異リタル數國ニ於テ行ハレタルトキハ該行爲ノ各ハ別個ノ犯罪ト認メラルヘシ

第五條

締約國ニシテ其ノ國內法カ麻藥ノ取得ヲ目的トスル栽培、採取及生産ヲ取締ルモノハ右法律ニ對スル一切ノ違反行爲ヲ同様嚴重ニ處罰スヘキモノト爲スヘシ

第六條

國際的前科承認ノ主義ヲ認ムル國ハ國內法ニ依

二、各締約國ハ左ノ行爲ガ故意ニ犯サレタル場合ニハ之ヲ嚴重ニ殊ニ投獄又ハ其ノ他ノ形式ニ依ル自由刑ニ依リ處罰スルタメ必要ナル法律上ノ規定ヲ設クルコトヲ約ス

(イ) 前記麻藥關係ノ國際條約ノ規定ニ違反スル麻藥ノ製造、轉換、抽出、調整、所持、提供、賣出、分配、購入、販賣、仲介、發送、通過發送、運搬、輸入及輸出

(ハ) 前記行爲ノ何レカノ遂行ヲ目的トスル教唆及幫助

(ニ) 前記行爲ノ何レカノ遂行ヲ目的トスル結合又ハ合意

(ホ) 實行ノ開始ノ階程ニ達シタル未遂行爲及法令ノ範圍内ニ於ケル豫備行爲

三、(イ) 本條第二項ノ(イ)、(ロ)、(ハ)及(ニ)ノ各號ニ規定セララルル種類ニ屬スル行爲ガ異ル國ニ於テ行ハレタルトキハ該行爲ノ各ハ獨立ノ犯罪ト看做サルヘシ

(ロ) 本條第二項ノ(イ)、(ロ)及(ハ)ノ各號ニ掲ケラルル行爲ノ何レカヲ他國ニ於テ犯スコトヲ準備シ又ハ助長シタル行爲ハ獨立ノ犯罪ト看做サルヘシ

第一條

二、(ロ) 麻藥取得ノ目的ヲ以テ國內法ニ違反シテ爲サルル一切ノ栽培、採取及生産

第二條

前科ノ國際的承認ノ主義ノ認メララルル國ニ於テ



リ規定セラルル條件ノ下ニ第二條ニ掲ケラルル行爲ノ何レカニ付宣告セラレタル外國ノ有罪宣告ハ累犯ヲ成立セシムルモノトシテ承認ス

### 第七條

一、自國民犯罪人引渡ノ主義ヲ認メサル國ニ於テハ第二條ニ掲ケラルル一切ノ行爲ヲ外國ニ於テ犯シタル後自國ノ領域ニ歸來シタル自國民ハ右行爲カ自國ノ領域内ニ於テ行ハレタル場合ト同様ニ訴追シ處罰セラルヘシ犯人カ犯罪ノ實行後其ノ國籍ヲ取得シタル場合亦同シ

二、右規定ハ同様ノ場合ニ外國人犯罪人ノ引渡ノ許與シ得ラレサルトキハ適用ナシ

### 第八條

外國人ニシテ第二條ニ掲ケラルル行爲ノ何レカヲ外國ニ於テ犯シ締約國ノ領域内ニ在ル者ハ左記條件ヲ具備スルトキハ右行爲カ當該領域内ニ於テ行ハレタル場合ト同様ニ訴追シ處罰セラル

ヘシ

- (イ) 犯罪人引渡カ請求セラレタルモ犯罪ト關係ナキ理由ニ依リ許與セラレ得ザリシコト
- (ロ) 逃亡地國ノ法令カ外國人ニ依リ外國ニ於テ犯サレタル犯罪ノ訴追ヲ一般原則トシテ認ムルコト

### 第九條

- 一、第二條ニ掲ケラルル行爲ハ締約國間ニ締結セラレ又ハ今後締結セラレヘキ一切ノ犯罪人引渡條約中ニ引渡犯罪トシテ當然包含セララルヘシ
- 二、條約ノ存在又ハ相互條件ヲ以テ犯罪人引渡ノ條件トセザル締約國ハ前記ノ行爲ヲ相互間ニ於テ犯罪人引渡事件ト認ム
- 三、犯罪人引渡ハ被請求國ノ法令ニ從ヒ許與セラルヘシ

ハ第一條ニ掲ケラルル犯罪ニ對スル外國ニ於ケル有罪ノ宣告ハ國內法令ニ依リ規定セラルル條件ノ範圍内ニ於テ累犯ヲ成立セシムル爲承認セラルヘシ

### 第三條

一、自國民ニ付テノ犯罪人引渡ノ主義ノ認メラレサル國ニ於テハ第一條ニ掲ケラルル罪ヲ國外ニ於テ犯シタル後右ニ對スル處罰ヲ受クルコトナク自國ノ領域ニ歸來シタル自國民ハ右犯罪カ自國ノ領域内ニ於テ爲サレタル場合ト同様ニ訴追シ處罰セラルヘシ犯人カ犯罪ノ實行後其ノ國籍ヲ取得シタル場合亦同シ

### 第四條

二、右規定ハ同様ノ場合ニ於テ外國人タル犯罪人ノ引渡ノ許與シ得ラレサルトキハ適用ナシ

一、外國人ニシテ第一條ニ掲ケラルル犯罪ヲ國外ニ於テ犯シ右ニ對スル處罰ヲ受クルコトナク、國內法上國外ニ於テ犯サレタル犯罪ヲ訴追スル主義ヲ一般原則トシテ認ムル國ノ領域

内ニ在ル者ハ右犯罪カ當該領域内ニ於テ犯サレタル場合ト同様ニ訴追シ處罰セラルヘシ

- 二、訴追ノ義務ハ犯罪人ノ引渡カ請求セラレタルコト及被請求國カ犯罪ト關係ナキ何等カノ理由ニ依リ被告人ヲ引渡シ得ザルコトヲ條件トス

### 第五條

- 一、本條末項ノ規定ヲ留保シ第一條第二項(イ)、(ハ)、(ニ)及(ホ)ノ各號ニ掲ゲラルル犯罪ハ締約國ノ何レカノ間ニ締結セラレ又ハ今後締結セラレベキ一切ノ犯罪人引渡條約中ニ引渡犯罪トシテ包含セララルモノト看做サルベシ
- 二、條約ノ存在又ハ相互條件ヲ以テ犯罪人引渡ノ條件トセザル締約國ハ前掲ノ犯罪ヲ今後相互間ニ於テ犯罪人引渡事件ト認ム
- 三、犯罪人引渡ハ被請求締約國ノ法令及犯罪人引渡ヲ請求スル國ト右請求ヲ受ケタル國トノ間ニ現存スル條約ニ從ヒ許容セラルヘシ



四、犯罪人引渡ノ請求ヲ受ケタル締約國ハ其ノ當該官憲カ訴追ノ理由ト爲リ又ハ刑ノ宣告ノ原因ト爲リタル行爲カ充分ニ重大ナラスト認ムルトキハ一切ノ場合ニ犯罪人ノ逮捕ヲ行ヒ又ハ之カ引渡ヲ許與スルコトヲ拒絶スル權利ヲ有スヘシ

第十條

第二條ニ掲ケラルル行爲ノ何レカノ遂行ニ充當セラレタル麻薬並ニ物及器具ハ押收及沒收セララルコトヲ得

第十一條

一、各締約國ハ國內法ノ範圍内ニ於テ第二條ニ掲ケラルル行爲ヲ防遏スル爲必要ナル一切ノ行動ヲ監視及調整シ且斯ノ如キ行爲ヲ犯シタル者ヲ訴追スル爲手續ヲ執ラルルコトヲ確保スルノ任ニ當ル中央應ヲ設クヘシ

四、犯罪人引渡ノ請求ヲ受ケタル締約國又ハ其ノ裁判所ニシテ逃亡犯罪人ノ訴追セラレ又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル犯罪カ充分ニ重大ナラザルモノト認ムルニ於テハ該締約國ハ如何ナル場合ニ於テモ逃亡犯罪人ノ逮捕ヲ行ヒ又ハ之カ引渡ヲ許容スルコトヲ拒ム權利ヲ有ス

第六條

各締約國ハ第一條ニ掲ケラルル犯罪ノ目的トナリタル麻薬並ニ右犯罪ノ何レカノ遂行ニ關シ使用セララルル生産品若ハ機械、器具及其ノ他ノ物件ヲ押收及沒收スル爲必要ナル法律上ノ規定ヲ設タルコトヲ約ス

第七條

一、本條約ニ依ル義務ノ履行ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ各締約國ハ若シ既ニ之ヲ設ケ居ルニアラザレバ國內法ノ範圍内ニ於テ第一條ニ掲ケラルル犯罪ヲ防遏シ且斯ノ如キ行爲ヲ犯シタル者ヲ訴追スル爲手續ヲ講ズルコトヲ確保スル爲ニ必要ナル行動ノ監視及調整ノ任ニ

二、右中央應ハ

- (イ) 麻薬ヲ取扱フ他ノ公ノ機關又ハ團體ト密接ナル連絡ヲ保ツヘク
- (ロ) 第二條ニ掲ケラルル行爲ノ調査及防遏ヲ容易ナラシムルヘキ一切ノ情報ヲ集中スベク
- (ハ) 他國ノ中央應ト密接ナル連絡ヲ保ツヘク且之ト直接ニ通信スルコトヲ得ヘシ
- 三、締約國ノ政府カ聯邦制度ナルトキ又ハ政府ノ行政權カ中央政府ト地方政府トニ分配セララルトキハ第一項ニ規定セララルル監視及調整並ニ第二項(イ)及(ロ)ニ規定セララルル義務ノ履行ハ現ニ實施中ノ憲法又ハ行政ノ制度ニ從ヒ組織セララルヘシ

四、本條約カ第十八條ニ依リ何レカノ領域ニ適用セララルトキハ本條ノ規定ノ適用ハ當該領域内ニ又ハ當該領域ノ爲ニ設ケラレ且必要ノ

當ル中央應ヲ設クベシ

二、右中央應ハ

- (イ) 麻薬ヲ取扱フ他ノ公ノ機關又ハ團體及他國ノ中央應ト密接ナル連絡ヲ保ツベク
- (ロ) 第一條ニ掲ケラルル犯罪ノ調査及防遏ヲ容易ナラシムベキ一切ノ情報ヲ集中スベク
- (ハ) 他國ノ中央應ト直接ニ通信スルコトヲ得
- 三、締約國ノ政府ガ聯邦制度ナルトキ又ハ政府ノ行政權ガ中央政府ト地方政府トニ分配セララルトキハ第一項ニ掲ケラルル監視及調整並ニ第二項(イ)及(ロ)ニ掲ケラルル義務ハ地方政府ノ管轄又ハ行政權ノ範圍ニ專ラ屬スル事項ニ關シテハ地方中央應ヲ介シテ之ヲ行フコトヲ得

四、本條約ガ第……條(殖民地條項)ニ依リ何レカノ領域ニ適用セララルトキハ本條ノ義務ハ當該領域内ニ又ハ當該領域ノ爲ニ設ケラ



場合ニハ其ノ本土ニ於ケル中央應ト連絡シテ  
行動スル中央應ノ設置ニ依リ確保セラルルコ  
トヲ得ヘシ

五、中央應ノ權限及職分ハ千九百三十一年ノ麻  
藥ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約第十五  
條所定ノ特別行政機關ニ委任スルコトヲ得

### 第十二條

一、中央應ハ第二條ニ掲ケラルル行爲ノ防遏及  
處罰ヲ容易ナラシムル爲出來得ル限り外國ノ  
中央應ト協力スヘシ

二、中央應ハ其ノ有益ト信スル範圍内ニ於テ左  
記ヲ關係アル一切ノ他ノ國ノ中央應ニ通告ス  
ヘシ

(イ) 進行中又ハ計劃中ノ取引ニ關シ一切ノ調  
査及行動ヲ行フコトヲ可能ナラシムル情報

(ロ) 不正取引者ノ動靜ヲ監視スル爲其ノ身分  
及人相ニ關シ中央應カ入手シ得タル證憑

(ハ) 麻藥ノ密造所ノ發見

### 第十三條

一、第二條ニ掲ケラルル犯罪ニ關スル司法事務  
共助囑託書ノ送致ハ左記ノ方法ニ依リ行ハル  
ヘシ

(イ) 成ルヘク各國主務官憲間ノ直接通信場合  
ニ依リテハ中央應經由

(ロ) 二國司法大臣間ノ直接通信又ハ囑託國ノ  
他ノ主務官憲ヨリ被囑託國ノ司法大臣ヘノ  
直接送付

(ハ) 被囑託國ニ在ル囑託國ヘノ外交官又ハ領  
事館ノ仲介、司法事務共助囑託書ハ右外交  
官又ハ領事館ニ依リ被囑託國ノ指定スル官  
憲ニ送付セラルヘシ

二、各締約國ハ自國領域内ニ於テ施行セラルヘ

レ且必要アル場合ニハ其ノ本土ニ於ケル中央  
應ト連絡シテ行動スル中央應ニ依リ之ヲ行フ  
コトヲ得

五、中央應ノ權限及職分ハ千九百三十一年ノ麻  
藥ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約第十五  
條所定ノ特別ノ行政機關ニ委任スルコトヲ得

### 第八條

一、各中央應ハ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ノ禁遏  
及處罰ヲ容易ナラシムル爲出來得ル限り外國  
ノ中央應ト協力スヘシ

二、中央應ハ其ノ有益ト信ズル範圍内ニ於テ左  
記ヲ關係アリト認メララルル他ノ國ノ中央應ニ  
通告スベシ

(イ) 進行中又ハ計畫中ノ取引ニ關シ必要ナル  
一切ノ調査及行動ヲ行フコトヲ可能ナラシ  
ムル情報

(ロ) 不正取引者ノ動靜ヲ監視スル爲其ノ身分  
及人相ニ關シ中央應カ入手シ得タル精確ナ  
ル記述

(ハ) 麻藥ノ密造所ノ發見

### 第十條

一、第一條ニ掲ゲラルル犯罪ニ關スル司法事務  
共助囑託書ノ送致ハ左記ノ方法ニ依リ行ハル  
ベシ

(イ) 各國主務官憲間ノ直接通信又ハ中央應ヲ  
經由若ハ

(ロ) 二國司法大臣間ノ直接通信又ハ囑託國  
ノ他ノ官憲ヨリ被囑託國ノ司法大臣ヘ直接  
送付若ハ

(ハ) 被囑託國ニ在ル囑託國ノ外交官又ハ領事  
館ノ仲介  
右外交官又ハ領事官ハ司法事務共助囑託書  
ヲ權限アル司法官憲ニ又ハ被囑託國ノ政府  
ニ依リ指定セラルル官憲ニ直接送付シ且右  
官憲ヨリ司法事務共助囑託書ノ施行ヲ證明  
スル文書ヲ直接受領スベシ若ハ

(ニ) 外交機關ヲ經由スルコト



キ司法事務共助囑託書カ外交機關ヲ經由シテ  
送致セラルルコトヲ希望スル旨ヲ他ノ締約國  
ニ宛テラレタル通告ニ依リ聲明スルコトヲ得  
三、第一項(ハ)ノ場合ニ於テハ同時ニ司法事務共  
助囑託書ノ謄本一通ハ囑託國ノ外交官又ハ領  
事官ニ依リ被囑託國ノ外務大臣ニ送付セラル  
ヘシ

四、別段ノ協定ナキ限り司法事務共助囑託書ハ  
被囑託官憲ノ國語又ハ關係國間ニ協定セラレ  
タル國語ヲ以テ作成セラルヘシ

五、各締約國ハ前記ノ送致方法ノ一又ハ二以上  
ニシテ他ノ各締約國ノ司法事務共助囑託書ニ  
關シ自國ノ承認スヘキモノヲ他ノ各締約國ニ  
通告スヘシ

六、締約國カ右通告ヲ爲ス迄司法事務共助囑託  
書ニ關スル該國ノ現行手續ハ維持セラルヘシ

七、司法事務共助囑託書ノ施行ハ鑑定費ヲ除ク  
ノ外手数料又ハ他ノ費用ノ支拂ヲ必要トセサ  
ルヘシ

八、本條ハ締約國カ刑事事件ノ證據制度ニ關シ  
自國法令ト異ル取極ヲ承認シ又ハ自國法令ノ  
範圍ヲ超エテ司法事務共助囑託書ヲ施行スル  
ノ約束ヲ成スモノト解セラル、ヲ得サルヘシ

第十四條  
締約國フ本條約參加ハ國際法ノ問題トシテノ刑  
事管轄權ノ一般問題ニ對スル該締約國ノ態度ニ  
影響ヲ及ボスモノト解セラルルコトナカルヘシ

第十五條  
本條約ハ第二條及第五條ニ掲ケラルル行爲カ各  
國ニ於テ國內法ノ一般規定ニ從ヒテ定義セラレ  
訴追セラレ及處罰セラルヘキノ主義ニ影響ヲ及  
ボスコトナシ

第十六條

二、(イ、ロ及ハ)ノ場合ニ於テハ同時ニ司法事務  
共助囑託書ノ謄本一通ハ囑託國ノ外交代表者  
ニ依リ被囑託國ノ外務大臣又ハ外務大臣ニ依  
リ指定セラルル他ノ官憲ニ常ニ送付セラルベ  
シ

三、別段ノ協定ナキ限り司法事務共助囑託書ハ  
囑託官憲ノ國語ヲ以テ作成セラルベシ但シ被  
囑託國ハ囑託官憲ニ依リ認證セラルル自國語  
ノ譯文ヲ請求スルコトヲ得

四、各締約國ハ前記ノ送致方法ノ一又ハ二以上  
ニシテ他ノ各締約國ノ司法事務共助囑託書ニ  
關シ自國ノ承認スベキモノヲ他ノ各締約國ニ  
通知スベシ

五、右通告ガ締約國ニ依リ爲サル迄ハ司法事  
務共助囑託書ニ關スル該國ノ現行手續ハ引續  
キ有效タルベシ

六、司法事務共助囑託書ノ施行ニ付テハ鑑定費  
ヲ除クノ外手数料又ハ費用ノ支拂ヲ要スルコ  
トナカルベシ

七、本條ハ締約國ガ刑事事件ニ付其ノ法律ニ反  
スル證據ノ形式又ハ方法ヲ採用シ又ハ其ノ法  
律ノ範圍ヲ超エテ司法事務共助囑託書ヲ施行  
スルノ約束ヲ成スモノト解セラルルコトナカル  
ベシ

第十一條  
本條約ヘノ締約國ノ參加ハ國際法ノ問題トシテ  
ノ刑事管轄權ノ一般問題ニ對スル該締約國ノ態  
度ニ影響ヲ及ボスモノト解セラルルコトナカル  
ヘシ

第十二條  
本條約ハ各國ニ於テ第一條ニ掲ゲラルル犯罪ガ  
國內法ノ一般規定ニ從ヒテ定義セラレ、訴追セ  
ラレ及處罰セラルベキノ主義ニ影響ヲ及ボスコ  
トナシ

第十三條



締約國ハ國際聯盟事務總長ヲ通シ本條約實施ノ爲公布セラレタル法律及規則並ニ其ノ領域内ニ於ケル條約ノ運用ニ關スル年報ヲ互ニ送付スヘシ

最終義定書

一、解釋

一、本條約ノ規定特ニ第二條及第五條ノ規定ハ故意ナクシテ行ハレタル行爲ニ適用セラレサルモノトス

二、第十五條ハ本條約カ特ニ情狀酌量制度ヲ規律スル締約國ノ自由ヲ何等害スルモノニアラストノ意義ニ解釋セラルヘシ

二、勸告

三、會議ハ必要アル場合ニハ本條約ノ爲ニ特別警察制度ヲ設置センコトヲ締約國ニ勸告ス

四、會議ハ阿片及危險藥品取引諮問委員會カ本條約ニ依リ規定セラレタル國際協力ヲ確保シ、改良シ及發送セシムル爲締約國ノ中央廳代表者會合ノ望マシキヤ否ヤヲ審査シ且必要

各締約國ハ國際聯盟事務總長ヲ通シ本條約實施ノ爲公布セラレタル法律及規則ヲ互ニ通知シ且同事務總長ニ對シ其ノ國ノ領域内ニ於ケル條約ノ運用ニ關スル年報ヲ提出スベシ

第九條

阿片諮問委員會ハ前條ニ規定セラレタル國際協力ヲ確保シ、改良シ及發送セシムル爲締約國ノ中央廳代表者會合ノ開催セラルベキコトヲ望マ

アル場合ニハ此ノ點ニ付國際聯盟理事會ニ對シ意見ヲ表明センコトヲ勸告ス

シキヤ否ヤヲ時々審査シ且必要アル場合ニハ此ノ點ニ付意見ヲ表明センコトヲ要請セラルベシ



〔議案〕

諮問第一號

臺灣生藥株式會社在庫「コカイン」處分ノ件

諮問第二號

朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ニ關スル件

報告第一號

支那ニ於ケル阿片麻藥對策ニ關スル件

報告第二號

國際「聯盟」トノ協力終止ニ關スル件

報告第三號

國際「麻藥原料制限準備會議」經過ニ關スル件

臺灣生藥株式會社在庫「コカイン」處分ノ件

臺灣生藥株式會社ノ在庫「コカイン」二千五百餘瓦ニ付テハ左ノ方針ニ依リ處分スルコトトス

一、島内消費及内外移出ノ外滿洲國及支那ニ於ケル正當需要ニ充ツルコトニ依リ概ネ向フ三年間ニ消費スルコト

二、右ノ期間臺灣生藥株式會社ノ製造量ハ前項ノ計畫實施上適當ト認ムル限度ニ止ムルコト

右諮問ス

昭和十三年十二月十日

拓務大臣  
外務大臣



臺灣總督府ニ於テハ從來臺灣生藥株式會社ニ對シ粗製「コカイン」及鹽酸「コカイン」併セテ一千瓦以内ノ製造ヲ許可シ來リタル處最近ニ至リ之ガ拂出豫想ノ如クナラス爲ニ本年ニ至リ同會社ノ在庫量ハ粗製「コカイン」一、四三四瓦、鹽酸「コカイン」一、〇七九瓦トナリ此ノ際之ガ處分ニ付何等カノ對策ヲ樹立スルノ必要ヲ生ジタリ依ツテ關係當局協力シテ内外地、滿洲國、支那ニ於ケル正當需要ニ充ツルタメ概ネ向フ三年間毎年粗製「コカイン」三一〇瓦、鹽酸「コカイン」四九五瓦ヲ搬出スルコトニ依リ右在庫品ヲ消費スルコトトシ其ノ間同會社ノ製造量ヲ本計畫實施上必要ト認ムル程度ニ減産セシメ處分ノ完全ナル遂行ヲ期セントス

一、昭和七年以降臺灣生藥ニ於ケル鹽酸「コカイン」及粗製「コカイン」ノ製造量、輸移出量(各地域別)在庫量及消費量ノ各年別表

(一)製造量

イ、粗製「コカイン」

品名	昭和七年	八年	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年	摘要
粗製コカイン	五三、〇〇 KG	五七、三六 KG	五三、七五 KG	八五、〇三 KG	八九、六三 KG	四九、八七 KG	—	一三年八月二十日迄

ロ、鹽酸コカイン

品名	昭和七年	八年	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年	摘要
鹽酸コカイン	三〇、〇〇 KG	八五、七五 KG	三五、七五 KG	一四、一八 KG	一五、〇〇 KG	四六、三三 KG	五四、一四 KG	一三年八月二十日迄

(二)輸移出量

イ、粗製コカイン

品名	地域	昭和七年	八年	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年	摘要
粗製コカイン	内地	三三、〇〇 KG	四三、一〇 KG	四七、七五 KG	三六、五九 KG	六六、三三 KG	三八、七七 KG	二六、七五 KG	一三年四月三九、三共宛移出ノ分ヲ含ム
計	朝鮮	三三、〇〇 KG	四三、一〇 KG	四七、七五 KG	三六、五九 KG	六六、三三 KG	三八、七七 KG	二六、七五 KG	内地及朝鮮ノ外

ロ、鹽酸コカイン

品名	地域別	昭和七年	八年	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年	摘要
鹽酸コカイン	朝鮮	一、八〇 KG	一、〇〇 KG	一、二〇 KG	一、一一 KG	〇、〇一 KG	〇、〇一 KG	—	一三年八月二十日迄
計	關東州	一、八〇 KG	一、〇〇 KG	一、二〇 KG	一、一一 KG	〇、〇一 KG	〇、〇一 KG	—	—



鹽酸コカイン	滿洲	
支那	10,000	
計	6,000	16,000
	19,000	
	18,000	
	12,500	
	11,000	
	10,000	
	5,000	
	6,500	
	3,700	
	1,000	

(三)島内販賣(又ハ消費)量  
イ、粗製コカイン

品名	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
粗製コカイン							50 KG

粗製「コカイン」五一〇KGトハ生藥會社ニ於テ在庫品中鹽酸「コカイン」ノ製造ニ使用

ロ、鹽酸コカイン

品名	區分	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
鹽酸コカイン	島内販賣	5,560 KG	6,535 KG	4,765 KG	6,500 KG	10,200 KG	8,100 KG	5,000 KG

備考 一三年ハ十月二十日迄

(四)在庫量

イ、粗製コカイン

品名	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
粗製コカイン	1,365 KG	1,770 KG	1,625 KG	2,000 KG	2,125 KG	2,331 KG	2,434 KG

備考 一三年ハ十月二十日迄

ロ、鹽酸コカイン

品名	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
鹽酸コカイン	8,000 KG	5,000 KG	5,200 KG	2,700 KG	2,000 KG	2,600 KG	1,000 KG

備考 一三年ハ十月二十日迄

二、各地域別搬出豫定數量

(イ)鹽酸「コカイン」(在庫量一、〇七九庇)

- 島内消費 四〇庇
- 朝鮮移出 二〇庇
- 關東州移出 三五庇



滿洲國輸出

一〇〇疋

支那輸出

三〇〇疋

計

四九五疋

(ロ)粗製「コカイン」(在庫量一、四三四疋)

内地移出

三〇〇疋

朝鮮移出

一〇疋

計

三一〇疋

朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ニ關スル件

一、朝鮮總督府保管生阿片ハ昭和八年四月十一日ノ閣議決定ニ依リ暫定措置トシテ之ヲ滿洲國政府ニ讓渡スルコトヲ容認セラレタル處今後朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ハ右閣議決定ニ依リ臺灣總督府及關東局ノ專賣阿片ノ資料トシテ供給スル外滿洲國專賣制度ニ協力スル爲之ヲ滿洲國政府ニ讓渡スルヲ得ルコト

二、前項ニ依リ臺灣總督府、關東局及滿洲國政府ニ供給又ハ讓渡スル生阿片ノ量及其ノ生産ニ必要ナル罌粟栽培面積ハ關係官廳間ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スルコト

右諮問ス

昭和十三年十二月十日

拓務大臣  
外務大臣

說明

滿洲國政府ニ於テ昭和八年一月十一日ヨリ阿片專賣制度ヲ實施シタルニ伴ヒ之ニ協力スル爲昭和八年四月十一日ノ閣議決定ニ依リ朝鮮總督府保管生阿片ヲ暫定措置トシテ同國政府ニ讓渡スルコトヲ容認セラレタル處最近同國ニ於ケル阿片專賣制度ノ整備等ニ伴ヒ同制度ノ實施ニ必要ナル生阿片ノ供給不足スルニ至リタルト本邦以外ヨリノ生阿片ノ輸入量ノ減少ヲ圖ランガ爲今般朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ノ讓渡方同國政府ヨリ申越アリタリ朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ハ前記閣議決定ニ依リ主トシテ之ヲ臺灣總督府及關東局ノ專賣阿片ノ資料トシテ供給スルノ方針ナル處滿洲國專賣制度ニ協力スル爲之ヲ同國政府ニモ讓渡シ得ルコトトスルヲ適當ト認ム

而シテ朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ノ臺灣總督府、關東局及滿洲國政府ニ對スル供給又ハ讓渡ノ數量竝ニ其ノ生産ニ必要ナル罌粟栽培面積ハ隨時關係官廳間ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スルコトトスルヲ適當ノ方策ト認ム

追テ本件ハ阿片委員會決議後別紙案ニ依リ閣議決定ヲ經テ實施スルヲ適當ト認ム







增本甲吉、宮田爲益、吉武和、塚原政繁、安香愛二各幹事  
國吉文雄、保見吉亮、寺田春己各書記

秋田會長 開會ニ當リマシテ一言御挨拶ヲ申上ゲマス、御承知ノ如ク私ガ此ノ度厚生大臣ノ重任ヲ拜シマシタノデ、自然之ニ伴ヒマシテ本會ノ會長ノ任ニ就クコトニナリマシタ、併シ甚ダ未熟デ、而シテ専門ノ知識等ヲ持チマセヌノデ、今後事務ヲ遂行致シテ參リマスル上ニ於テハ、全ク皆様ノ御援助ニ俟タナケレバナラナイノデアリマス、宜シク御願ヲ致シタイノデアリマス

是ヨリ議事ニ入りタイト思ヒマス、本日ノ議案ハ御手許ニ差上ゲテ置キマシタ通りデゴザイマス、是ヨリ議案ノ順序ニ依リマシテ、諸門第一號内地製薬用原料トシテ粗製「モルヒネ」ヲ滿洲國政府ヨリ購入ノ件、此ノ案ニ付キマシテ本省衛生局長ニ御説明ヲ求メマス、此ノ際書記ヲシテ議案ヲ朗讀致サセマス

〔國吉書記朗讀〕(別紙參照)

林委員 ソレデハ私カラ一應御説明ヲ申上ゲマス、内地ノ麻薬類ノ製造數量ハ、御承知ノ如ク一定ノ限度ガアルノデアリマスガ、是ガ需要方面ハ年々増加致シテ居リマシテ、殊ニ從來二千五百瓦製造シテ居リマシタ燐酸「コデイン」ニ付キマシテハ、其ノ需要ガ益々多イノデアリマシテ、今年既ニ

其ノ必要ニ迫ラレマシテ、特ニ豫備金ノ支出ヲ仰ギマシテ、原料トシテ臺灣總督府ニ交渉ノ上、同總督府專賣局保管ノ粗製「モルヒネ」一千三百一十瓦ヲ購入致シ、約八百八十瓦ノ追加製造ヲ致シマシテ、今年度ノ需要ニ緊急間ニ合ハセテ參ツタノデアリマス、所ガ明年度ニ於キマシテモ本年ト同様ノ額ヲ製造スルノ必要ニ迫ラレ、又別ニ阿片ヲ材料トシテ作ツテ居リマス鹽酸「エチルモルヒネ」ニ付キマシテモ、只今マデハ五十瓦ヲ作ツテ居ツタノデアリマスケレドモ、現在ノ要求カラ致シマシテ、之ヲ八十瓦マデ増産スル必要ニ迫ラレテ居リマス、其ノ他又鹽酸「モルヒネ」、鹽酸「ヂアセチルモルヒネ」ノ如キニ於キマシテモ、現在ノ需要カラ致シマスレバ、尙ホ増産シナケレバナラナイ情況ニナツテ居ルノデアリマス

是等麻薬類ノ原料トシテ使ハレマス物ハ内地産ノ阿片ソレカラ外國産ノ阿片、臺灣總督府ニ需メテ居リマスル粗製「モルヒネ」是等ガ原料ニナツテ參ルノデアリマスガ、右ノ中内地産阿片ニ付キマシテハ既ニ昭和十二年度ニ於キマシテ増産ヲシナケレバナラナイト云フ情況ニナリマシタノデ、昭和十三年度以降「モルヒネ」含有量一〇%阿片ト致シマシテ、三萬五千瓦ヲ目標トシテ増産ノ計畫ヲ一應立テタノデアリマス、同時ニ會計年度中ニ於キマシテ、買上賠償金率ヲ從來「モルヒネ」ノ含有量一%ノモノ一瓦當リ二圓三十錢デアリマシタモノヲ二圓八十錢ニ値上ゲテ致シマシテ、栽培反別ノ増加ヲ計ルト云フ方法ヲモ講ジタノデアリマスガ、恰モ支那事變ノ勃發ニ遭ヒマシテ、爾



來農村ニ於ケル勞力ノ不足、ソレカラ一般農作物ノ價格ガ昂騰ヲ見ルニ至リマシテ、是等ノ爲比較的勞力ガ多クテ且收益率ノ低イ賠償價格ヲ以テスル罌粟栽培ハ次第ニ其ノ面積ヲ減少シテ行クヤウニナツテ麥ツタノデアリマス、殊ニ我國ニ於ケル阿片ノ全産額ノ約九割五分ヲ占メテ居リマス大阪府及ビ和歌山縣ニ於ケル栽培者中ヨリ、是等ノ地ガ大都市ヲ控ヘテ居ルト云フヤウナ關係カラ、最モ利潤ノ多イ蔬菜、煙草、小麥、除蟲菊等ノ栽培ニ轉向スル者ガ出テ麥リマシテ、阿片ノ生産高ハ年々歲々著シク減ツテ行クト云フヤウナ情況ニナリマシテ、當初三萬五千瓦生産シタイト思ツテ居リマシタモノガ、三萬瓦ニモ充タナイト云フ状態ニナツテ麥ツタノデアリマス、ソコデ阿片ノ減産ガ、我國醫療上極メテ重要ナル性質ニアリマスノニ鑑ミマシテ、賠償金率ノ引上ヲ計畫スルト共ニ種子ノ配布ノ斡旋ヲ致シマス等是ガ對策ヲ講ジテ麥ツテ來マシタガ、到底此ノ勢ヲ防グコトハ出來ナイ情況ニアルノデアリマス、更ニ他方從來不足原料ノ補足ト致シマシテ、年々相當量ノ輸入ヲ致シテ居リマシタ外國産阿片及ビ臺灣産粗製「モルヒネ」ニ付キマシテモ、事變前マデ年々一萬瓦以上輸入シタ外國阿片ガ、爲替管理ノ強化ニ伴ヒマシテ全ク輸入不可能トナツタノデアリマス、又臺灣ニアリマス先程申上ゲマシタ粗製「モルヒネ」モ一時ハ相當在庫量ガアリマシタノデ、年々内地ヘ向ケテ一千八百瓦ツツ供給ヲ受ケテ居ツタノデアリマス、所ガ臺灣ニ於ケル在庫量竝ニ製造數量ノ減少ト共ニ、内地ニ於テハ此ノ少イ臺灣ノ原料ニ被サツテ行カナケレバナラナイト云フ關係ガ出

來マシタニモ係ラズ内地ノ原料不足ノ關係アリ再三ニ互ツテ臨時的ニ購入ヲ致シタノデアリマス、此ノ爲ニ初メノ計畫デハ臺灣ノ粗製「モルヒネ」モ昭和十六年度マデ内地ノ必要ヲ充タシ得ル豫定デアリマシタモノガ、遂ニ明年度以降ハ内地政府ニ向ツテ供給セラルベキモノガ全クナツテ來タヤウナ状態ニナツテシマヒマシタ

斯ウ云フ情況デアリマスノデ、此ノ際滿洲國專賣總局ニ於テ生産セラレマスル粗製「モルヒネ」ヲ同國政府ト協定ノ上毎年一定量ヲ輸入致シマシテ、内地原料ヲ補填シタイト考ヘル次第デゴザイマス、尙ホ其ノ數量ニ付キマシテハ、本年度約六百瓦、明年度以降二千瓦ノ豫定デアリマスガ、是ハ豫算竝ニ兩者ノ間ニ於ケル價格等ノ關係ニ於キマシテ、多少ノ變動ヲ免レナイト存セラレマスノデ其ノ節ハ關係官廳間ノ協議ニ依リマシテ決定致スコトト致シタイト存ジテ居リマス、且又右滿洲國ヨリ受入致シマスコトニ付テ生ズベキ不足分ニ付キマシテハ、將來關東廳ニモ煙膏製造ノ關係カラ相當粗製「モルヒネ」ガ副生スル情況ニアルカト存セラレマスルノデ、其ノ機會ニ於テハ改メテ委員會ノ議決ヲ經マシテ、關東廳、其ノ他ヨリモ購入スルヤウニ致シタイト存ジテ居リマス、此ノ點ハ豫メ御含ミヲ願ヒタイト存ジマス

秋田會長 本案ニ付キマシテ、御質疑ナリ又ハ御意見ガアリマスレバ、御發言ヲ願ヒマス、——別段御發言モナイヤウデスカラ、採決致シタイト存ジマス、原案ノ通り可決確定致シマシテ御異議ハア



「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

秋田會長 御異議ナシト認メマス、ソレデハ原案ノ通り可決確定致シマシタ

次ニ、報告第一號、燐酸「コデイン」増産ノ爲、厚生省ニ於テ臺灣總督府ヨリ購入スル粗製「モルヒネ」ノ數量ヲ増加シタル件、之ニ付テ厚生省衛生局長ノ報告ヲ求メマス

林委員 只今申上ゲマシタ通り、本年度燐酸「コデイン」増産ニ付キマシテ、特ニ豫備金ノ支出ヲ見マシテ、臺灣總督府粗製「モルヒネ」ヲ購入致シタノデアリマスガ、燐酸「コデイン」ニ付キマシテハ、最近軍需其ノ他一般ノ需要ガ殊ニ増加シ來リマシテ、爲ニ市場ニ於テハ一時全ク涸渇ヲ致スヤウナ狀況ニナツテ參リマシテ、國民醫療上ニモ支障ヲ來スト言フヤウナ有様ニナツテ來マシタカラ緊急對策ト致シマシテ、是ガ増産ヲ計畫シマシタガ、内地關係ノ原料ヲ以テシテハ到底足りマセヌカラ、當時臺灣總督府專賣局在庫ニ係ル粗製「モルヒネ」ノ中カラ、原料トシテ一千三百一十一吨（純「モルヒネ」含有量トシテハ八百七十九吨）ノ讓渡ヲ受クルコトト致シマシテ、臺灣側ノ承諾ヲ得マシタカラ、曩ニモ申シ上ゲマシタ通り、豫備金ノ支出ヲ仰ギマシテ、且ツ閣議ノ決定ヲ經テ緊急處置ヲ講ジタノデアリマス

元來本件ハ其ノ性質上カラ申シマスルト、本委員會ニ諮問致シマシテ、其ノ決定ニ依ツテ處置ス

ベキガ妥當ダト考ヘタノデアリマスルガ、當時ノ情勢ニ於キマシテハ、一日モ之ヲ忽ニシ得ナイ狀況ニアリマシタノデ、左様ナ措置ヲ執リマシテ、八月十二日厚生省ニ於キマシテ本會ノ幹事者ヲ開催ノ上關係官應係官ノ御參集ヲ願ヒマシテ、其ノ承認ヲ得タ上直チニ實行致シタノデアリマス、茲ニ當時ノ實情ヲ申上ゲ、委員諸君ノ御諒解ヲ願ヒタイト存ズル次第デアリマス

秋田會長 何か御質疑ガアリマスレバ、御發言ヲ願ヒマス、——別段御質疑モナイヤウデアリマスルカラ、此ノ程度ニ止メマス

引續キ報告第二號、朝鮮ニ於ケル罌粟栽培面積擴張ニ關スル件ヲ議題ト致シマシテ、拓務省笠井參與官ノ御報告ヲ求メマス

笠井委員 拓務省カラ説明サセテ戴キマス

報告第二號、朝鮮ニ於ケル罌粟栽培面積擴張ニ關スル件ニ付テ御説明申上ゲマス

朝鮮ニ於キマシテハ、從來相當面積ニ亘リマシテ、罌粟栽培ガ行ハレ、之ニ依ツテ生産セラレマシタル生阿片ハ、昭和八年四月、昭和十三年十二月等、屢次ノ阿片委員會ノ議決及閣議決定ニ基キマシテ、之ヲ滿洲國、臺灣總督府及關東局ニ讓渡又ハ供給スルコトト相成ツテ居ルノデアリマス

而シテ、是ガ讓渡又ハ供給ノ數量及其ノ生産ニ必要ナル朝鮮内ノ罌粟栽培面積ハ、需給ノ推移ニ應ジマシテ、隨時之ヲ變更スルノ必要ガアリマスノデ、昨年ノ十二月十二日ノ阿片委員會ニ於キマ



シテ「前述ノ數量及面積ハ、關係官廳間、即チ阿片委員會幹事會ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スルコト」ト、サウ言フ議決ヲ得テ今日ニ至ツタノデアリマス

昭和十四年度ニ於ケル朝鮮内ノ罌粟栽培面積ハ七千六百町歩デアリマシテ、之ニ依ツテ生産ヲ致シマスル生阿片ノ數量ハ

滿洲國ニ 六萬二千庇

臺灣總督府ニ 五千庇

關東局ニ 一萬三千庇

ヲソレレ、讓渡又ハ供給ヲ致スコトニ取決メラレマシテ、昭和十五年度ニ於キマシテモ、本年ト同様ニ、ソレレ、讓渡又ハ供給ノ豫定デアリマシタ所ガ、時局ノ折柄外國產ノ阿片ノ輸入ヲ節約スル等ノ關係上、滿洲國、臺灣總督府及關東局ヨリ明年度以降更ニソレゾレ讓渡又ハ供給數量ガ増加ノ申出ガアリマシタノデ、是ガ供給ノ爲ニハ更ニ罌粟栽培ノ面積ヲ七千六百町歩ノ擴張ヲ必要トスルト言フコトニ相成ツタノデアリマスルガ、明年度朝鮮ニ於キマシテハ、五千町歩以上ノ罌粟栽培面積ヲ擴張スルコトハ極メテ困難ナル事情ニアリマスルノデ、朝鮮ニ於ケル罌粟栽培面積ハ昭和十五年度以降之ヲ五千町歩擴張致シマシテ、一萬二千六百町歩ト致スコトトシテ、本年十一月九日各關係官廳間ニ於テ協議決定致シタノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスルカラシテ、右御報告マデ

申上ゲタ次第デアリマス

秋田會長 御質疑ガアリマスレバ、御發言ヲ願ヒマス、——別段御質疑モナイヤウデアリマス、仍テ報告ハ御承認相成ツタモノト認メマス、今日ハ是デ散會致シマス、洵ニ御苦勞デゴザイマシタ

午後二時十分閉會



〔議案〕

諮問第一號

内地製薬用原料トシテ粗製「モルヒネ」ヲ滿洲國政府ヨリ購入ノ件

報告第一號

磷酸「コデイン」増産ノ爲厚生省ニ於テ臺灣總督府ヨリ購入スル粗製「モルヒネ」ノ數量ヲ増加シタル件

報告第二號

朝鮮ニ於ケル罌粟栽培面積擴張ニ關スル件

厚生省發衛第七八號

阿片委員會

内地製薬用原料トシテ粗製「モルヒネ」ヲ滿洲國政府ヨリ購入ノ件

一、厚生省ハ製薬原料トシテ粗製「モルヒネ」ヲ滿洲國政府ヨリ購入シ得ルコト

二、前項ニ依リ厚生省ガ滿洲國政府ヨリ購入シ得ル粗製「モルヒネ」ノ量其ノ他必要ナル事項ハ關係官應問ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スルコト

右諮問ス

昭和十四年十二月十四日

厚生大臣  
外務大臣



阿片ヲ原料トシ内地ニ於テ製造スル麻藥類ノ需要ハ漸次増加ノ趨勢ニ在リ殊ニ磷酸「コデイン」ハ從來年二、五〇〇疋ヲ製造シ來レルモ近時其ノ需要愈々多キヲ加ヘ到底市場ノ需要ヲ滿スコトヲ得ズ不取敢本年度ニ於テハ豫備金ノ支出ヲ仰ギ臺灣ヨリ粗製「モルヒネ」ヲ購入シ之ヲ原料トシテ相當量ノ増産ヲ行ヒ不足ヲ補ヒタルガ明年度以降ニ於テモ引續キ増産ノ要アリ其ノ他鹽酸「エチルモルヒネ」等ニ付テモ一般需要ニ伴ヒ夫々ノ増産ノ要アルニ拘ラズ現在内地ニ於ケル之ガ原料タル阿片ノ生産ハ事變下農村ニ於ケル勞力ノ不足他ノ農産物價トノ關係等ノ理由ニ依リ年々減産ヲ示シツ、アリテ今後内地ニ於ケル増反ニ依ル増産ハ全ク見込樹タザル實情ニ在リ而モ從來年々不足原料ノ補充トシテ購入シツ、アリタル臺灣産粗製「モルヒネ」モ再三ニ互リ臨時ニ購入セル爲在庫量モ極メテ少量トナリ明年度ニ至レバ皆無トナルノ現狀ニ在ルヲ以テ茲ニ新ニ滿洲國政府ヨリ同國ニ於テ生産スル粗製「モルヒネ」ヲ購入シ之ヲ内地製藥用原料ニ充テントス

尙購入スベキ數量ハ年々一致セザルヲ以テ其ノ都度之ヲ關係官廳間ニ於テ協議ノ上決定セントス

報告第一號

磷酸「コデイン」増産ノ爲厚生省ニ於テ臺灣總督府ヨリ購入スル

粗製「モルヒネ」ノ數量ヲ増加シタル件

磷酸「コデイン」ハ軍需要増加ノ爲今夏著シク品不足ヲ來シ國民醫療上支障ヲ見ントスルニ至リタル爲之ガ應急對策トシテ増産ヲ圖ルコト、シ取敢ズ臺灣總督府專賣局ヨリ粗製「モルヒネ」一、三一一疋(純「モルヒネ」トシテ八七九疋)ヲ増加讓受ケタリ

本件ニ關シテハ阿片委員會ニ諮問スベキモノト認メタルモ緊急ヲ要シタル爲關係官廳間ノ承認ヲ得タル上應急措置ヲ講ジタリ

報告第二號

朝鮮ニ於ケル罌粟栽培面積擴張ニ關スル件

昭和十三年十二月十二日阿片委員會決議決朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ニ關スル件第二項ニ依リ昭和十四年十一月九日阿片委員會幹事會ニ於テ左ノ議決ヲ爲セリ

一、朝鮮ニ於ケル罌粟栽培面積ハ昭和十五年度以降之ヲ五、〇〇〇町步擴張シテ一二、〇六〇町步ト爲スコト

〔參考〕

昭和十三年十二月十二日阿片委員會決議決朝鮮内ニ於テ

生産ニ係ル阿片ニ關スル件

一、朝鮮總督府保管生阿片ハ昭和八年四月十一日ノ閣議決定ニ依リ暫定措置トシテ之ヲ滿洲國政府ニ



讓渡スルコトヲ容認セラレタル處今後朝鮮内ニ於テ生産ニ係ル生阿片ハ右閣議決定ニ依リ臺灣總督府及關東局ノ專賣阿片ノ資料トシテ供給スル外滿洲國專賣制度ニ協力スル爲之ヲ滿洲國政府ニ讓渡スルヲ得ルコト

二、前項ニ依リ臺灣總督府、關東局及滿洲國政府ニ供給又ハ讓渡スル生阿片ノ量及其ノ生産ニ必要ナル罌粟栽培面積ハ關係官廳間ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スルコト



阿片委員會官制

(昭和六年三月三十一日)  
勅令第三八號

第一條 阿片委員會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應ジテ阿片及麻薬類ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ事項ニ付關係大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ厚生大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス會長事故アルトキハ厚生大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク厚生大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク厚生大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス